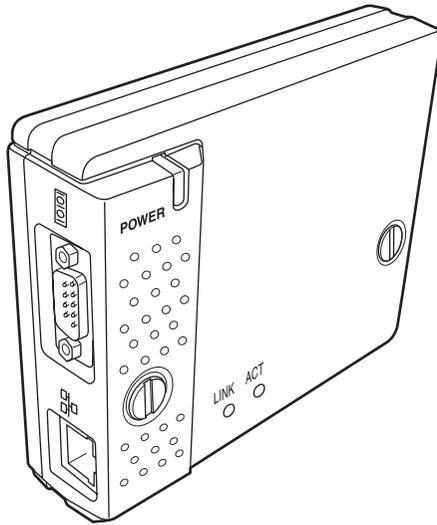


LV-NI02



Network Imager

Network Capture 3

Network Viewer 3

Network Communication

使用説明書

安全に正しくお使いいただくために

安全に関する重要な内容ですので、ご使用前によくお読みの上、正しくお使いください。

■絵表示について

この使用説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

内容をよく理解してから本文をお読みください。



警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

■絵表示の例



感電注意

△の記号は、注意（警告を含む）をうながす事項を示しています。
△の中に具体的な注意内容が描かれています。
(左の絵表示は感電注意を意味します。)



分解禁止

⊘の記号は、してはいけない行為（禁止事項）を示しています。
⊘の中や、近くに、具体的な禁止内容が描かれています。
(左の絵表示は分解禁止を意味します。)



電源プラグを
コンセントから抜け

●の記号は、しなければならない行為を示しています。
●の中に具体的な指示内容が描かれています。
(左の絵表示は電源プラグをコンセントから抜け、という指示です。)



警告

- 本製品を取り付け、使用する際は、必ずコンピュータメーカーおよび周辺機器メーカーが提示する警告・注意指示に従ってください。



- 本製品の取り付け / 取り外しをするときはコンピュータ、周辺機器の電源スイッチを OFF にし、電源プラグを AC コンセントから抜いてください。
電源プラグがコンセントに接続されたまま取り付け / 取り外しを行うと、感電および故障の原因になります。



- 本製品の分解や改造や修理を自分でしないでください。火災や感電、故障の原因になります。



- 煙が出たり変な臭いや音がしたら、プロジェクターおよび周辺機器の電源スイッチを切り、AC コンセントから電源プラグを抜き、販売店にご連絡ください。



- 本製品を落としたり、強い衝撃を与えたりしないでください。内部の部品が破損し、感電や火災、故障の原因になります。



- 本製品に付属するディスクは「CD-ROM」です。一般オーディオ用 CD プレーヤーでは絶対に再生しないでください。大音量によって耳に障害を被ったり、スピーカーを破損する恐れがあります。



注意

- 濡れた手で本製品に触れないでください。
コンピュータおよび周辺機器の電源プラグが AC コンセントに接続されているときは、感電の原因になることがあります。



ネットワークで使用する場合の安全上の注意

- プロジェクターより異常・警告メールを受信した場合、速やかにプロジェクターの点検を行ってください。異常のまま使用すると火災や事故の原因となる場合があります。
- ネットワークを利用し、プロジェクターを遠隔地に設置してご使用になるとき、定期的にプロジェクターの安全点検を行ってください。プロジェクターを遠隔地に設置する場合、設置する使用環境の変化について十分注意を払わなければなりません。設置した環境によっては、火災や事故の原因となります。

本製品使用上の注意

本製品の使用で生じるデータの破損・紛失、コンピュータの不具合など、コンピュータに生じる損害などについては一切当社では責任を負いません。

もくじ

第1章 はじめに	7
本製品の機能について.....	8
動作環境.....	11
ご使用の前に.....	12
第2章 セットアップ	15
セットアップの流れ.....	16
[1] 各部の名称とはたらき.....	17
[2] 設置とネットワークの設定.....	18
本製品の取り付け.....	18
LAN ケーブルの接続.....	19
ネットワークの設定.....	20
ネットワーク暗証番号の設定.....	22
スクリーン 10 キーパレットによる数値入力の方法.....	23
システム構成での注意.....	24
[3] ソフトウェアのインストール.....	25
Network Viewer & Capture 3 のインストール.....	25
File Converter 2 のインストール.....	27
第3章 基本操作・設定	29
プロジェクターの設定画面にログインする.....	30
1 IP アドレスを入力する.....	30
2 表示モードを選択しログインする.....	30
3 メイン設定画面の表示.....	31
操作・設定のしかた.....	32
初期設定をする.....	34
ネットワーク暗証番号を設定する.....	35
PJLink 及びパスワードの設定.....	35
日付・時刻を設定する.....	36
ネットワークの設定をする.....	37
E-mail の設定をする.....	38
警告メールの種類と内容 [例].....	40
SNMP の設定をする.....	42
第4章 プロジェクターの管理	45
プロジェクターの電源制御と状態の確認.....	46
プロジェクターを制御する.....	48
入力.....	48
システム.....	49
イメージ調整.....	50
サウンド.....	51
プロジェクターのメニューを操作する.....	51
PC 調整をする.....	52
プロジェクターをセッティングする.....	53
プロジェクターの状態を保存する.....	55
設定を保存する／消去する.....	55
保存項目を確認する.....	56
保存セットを適用する.....	56
タイマーを設定する.....	57
タイマー設定のしかた.....	57
タイマーの確認をする.....	58
タイマーイベントを変更する.....	58
プロジェクターの情報を見る.....	60
マルチ制御機能.....	62
複数のプロジェクターを一括制御／設定する.....	62

マルチ制御の開始／終了する	63
マルチ制御するプロジェクターを登録する	64
IP アドレス・プロジェクター名を確認する	64
マルチ制御の対象から除外・追加・削除する	65
プロジェクターの状態表示について	65
第5章 ネットワークキャプチャー	69
ネットワークキャプチャー機能とは	70
Network Capture 3 の起動	70
タスクバー上のコマンド	70
パラメータを設定する	71
リアルタイムキャプチャーを使う	72
コンピュータを登録する	72
[1] コンピュータから操作する	73
[2] Web ブラウザから操作する	74
[3] プロジェクターから操作する	75
高度な使用例	76
ネットワークコミュニケーションを使う	77
ネットワークコミュニケーションを使う前に設定すること	78
キャプチャー編集ウインドウの説明	79
ネットワークコミュニケーションの使い方	81
コミュニケーションを開始する	81
コミュニケーションに参加する	81
コミュニケーションから抜ける	81
コミュニケーションを終了する	81
キャプチャー画像の編集権限の取得と開放について	81
キャプチャー画像を編集する	82
ネットワークコミュニケーションの操作と状態変遷	84
強制モードを実行する	85
エラー情報	86
第6章 ネットワークビューワー	87
投映可能な画像データを作成する [Network Viewer 3]	88
[1] Network Viewer 3 (File Converter1) の使用方法	88
[2] Network Viewer 3 (File Converter2) の使用方法	92
プログラムファイルを作成する [Program Editor]	93
プログラムを作成する	93
画像の表示順序・時間を設定する	95
ネットワークビューワー機能を使う	98
[1] Web ブラウザから操作する	98
[2] プロジェクターから操作する	102
第7章 シリアルポートを使用する	105
シリアルポートの設定を行う	106
コントロール例	108
telnetを使う	110
第8章 付録	113
接続例	114
Web ブラウザの設定	116
OS/ ブラウザ個別設定例	117
製品仕様	121
ポート仕様	122
Q&A	123
保証とアフターサービス	132

第1章 はじめに

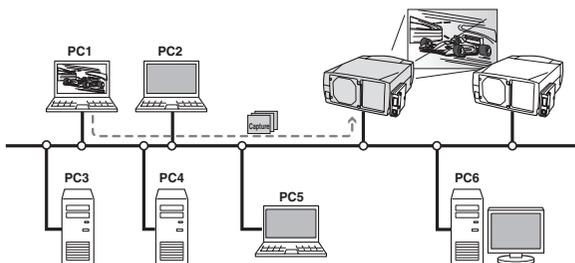
本製品の機能や動作環境について説明します。

1

本製品の機能について

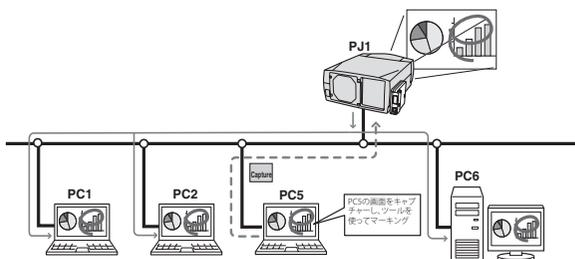
リアルタイムキャプチャー機能 (☞ p.72)

専用のユーティリティソフトウェアがインストールされたコンピュータのスクリーン画面をネットワークを介してプロジェクターで放映する機能です。



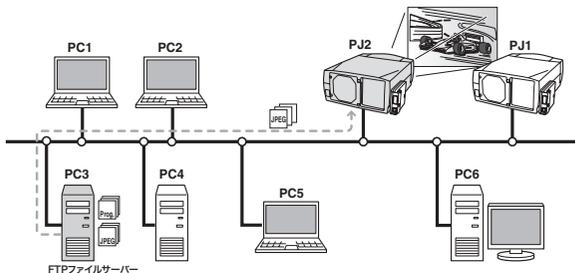
ネットワークコミュニケーション機能 (☞ p.77)

1台のコンピュータ画面のキャプチャー画像を複数のコンピュータ間で共有し、このキャプチャー画像上に描画ツールを使って文字や図形を書き入れ、コミュニケーションを取るモードです。



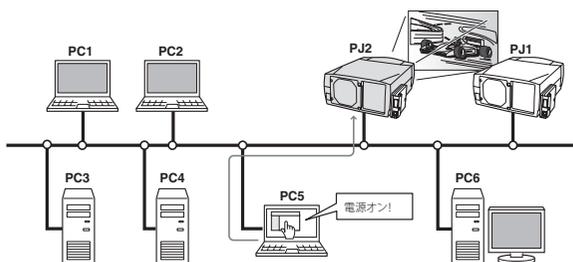
ネットワークビューワー機能 (☞ p.87)

ネットワーク上のファイルサーバーに保管されている画像データを取得し、プロジェクターで自動放映する機能です。



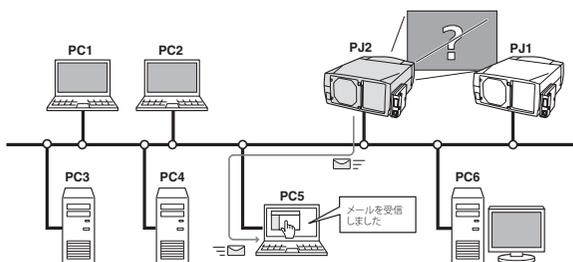
Web マネージメント機能 (p.45)

プロジェクターの状態確認や電源コントロールなどの操作、設定を、Web ブラウザを使用してコンピュータから遠隔管理することができます。



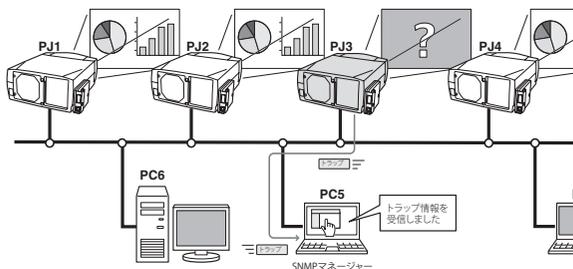
電子メールによる各種警告通知機能 (p.38)

プロジェクターにランプ点灯異常や、電源異常が発生したときになどに、指定されたアドレスに電子メールを自動的に送信します。メッセージには異常発生の原因などのアドバイスが記載されます。復帰までの迅速な対応が可能で



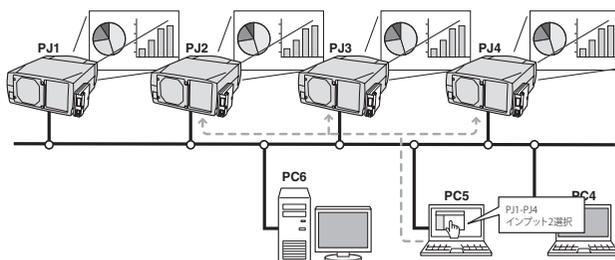
SNMP エージェント機能 (p.42)

プロジェクターの情報を SNMP マネージャーへ提供する機能です。プロジェクターの状態を SNMP マネージャーソフトウェアで管理することができます。



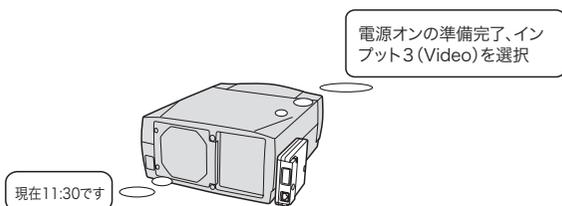
マルチ制御機能 (p.62)

複数台の 프로젝ターを一括してコントロールしたり、同一画像を投映することができます。



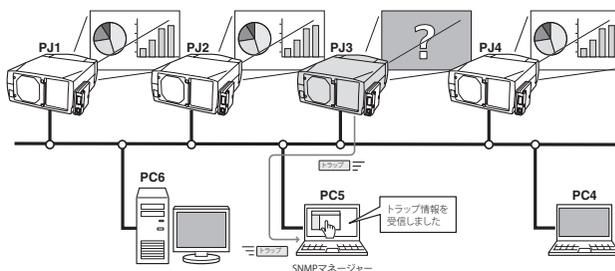
タイマー機能による自動運転機能 (p.57)

設定した日時、或いは曜日の時刻、に 프로젝ターの自動起動、終了をおこないます。



SNMP マネージャー機能

ネットワーク上の 프로젝ターの状態を SNMP プロトコルを使用して管理するマネージャー機能です。管理 PC へ専用の SNMP マネージャーソフトウェアをインストールします。詳細は別冊の「PJ Network Manager 使用説明書」をご覧ください。



動作環境

本製品を使用してプロジェクターの設定や管理を行うには、以下のコンピュータ、ネットワーク環境、及びアプリケーションソフトウェアが必要です。

		スタンダードモード* ¹
オペレーティングシステム		Windows 98、Windows Me、Windows NT4.0SP6、Windows 2000、Windows XP
コンピュータ環境	推奨 CPU	Pentium III 900MHz 相当以上
	メモリ	最低 64MB 以上 / 推奨 128MB 以上 (WindowsXP は 128MB 以上)
	ハードディスクの空き容量	100MB 以上
	ドライブ装置	CD-ROM ドライブ装置を備えていること
	コンピュータの画面設定	VGA (640 x 480)、SVGA(800 x 600)、XGA(1,024 x 768) のうち 1 つ以上の解像度をサポートしていること。色数は 16 ビット (65,536 色)、24/32 ビット (1,677 万色) のいずれかであること。
	ネットワークカード	10Base-T または 100Base-TX のネットワークカードを備えていること
Web ブラウザ*		Internet Explorer バージョン 5.0、5.5 または 6.0 Netscape Navigator バージョン 6.2、7.0 または 7.1 *プロジェクターの各種設定・操作を行うときに使用します。ご使用するブラウザのバージョンや OS 等によっては画面表示のレイアウトが異なる場合があります。
プラグイン		Macromedia Flash Player バージョン 6.0.79,0(6.0r79) 以上
インターネットメーラー*		<ul style="list-style-type: none"> • Microsoft Outlook • Microsoft OutlookExpress • Netscape Mail *本製品から送信される警告メッセージを受信するために、インターネットメーラーアプリケーションが必要です。推奨するメーラーは上記の通りです。これ以外のメーラーを使用する場合には、希に文字化けを起こすことがあります。E-mail 機能を使用しない場合には、必要ありません。
FTP サービス*		<ul style="list-style-type: none"> • FTP サーバー (Windows 2000 Professional または Windows XP Professional) *ネットワークビューワー機能を使用する場合には、Windows 2000 Professional または Windows XP Professional が標準で備える FTP サービスが利用できること

本製品が対応するプロジェクターについてはお買い上げ販売店へお問い合わせください。

PDA の制限事項

本機がサポートする PDA はライトモード*¹のみに対応します。PDA の OS は「PocketPC2002」以降をサポートします。Macromedia Flash Player のバージョンは 6,0,81,0 以降をサポートします。

* 1 ライトモード、スタンダードモードについては「表示モード」のページで説明します。(※p.30-32)

本製品とハブ／コンピュータを接続する場合の制限事項*1

使用するケーブルの種類と長さには、次の制限があります。

接続	使用するケーブルの種類	最長距離
本製品～ハブ間	カテゴリ*2 3または5対応のUTPストレートケーブル	100m
本製品～コンピュータ間	カテゴリ*2 3または5対応のUTPクロスケーブル	100m

*1 使用するネットワーク環境によっても、LAN規格上の制限があります。詳しくはネットワーク管理者にご相談ください。

*2 ケーブルのカテゴリとは、ケーブルの品質を表すものです。通常、10Base-Tではカテゴリ3、またはカテゴリ5、100Base-TXではカテゴリ5のケーブルを使用します。

ご使用前に

梱包物の確認

梱包物を確認します。本製品には、以下のものが入っています。必ず開梱時に内容を確認してください。万一、不足するものがありましたら、お買い求め販売店までご連絡ください。



ネットワークユニット（本体） 1個



Network Imager 使用説明書（本書）
英語版／日本語版 各1冊



PJ Network Manager 使用説明書
英語版／日本語版 各1冊



CD-ROM 1枚
Network Viewer & Capture 3 ソフトウェア
PJ Network Manager ソフトウェア



保証書 1枚
日本国内専用

表記／略称について

本書では Network Imager (LV-NI02) を本製品、または、ネットワークユニットと表記している場合があります。また、特に説明のないかぎり、本文中でのプロジェクターとは本製品を取り付けたプロジェクターのことを表します。

本書で説明に利用したコンピュータの OS は WindowsXP Professional、Web ブラウザは Internet Explorer 6.0 です。これ以外の環境では、説明の手順が異なる場合があります。

本書の対象について

本書はコンピュータの操作、Web ブラウザの操作、プロジェクターの操作、及び、ネットワークに関する基本的な操作方法は記載していません。個々の機器、或いは、アプリケーションの操作方法については当該製品の使用説明書をご覧ください。

電波障害防止について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書に従って正しい取扱をしてください。

商標について

Ethernet は Xerox 社の登録商標です。Microsoft、Windows、Windows NT は、米国 Microsoft Corporation 社の米国及び、その他の国における登録商標または、商標、商品名です。Internet Explorer は米国 Microsoft Corporation の米国及び、その他の国における登録商標または、商標、商品名です。Netscape Navigator、Netscape Communicator は、Netscape Communications Corporation 社の米国及び、その他の国における登録商標または商標です。JavaScript は Sun Microsystems, Inc. 社の登録商標です。PJLink は JBMIA（社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会）の商標です。

説明書に記載の会社名、及び製品名は各国の登録商標または商標です。

*本書の記載内容を一部または全部を無断で転載することは禁じられています。

*本書に記載されている内容は、予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

2

第2章 セットアップ

本製品の取り付けかた、ネットワークの設定、ソフトウェアのインストール方法を説明します。

セットアップの流れ

本製品をプロジェクターに取り付け、ネットワークの設定を行い、ソフトウェアをインストールする方法を [1] ~ [3] で説明します。全体の流れを理解してください。

1 各部の名称とはたらき (☞p.17)

ネットワークユニットのポート名及び機能について説明します。

2 設置とネットワークの設定 (☞p.18-24)

- 1 プロジェクターに本製品を取り付けます。
- 2 LAN ケーブルを接続し、ネットワークと接続します。
- 3 ネットワークユニットのネットワークを設定します。
- 4 ネットワーク暗証番号を設定します。

3 ソフトウェアのインストール (☞p.25-27)

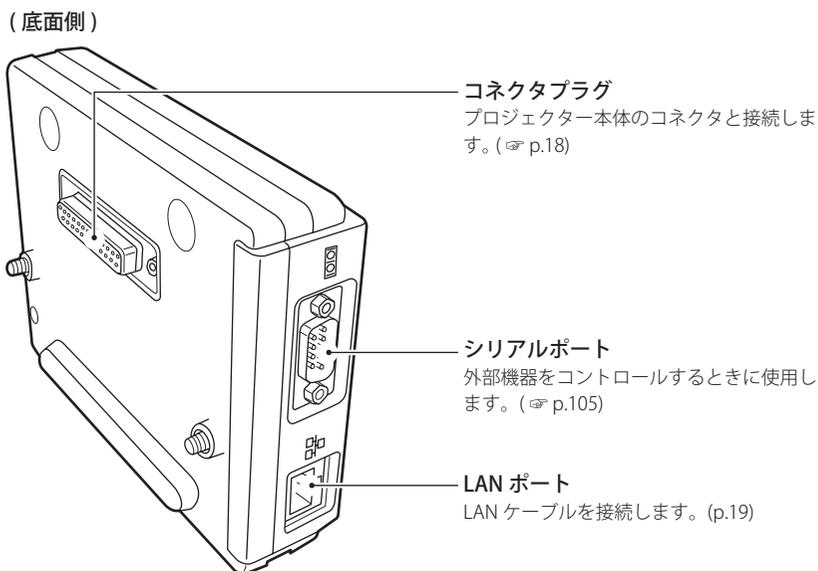
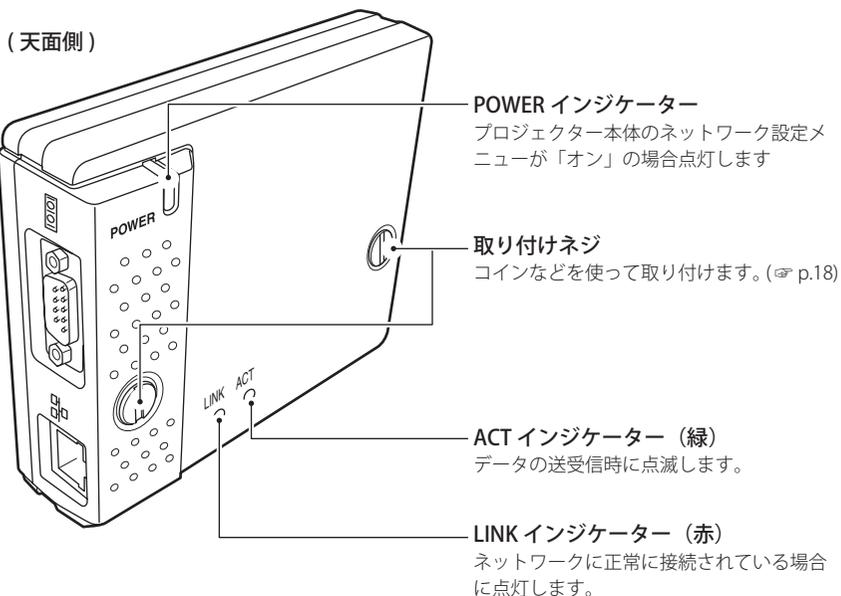
Network Viewer & Capture 3 のインストール方法を説明します。

セットアップの完了

ネットワークに接続されたプロジェクターをコントロールする準備が完了しました。次に、コンピュータにインストールされた Web ブラウザを使用してプロジェクターの設定や操作を行います。

「第3章 基本操作・設定」編をご覧ください。(☞p.29)

[1] 各部の名称とはたらき

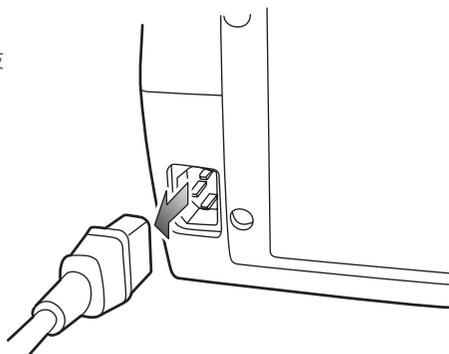


☞ コネクタには絶対に手をふれないでください、故障の原因となります。

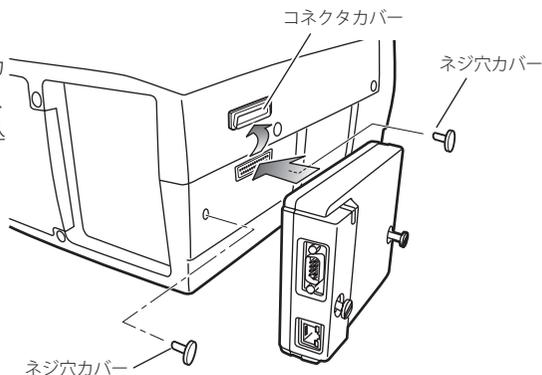
[2] 設置とネットワークの設定

本製品の取り付け

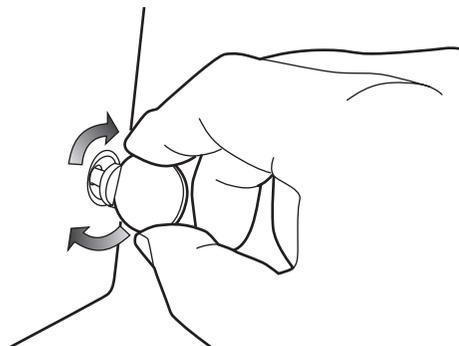
- 1 プロジェクターから電源コードを抜く。



- 2 プロジェクター本体からコネクタカバー、ネジ穴カバー（2個）を外し、本製品をオプションコネクタに差し込む。



- 3 ネジ（2カ所）をコイン等を使って締める。



△ 注意

- 本製品の取り付けは必ずプロジェクターの電源コードを抜いて行ってください。電源コードを接続したままで、取り付け、取り外しは行わないでください。故障の原因になります。
- プロジェクターの電源コードは、LAN ケーブルやコンピュータを接続した後に接続してください。

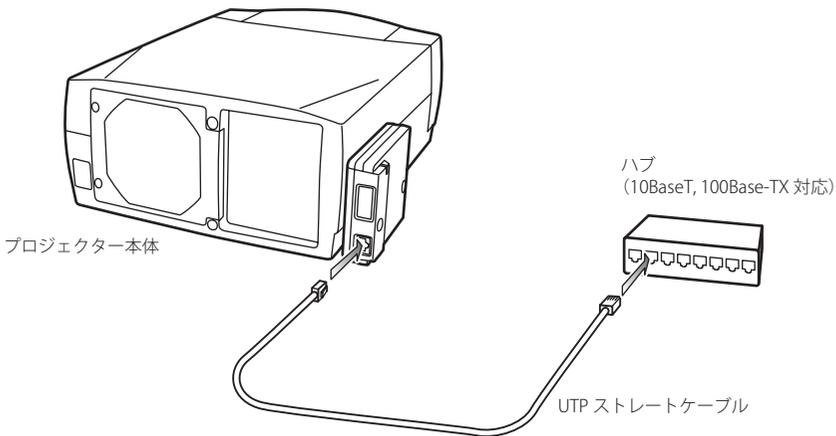
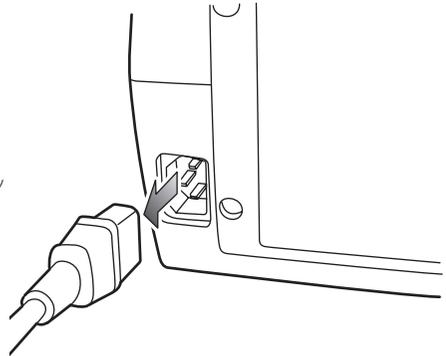
LAN ケーブルの接続

ネットワークに接続するには、RJ-45 コネクタの付いた UTP (Unshielded Twisted Pair) ストレートケーブルが必要です。ケーブルの種類は、接続するネットワークが 10Base-T または 100Base-TX のいずれであるかによって異なります。また、必要であれば、ケーブルを分配するハブ (10base-T、または 100Base-TX 対応品) を用意します。

1 プロジェクターから電源コードを抜く。

2 UTP ストレートケーブルをネットワークユニットのコネクタに差し込む。

3 UTP ストレートケーブルをハブに接続する。



- ☞ ハブを使用しないで直接プロジェクターとコンピュータを接続する場合には、UTP クロスケーブルを使用します。
- ☞ 10Base-T のネットワークに接続するときには、カテゴリ 3 または 5 のケーブルを使用します。100Base-TX のネットワークに接続するときには、カテゴリ 5 のケーブルを使用します。
- ☞ ハブからプロジェクターまでのケーブルは 100 m 以下で使用します。

ネットワークの設定

ネットワークメニューの確認

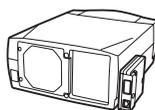
本製品をプロジェクターに取り付けると、自動的にネットワーク設定メニューが利用可能になります。利用できない場合には、取り付けが正常に行われていない可能性があります。「本製品の取り付け」(☞ p.18)を確認してください。

ネットワークの設定

プロジェクターをネットワークに接続して使用する場合はプロジェクターのネットワークアドレスは、接続するネットワークグループと同じでなければなりません。まず、プロジェクターのネットワークアドレスを設定します。

例えば次の設定を行う場合について説明します。

IP アドレス	:192.168.1.201
サブネット	:255.255.255.0
ゲートウェイ	:192.168.1.1
DNS	:0.0.0.0



工場出荷状態のネットワークユニットは以下のように設定されています。

IP アドレス	:192.168.0.2
サブネット	:255.255.255.0
ゲートウェイ	:0.0.0.0
DNS	:0.0.0.0



1 ネットワークメニューの選択

プロジェクターを起動し、メニュー画面を投映します。メニューから「ネットワーク」アイコンを選択し、「OK」ボタンを一回押します。モードが「オン」になっていることを確認します。「オフ」の場合には、ポインタボタン(◀▶)を使用して「オン」に変更します。



☞ ネットワークユニットはモードを「オン」へ設定する毎に再起動を開始します。

2 IP アドレス / サブネットマスク / ゲートウェイ*1 / DNS*2 を設定する

「OK」ボタンを再度押します、下のネットワーク設定画面がスクリーン上に表示されます。指定されたネットワークアドレスを入力します。

IPアドレス	192	168	1	201
サブネット	255	255	255	0
ゲートウェイ	192	168	1	1
DNS	0	0	0	0

◀▶ ボタンで赤フレームを左右に動かします。▼▲ ボタンで数値を増減します

数値の入力のしかた

本機は IP アドレス等の入力に、リモコンまたはプロジェクター本体のポイントボタン (▼▲ ◀▶) を使用する方法と、直接数字入力ができるスクリーン 10 キーパレットを使用する方法を用意しています。*詳しくは、「スクリーン 10 キーパレットによる数値入力の方法」(p.23) をご覧ください。

3 ネットワーク設定を確定する

アドレス入力完了後、[決定]を選択し、「OK」ボタンを押します。メニュー画面が消え、ネットワークユニットが再起動を始めます。再起動が完了するまで、「しばらくお待ち下さい」のメッセージが画面上に表示されます。この期間にプロジェクターの AC コードを抜かないでください。



ネットワーク設定の完了

ネットワーク設定の完了です。プロジェクターの IP アドレスは (192.168.1.201) に設定されました。

項目	説明
IP アドレス	プロジェクターの IP アドレスを設定します
サブネット	サブネットマスクを設定します。通常は 255.255.255.0 を設定します
ゲートウェイ*1	デフォルトゲートウェイ (ルーター) の IP アドレスを設定します
DNS*2	DNS サーバーの IP アドレスを設定します。メール機能を使用する場合は必ず設定します

* プロジェクターの操作のしかたはプロジェクター本体の使用説明書をご覧ください。

* 1 ゲートウェイ (ルーター) を使用しないネットワークでは [0.0.0.0] に設定します。
 * 2 メール機能や DNS サーバーを使用しない場合には [0.0.0.0] に設定します。

ネットワーク暗証番号の設定

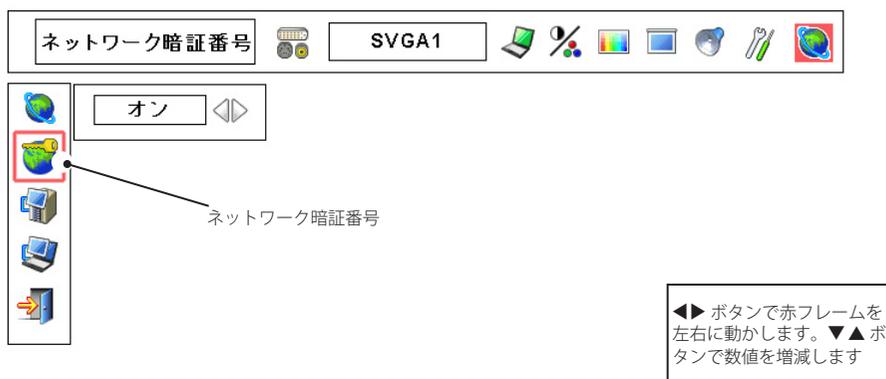
Web ブラウザを通じてプロジェクターの設定ページへのアクセスを制限するためのネットワーク暗証番号を設定をすることができます。

*初期設定では暗証番号なし (0000) に設定されています。

1 ネットワーク暗証番号メニュー表示する

「ネットワーク」メニューから「ネットワーク 暗証番号」サブメニューを選択し、「OK」ボタンを2回押します。暗証番号入力パレットが表示されます。

*パレット上に表示される番号は現在設定されている暗証番号です。

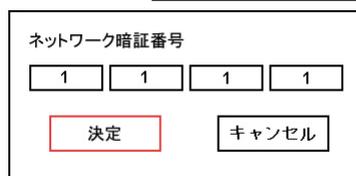


2 暗証番号を入力する

ポインタボタン (▲,▼,◀▶) を使用し任意の番号を選択し「OK」ボタンを押します。

3 暗証番号を確定する

4桁の暗証番号入力した後、[決定]を選択し、「OK」ボタンを押します。

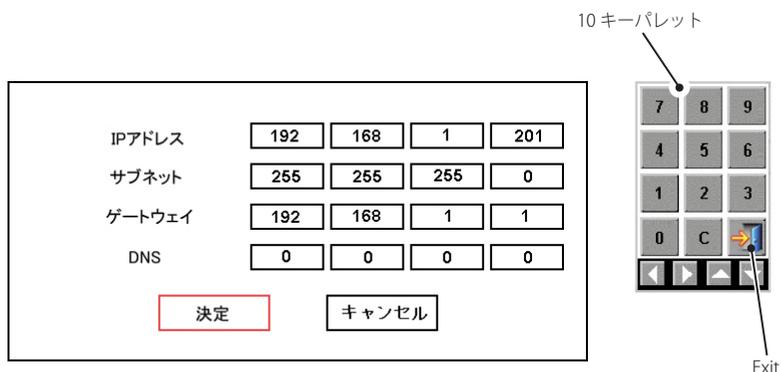


☞ ネットワーク暗証番号の入力にもスクリーン 10 キーパレットを使用することができます。詳しくは、「スクリーン 10 キーパレットによる数値入力の方法」(☞ p.23) をご覧ください。

- ☞ プロジェクターをネットワークに接続する場合には、ネットワーク暗証番号を設定することをお勧めします。ネットワーク暗証番号の設定はプロジェクター本体のメニューからも可能ですが、Web ブラウザを使用した設定画面でも設定可能です。詳細は「初期設定をする / 暗証番号を設定する」(☞ p.34) をご覧ください。
- ☞ ネットワーク暗証番号に使用できる文字は、4桁の半角数字です。「0000」は暗証番号なしを設定します。
- ☞ ネットワーク暗証番号はプロジェクター本体の操作を制限するものではありません。この暗証番号はネットワークを介してプロジェクターの状態確認・操作・設定を行うことに対してアクセス制限を設けるものです。

スクリーン 10 キーパレットによる数値入力の方法

- 1 ポイントボタン (◀▶) を使用して入力したいコラムを選択します。
- 2 「OK」 ボタンを押すと、スクリーン上に 10 キーパレットが表示されます。
- 3 ポイントボタン (▼▲◀▶) を使用して、0-9 の数字を選択し、「OK」 ボタンを押します。
繰り返し、コラムの数字を入力します。
*コラム内の数字を変更する場合は、「C」を選択し、「OK」 ボタンを押して数字をすべてクリアした後、再度入力し直します。
- 4 コラムの数字入力完了後、パレット下段の移動キー (◀▶▲▼) をポイントボタンを使用して選択し、「OK」 ボタンを押して、次に入力するコラムへ移動します。
- 5 ステップ 3 から 4 までを繰り返し、すべてのネットワークアドレスの入力を行います。
- 6 入力完了後、「Exit」 を選択し、「OK」 ボタンを押します。10 キーパレットが消えます。



システム構成での注意

同じネットワーク内に複数台のネットワークユニットを接続する場合

工場出荷状態のままの本製品を複数台、同じネットワーク内に接続しないようにしてください。ネットワークユニット同士で IP アドレスが衝突し、動作不良の原因になります。

同じネットワーク内に複数台の本製品を接続するときは、以下の手順で設定を行ってください。

1. 本製品の IP アドレスを工場出荷状態から変更します。プロジェクター本体のネットワーク設定メニューを操作します。変更のしかたは「ネットワークの設定」(p.20)を参照してください。
2. 設定した IP アドレスが他の機器と重ならないことを確認してから、ネットワークに接続します。
3. 2 台目以降、上記手順でネットワークに接続する前に IP アドレスを変更し、ネットワークに接続します。

DHCP/BOOTP サーバーを使用するネットワーク環境でネットワークユニットを接続する場合

本製品は DHCP/BOOTP サーバーには対応していません。必ず手動にて固定 IP アドレスを設定してください。本製品に設定した IP アドレスを、DHCP サーバーがネットワーク内の他の機器に割り振らないように DHCP サーバーの設定を行ってください。詳しくはネットワーク管理者へ相談ください。

[3] ソフトウェアのインストール

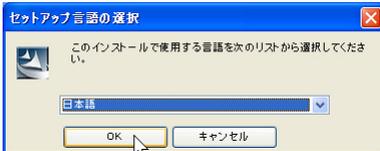
ネットワークキャプチャー機能、ネットワークビューワー機能を利用するためには、コンピュータにソフトウェアをインストールする必要があります。以下の手順でインストールしてください。

注意：

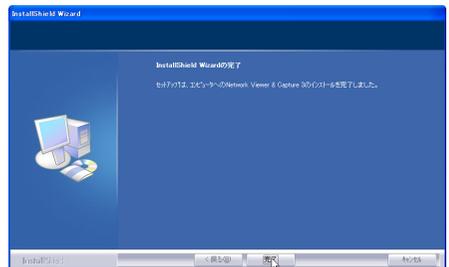
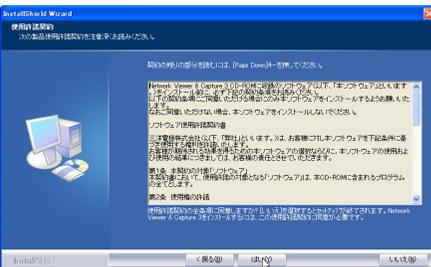
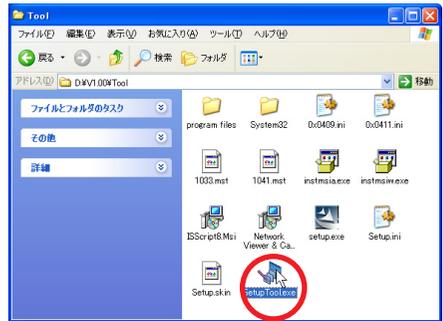
Windows 2000、Windows XP および Windows NT では、コンピュータの管理者権限でログインしてソフトウェアのインストールを行う必要があります。また、インストールの前に他のアプリケーションを必ず終了しておいてください。他のアプリケーションが起動していると、ソフトウェアが正しくインストールされない場合があります。

Network Viewer & Capture 3 のインストール

- 1 コンピュータの CD-ROM ドライブに付属の Viewer & Capture 3 の CD-ROM を挿入します。CD-ROM 内「Tool」フォルダ内の「SetupTool.exe」をダブルクリックしてインストールを開始します。
- 2 表示される「セットアップ言語の選択」ウィンドウより表示言語「日本語」を選択した後、「OK」をクリックします。インストールウィザードに従ってインストールを開始してください。



インストールの途中で、ソフトウェア使用許諾契約画面が表示されますので、内容をよくお読みの上、使用許諾内容に同意いただける場合には「はい」をクリックしインストールを進めてください。



インストールされるソフトウェア

以下の3つソフトウェアがそれぞれインストールされます。

● Network Capture 3 :

コンピュータのスクリーン画面をキャプチャーしプロジェクターへネットワークを介し配信します。

スタートアップフォルダに登録され、コンピュータ起動時に常にタスクバーに常駐します。

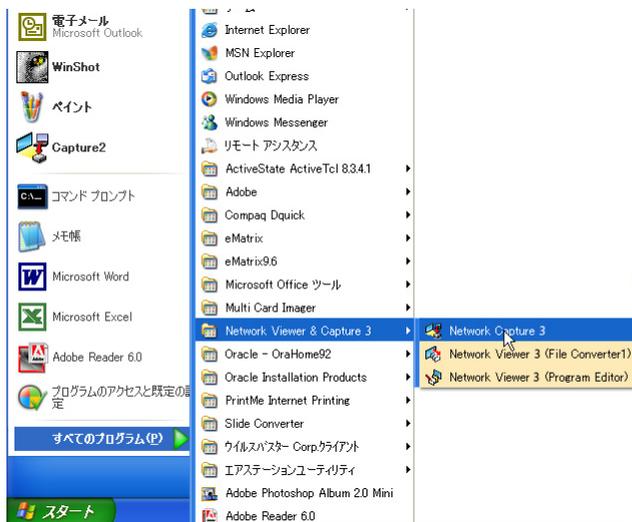


● Network Viewer 3(File Converter1) :

JPEG、ビットマップ、パワーポイントファイルをプロジェクターで投映可能な JPEG データ*1、へ変換します。

● Network Viewer 3(Program Editor) :

プログラム作成ツールです。ファイルサーバーに保管している JPEG 画像データの投映の指定や順序をプログラムする機能を持ちます。



※ 本ソフトウェアを削除するときには、コントロールパネルの「プログラムの追加と削除」で行ってください。
* 1 本機がサポートする画像ファイル形式は JPEG です。このファイルは予め File Converter 1 を使用して最適化された JPEG ファイルへ変換する必要があります。投映用のデータ変換については「投映可能な画像データを作成する [Network Viewer 3]」(p.88) をご覧ください。

File Converter 2 のインストール

- 1 コンピュータの CD-ROM ドライブに付属の Viewer & Capture 3 の CD-ROM を挿入します。CD-ROM 内「Driver」フォルダ内の「SetupDrv.exe」をダブルクリックします。
- 2 表示されるウィンドウより、言語「日本語」を選択した後、「インストール」をクリックし、インストールを開始します。



インストールされるソフトウェアと場所

Network Viewer 3(File Converter 2) はコントロールパネル内の「プリンタと FAX」内にインストールされます。

- **Network Viewer 3(File Converter 2) :**
JPEG データ変換のプリンタドライバ、アプリケーションで作成した書類からプロジェクトで投影用 JPEG データ形式に変換します。



● 本ソフトウェアを削除（アンインストール）するには、Network Viewer アイコンをごみ箱へ移動します。

3

第3章 基本操作・設定

Web ブラウザを使用して、基本的な操作方法、初期設定の方法を説明します。

ここでは、本製品を使用してネットワークに接続されたプロジェクターを管理するために必要な基本の操作方法・設定方法について説明します。コンピュータとプロジェクターがネットワークに接続され、適切にネットワークの設定がされている必要があります。

プロジェクターの設定画面にログインする

1 IP アドレスを入力する

Web ブラウザを起動し、「アドレス」にネットワークユニットの IP アドレスを入力し、Enter キーを押します。

IP アドレスは『ネットワークの設定』(p.20)で設定したアドレスを入力します。工場出荷状態の IP アドレスは 192.168.0.2 です。



2 表示モードを選択しログインする

以下のスタンダードモードとライトモードが用意されています。ご使用の環境に合わせて適切なモードをクリックして選択してください。



スタンダードモード

パソコン表示用モード、メニューや設定項目をグラフィックで表示します。通常はこのモードを選択します。

ライトモード

200 x 300 ドット表示、PDA 等の携帯用 PC での表示に最適化しています。また、ネットワークが遅いときに使用すると便利です。(ネットワークビューワー、マルチ制御機能に一部制限があります)

設定画面に暗証番号が設定されている場合には、認証ウインドウが表示されますので、「ユーザー名：user」、暗証番号を入力し、「OK」ボタンをクリックします。
*ユーザー名は必ず「user」を入力します。

[ご注意]

初めてプロジェクターにアクセスした場合や、暗証番号をなし [0000] に設定している場合は、この認証ウインドウはスキップされ、次のメイン設定画面が表示されます。



3 メイン設定画面の表示

選択した表示モードに応じて、以下のようにプロジェクターのメイン設定画面が表示されます。この画面から各種設定を行います。各種リンク項目をクリックし操作・設定画面を表示します。

1 スタンダードモードでのメイン設定画面

時計表示
ON/OFF で表示/非表示を切り替えます

サブメニュー
クリックしてサブメニューを切り替えます

ページ番号
番号をクリックしてページを切り替えます

メインメニュー
クリックして設定メニューを切り替えます

設定項目
選択したメニューに対するコントロール項目や状態項目が表示されます

クリックすると表示モード選択画面に戻ります (※p.30)

☞ 本説明書ではこのスタンダードモードを使用した設定・コントロール方法の操作説明をおこないません。

☞ ご使用のパソコンに Macromedia Flash Player バージョン 6 以上がインストールされていない場合には、画面の指示に従って、Macromedia Flash Player をインストールしてください。詳細な製品情報及びインストール手順については Adobe 社ホームページ (<http://www.adobe.com/jp/>) をご覧ください。



2 ライトモードでのメイン設定画面



メインメニュー
 クリックして設定メニューを切り替えます

☞ ご使用の PDA に Macromedia Flash Player がインストールされていない場合、ログイン後の画面が表示されません。Macromedia Flash Player をインストールしてください。(☞p.31)

ライドモードではネットワークビューワー機能に以下の制限があります。
 ☞ 表示対象のプログラムまたはフォルダの選択はできません。(☞p.99)
 ☞ プログラム、または、フォルダ内の画像の確認はできません。(☞p.100)

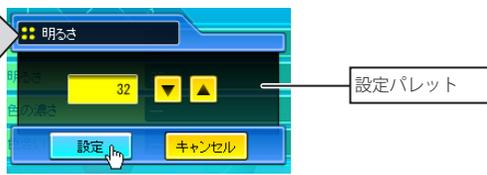
操作・設定のしかた

プロジェクターの制御や設定は、Web ブラウザ上の設定メニューを使用して行います。以下に本誌を通じて共通の基本的設定方法、手順を説明します。

設定パレットの表示



項目をクリックすると設定パレットが表示されます。「△」または「▽」ボタン押して設定値を変更、または、直接設定値を入力し、「設定」ボタンをクリックします。
 ＊各々の項目には有効範囲があります。これを超える設定値は無効となります。



- ☞ テキストボックスの数字は現在の設定値を表します。
- ☞ 入力可能な設定値は設定項目毎に異なります。有効範囲外の数値入力は無効になります。また、ご使用になるプロジェクターの機能、及び、選択している入力モードによっては利用できない調整項目があります。この場合、項目の値は「---」で表示されます。

本機に用意されている設定パレットのタイプ

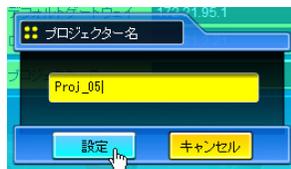
テキストボックス設定

数値、または、テキストを入力し、「設定」をクリックします

または、

「△」または「▽」ボタンをクリックして値を変更し、「設定」をクリックします

「△」または「▽」ボタンを押し続けると、値が大きくなり変わります



プルダウンメニュー設定

プルダウンメニューボタンをクリックして項目を選択し、「設定」をクリックします

または、

「△」または「▽」ボタンをクリックし、項目を選択します



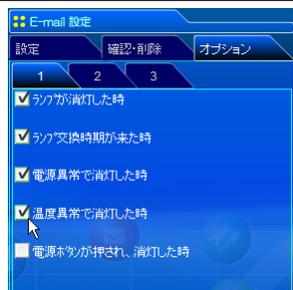
ラジオボタン設定

ラジオボタンをクリックして項目を選択します



チェックボックス設定

チェックボックスにチェックを入れて項目を選択します





初期設定をする

本製品をプロジェクターに取り付けネットワークに接続したら、以下の基本項目を設定します。

メインメニューの「初期設定」をクリックし、初期設定画面を表示します。ここでは「初期設定」と「シリアルポート設定」のサブメニューが用意されています。RS-232Cポートを使用して外部機器を制御する場合には「シリアルポート設定」サブメニューから各種通信条件の設定を行います。詳しくは第7章の「シリアルポートを使用する」を参照ください。(☞p.105) モデル名はプロジェクターのモデル名を取得して表示します。



項目	説明
言語	設定画面の表示言語を日本語／英語に切り替えます
モデル名	ネットワークユニットが取り付けられたプロジェクターの型名を表示します
ネットワーク暗証番号	設定画面にログインするための暗証番号を設定します (☞ p.35)
PJLink	PJLink 機能のパスワード 認証を有効にするか無効にするかを切り替えます (☞ p.35)
パスワード	PJLink 機能のパスワード を設定します
温度表示	温度の単位 摂氏、華氏を切り替えます

注意

電池について

本製品にはリチウム電池が使用されています。電池が切れた場合では、タイマー機能・時計機能は正常に動作しません。電池の交換のために、お買い上げ販売店に連絡してください。電池の交換は、認定されたサービスマン以外行うことは出来ません。

ネットワーク暗証番号を設定する

Web ブラウザを通じてプロジェクターの設定ページへのアクセスを制限するための暗証番号を設定します。項目「ネットワーク暗証番号」をクリックし、表示される設定パレットの番号入力エリアにネットワーク暗証番号（4桁の半角数字）を入力し、「設定」ボタンをクリックします。

「設定」ボタンをクリックすると、確認ダイアログが表示されます。「はい」ボタンをクリックすると、「再起動を行います。20秒後にブラウザを1度閉じてください」のダイアログボックスが表示されますので、ブラウザを閉じた後に、再度ログイン画面にアクセスしてください。

初期設定では暗証番号なし「0000」に設定されています。

- ☞ 本製品をネットワークに接続する場合にはネットワーク暗証番号の設定を行うことをお勧めします。
- ☞ プロジェクターに設定したネットワーク暗証番号を忘れてしまった場合、プロジェクター本体を操作し、ネットワーク/ネットワーク暗証番号メニューから確認することができます。詳細は「ネットワーク暗証番号の設定」(p.22)を参照ください。

PJLink 及びパスワードの設定

これは PJLink 機能のパスワード認証を有効にするか無効にするかを切り替えます。「オン」に設定すると、パスワードの設定が必須になります。パスワードを入力し、「設定」を押します。

- ☞ 1 から 32 桁までの半角英数字をパスワードに使用できます。

PJLink とは？

PJLink 機能はプロジェクターを操作・管理するための統一規格です。メーカーを問わずに、プロジェクターの集中管理やコントローラからの操作を実現します。この規格は、社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会 (JBMA) にて策定された機能です。



項目	説明
時刻設定	「自動」ボタンをクリックすると、コンピュータに設定されている日付、時刻をネットワークユニットに設定します
現在時刻	ネットワークユニットに設定されている日付と時刻を表示します
日付	日付を設定します（手動で登録する場合に使用します）
時刻	時刻を設定します（手動で登録する場合に使用します）

日付・時刻を設定する

自動設定

項目「時刻設定」の「自動」をクリックします。ご使用のコンピュータに設定されている日付と時刻がネットワークユニットに設定されます。

ご注意

自動設定する前に、ご使用のコンピューターに正しい時刻が設定されていることを確認してください。

手動設定

項目「日付」、「時刻」をクリックし、表示される入力エリアへキー入力します。

日付 年／月／日のフォーマットで登録します

例：2006/04/25

時刻 24 時間形式で登録します

例：18:30



ネットワークの設定をする

メインメニューから「ネットワーク」をクリックします。以下の画面が表示されます。「設定」サブメニューより、プロジェクターのIPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、DNS、プロジェクター名を設定します。

IPアドレス、サブネットマスクは『セットアップ』編ですでに設定されています。変更する場合や、デフォルトゲートウェイ*1、DNS*2を設定する場合には、ここで設定します。

設定を変更するとネットワークユニットは再起動を始めます。再起動の完了は約 20 秒かかります。一旦ブラウザを閉じ、約 20 秒後に、再度ログイン画面にアクセスしてください。



項目	説明
IP アドレス.....	プロジェクターの IP アドレスを設定します
サブネットマスク.....	サブネットマスクを設定します。通常は 255.255.255.0 を設定します
デフォルトゲートウェイ*1.....	デフォルトゲートウェイ (ルーター) の IP アドレスを設定します
DNS *2.....	DNS サーバーの IP アドレスを設定します。メール機能を使用する場合は必ず設定します
プロジェクター名*3.....	プロジェクターに名前を付けます

※ アドレスはネットワーク管理者より指定された番号を使用ください。また、入力方法は以下のように、4つの数字のグループをドットで区切って入力します。

例：192.168.001.101

- * 1 デフォルトゲートウェイ (ルーター) を使用しないネットワークでは [0.0.0.0] に設定します。
 - * 2 メール警告機能を利用しない場合には [0.0.0.0] に設定します。
 - * 3 プロジェクター名には日本語 (2バイト文字) を使用しないでください。もし、DNS サーバーを使用する場合、DNS サーバーに登録したホスト名をプロジェクター名として登録してください。これにより、ネットワーク内のどのコンピュータからでもこのプロジェクター名でアクセスすることが可能です。DNS サーバーを利用しない場合は、IP アドレスを使用してアクセスします。
- ※ すべてのネットワーク設定は IP アドレスに [0.0.0.0] を設定すると、工場出荷設定へ戻ります。



E-mail の設定をする

本製品は、プロジェクターに異常が発生したときやランプの交換時期がきたときなどに、管理者やユーザーに異常や警告を知らせる E-mail 機能を持っています。メインメニューから「E-mail 設定」をクリックし、以下の手順に従って設定します。



項目	説明
SMTP サーバ*1	SMTP サーバー名、または、IP アドレスを設定します
管理者アドレス	管理者の E-メールアドレスを設定します
メール送信先追加	プロジェクターに異常が発生した時の通知先のメールアドレスを設定します

1 SMTP サーバー、管理者アドレスの設定

SMTP サーバー*1 名または IP アドレス、及び、管理者アドレスをそれぞれ設定します。管理者アドレスとはプロジェクターから送られるメッセージの「返信先アドレス」として設定されます。

* 1 SMTP サーバーとはメール送信用のサーバーのことです。設定するアドレスについてはネットワーク管理者にお問い合わせください。

☞ プロジェクターに異常が発生しネットワークユニットが警告メールを送信しようとするときに、SMTP サーバーが何らかの理由でダウンしていた場合には、警告メールは送信できません。この場合、“サーバーに接続できませんでした” のメッセージが設定ページ上に表示されます。SMTP サーバーの設定を再設定し直してください。

☞ E-mail 機能を使用するには、ネットワーク設定の DNS アドレスが正しく設定されている必要があります。

☞ DNS サーバー、メールサーバーが利用できない環境では、この E-mail 機能は使用できません。

2 メール送信先の登録と削除

送信先追加に送信先のアドレスを入力し、「設定」ボタンをクリックします。

登録されたメールアドレスは「確認・削除」のサブメニューをクリックすると、リスト表示されます。

☞ 送信先に登録できるメールアドレスの数は 10 個までです。

登録メールアドレスを削除するには、削除するメールアドレスのチェックボックスにチェックを入れ「削除」ボタンをクリックします。



確認・削除

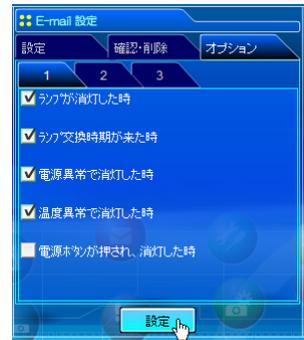


オプション

3 警告メールを送信するオプション選択

「オプション」のサブメニューをクリックします。警告メールを送信するオプション項目のチェックボックスにチェックを入れて「設定」ボタンをクリックします。

送られる警告メッセージについては次ページの「警告メールの種類と内容 [例]」を参照ください。



[1]-----

- ランプが消灯した時
- ランプ交換時期が来た時
- 電源異常で消灯した時
- 温度異常で消灯した時
- 電源ボタンが押され、消灯した時

[2]-----

- パワーマネージメントにて消灯した時
- 信号が中断した時
- オートプレイヤー

[3]-----

- ランプの換算使用時間が
[]時間に達した時
添付メッセージ

☞ 「オートプレイヤー」は、ネットワークビューワー機能 (※p.98) を利用して画像を自動再生しているときのエラーのことです。エラー内容の詳細については、「自動表示の設定をする」の項目を参照ください。(※p.101)

☞ 使用時間は 1 から 99,999 時間まで設定可能です。

☞ 添付メッセージは日本語全角で 127 文字まで登録可能です。

警告メールの種類と内容 [例]

プロジェクターに異常が発生すると、設定した条件に応じて、以下のような警告メールが送信先メールアドレスに送信されます。管理者はこのメールの内容によって必要な対応を素早くとることができ、プロジェクターの保守や補修に役に立ちます。

以下は受信するメールのメッセージ例です。

● 温度異常で消灯したとき：

件名：プロジェクターからのメッセージ
 2005/10/03 00:31
 プロジェクターのモデル名：モデル名
 TCP/IP: 192.168.1.201 プロジェクター名：Proj05

より、以下のメッセージが届きました。

- ・プロジェクターの内部温度が高くなり、消灯しました。
 温度が下がる (warning temp. インジケーターが消える) まで待ってから、再点灯してください。
 再度インジケーターが点灯する場合は、エアフィルターが詰まっていないか確認してください。

[A] 摂氏 40.2 度 [B] 摂氏 60.2 度 [C] 摂氏 42.5 度
 センサー B が温度異常です

☞ プロジェクターの内部温度センサー、または、外部温度センサーが異常温度を検出し、プロジェクターが消灯したことをお知らせします。センサー [A] ~ [C] と内部温度 A ~ B、外部温度の表示は「プロジェクターの電源制御と状態確認」(※p.46) を参照下さい。具体的な対処方法につきましてはプロジェクターの使用説明書をご覧ください。

● 電源異常で消灯したとき：

件名：プロジェクターからのメッセージ
 2005/10/03 00:31
 プロジェクターのモデル名：モデル名
 TCP/IP: 192.168.1.201 プロジェクター名：Proj05

より、以下のメッセージが届きました。

- ・プロジェクターの電源異常により、消灯しました。
 プロジェクターの電源プラグを抜き、販売店に修理をご依頼ください。

AV,	-5V	OK	} 電源エラー情報
AV,	S5V	OK	
PJNET,	S5V	OK	
ANALOG,	6V	NG	
.....	

☞ プロジェクターの電源に異常が発生しました。プロジェクターの電源プラグを抜き、販売店に電源エラー情報と共に、修理をご依頼ください。

● ランプの交換時期がきたとき：

件名：プロジェクターからのメッセージ
2005/10/03 00:31
プロジェクターのモデル名：モデル名
TCP/IP: 192.168.1.201 プロジェクター名：Proj05

より、以下のメッセージが届きました。

- ・ランプの交換時期が来ています。

- ☞ 速やかにランプを交換し、ランプカウンターをリセットしてください。もし、カウンターをリセットしないままご使用になると、プロジェクターを起動するたびにメール警告が送信されます。E-mail 送信条件の「ランプ交換時期が来たとき」のチェックを外すと警告メールは送信されません。

● ランプの使用時間が予め設定した時間に達したとき：

件名：プロジェクターからのメッセージ
2005/10/3 00:31
プロジェクターのモデル名：モデル名
TCP/IP: 192.168.1.201 プロジェクター名：Proj05

より、以下のメッセージが届きました。

- ・ランプの使用時間が、1200 時間に達しました、ランプ交換の準備をしておいてください。

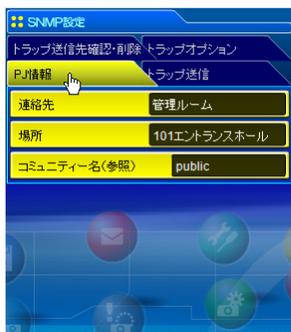
任意のメッセージ

- ☞ ランプの使用時間が予め設定した時間に達すると、任意のメッセージを送信します。ランプ交換の準備やメンテナンスのお知らせなどにご利用いただけます。



SNMP の設定をする

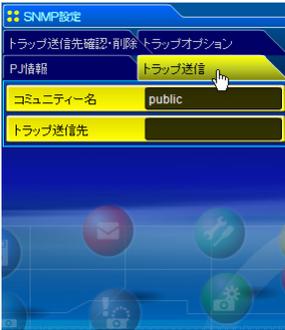
本製品は、SNMP(Simple Network Management Protocol) エージェント機能を実装しています。SNMP ではマネージャ（管理する側）とエージェント（管理される側）より構成されます。SNMP により情報を交換するグループを「コミュニティ」と呼びます。コミュニティ間のアクセスには、参照 (read-only) と設定 (read-write) の2つのアクセスモードがあります。本機では、参照 (read-only) のみが利用できます。また、本機の状態を通知する SNMP メッセージを「トラップ」と呼びます。メインメニューから「SNMP 設定」をクリックし、それぞれの項目を設定します。



PJ 情報

項目	説明
連絡先	プロジェクターの管理者名などを入力します (任意)
場所	プロジェクターの設置場所を入力します (任意)
コミュニティ名 (参照)	読み出し専用のコミュニティ名です。初期値は "public" です

※ 本機に実装されている SNMP エージェントは、RFC1213 で定義された、MIB-2 に基づいています。プライベート MIB 情報については、CD-ROM 内の「MibInfo/13PjNetPlus2.mib」ファイルを参照ください。



トラップ送信

項目 説明

項目	説明
コミュニティ名	トラップを送信するコミュニティ名を入力します。初期値は "public" です
トラップ 送信先	トラップを受信する SNMP 管理 PC の IP アドレスを入力します。

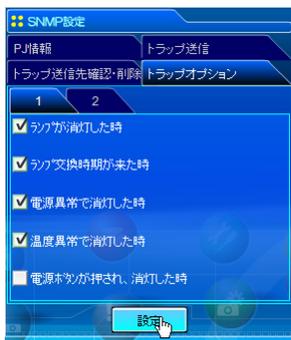


トラップ送信先確認・削除

トラップ送信先の確認と削除

登録されているトラップ送信先アドレスの確認およびアドレスの削除をこのページで行います。

削除する場合は、IP アドレス項目にチェックを入れ、「削除」ボタンをクリックします。



トラップ オプション

トラップオプションの設定

トラップを送信する条件項目にチェックを入れます。ランプには使用時間が設定可能です。

[1]-----

- ランプが消灯した時
- ランプ交換時期が来た時
- 電源異常で消灯した時
- 温度異常で消灯した時
- 電源ボタンが押され、消灯した時

[2]-----

- パワーマネージメントにて消灯した時
- 信号が中断した時
- オートブレイエラー
- ランプの換算使用時間が
[]時間に達した時

☞ 使用時間は 1 から 99,999 時間まで設定可能です。

☞ 「オートブレイエラー」は、ネットワークビューワー機能 (☞ p.98) を利用して画像を自動再生しているとき、エラーが発生した場合にトラップを送信します。エラー内容の詳細については、「自動表示の設定をする」の項目を参照ください。(☞ p.101)

4

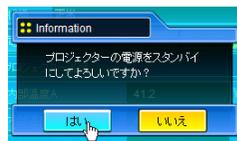
第4章 プロジェクターの管理

Web ブラウザを使用して、プロジェクターの設定や制御方法について説明します。



プロジェクターの電源制御と状態の確認

メインメニューの「電源 & 状態」をクリックし、電源 & 状態ページを表示します。「電源制御」項目の「オン」、または「スタンバイ」ボタンを押して、プロジェクターの電源を制御します。



確認用ポップアップ

項目	説明
----	----

プロジェクター状態

- 電源 プロジェクターの電源状態を表示します (点灯中、消灯中、スタートアップ中、クーリング中)
- 状態 プロジェクターの状態を表示します (次ページ参照)
- 電源制御 「オン」、「スタンバイ」ボタンを押し、プロジェクターの電源を制御します

プロジェクター温度

- 内部温度 A プロジェクターの内部温度 (ランプ周辺) を表示します (センサー A)
- 内部温度 B プロジェクターの内部温度 (パネル周辺) を表示します (センサー B)
- 外部温度 プロジェクターの吸気口近くの温度を表示します (センサー C)
-  規定温度以上になると、警告アイコンが表示されます。プロジェクターの吸気口、排気口周辺に遮蔽物がないことをご確認ください。また、エアフィルターが目詰まりを起している可能性があります。エアフィルターの交換を行ってください。

* 温度単位は「初期設定をする」(p.34)で摂氏、華氏を設定します。

プロジェクターの状態表示について

状態表示項目	説明
正常	正常動作中
パワーマネージメント動作中	パワーマネージメントが働いています
ランプ点灯異常	ランプの点灯異常が発生しました
温度異常消灯後 クーリング中	温度異常を検知し、ランプ消灯後クーリング中です
温度異常消灯後 スタンバイ	温度異常を検知し、ランプ消灯後スタンバイ状態です
電源異常 + エラー情報	電源異常が発生しました。電源異常のエラー情報 (POWER, 5V NG 等) を確認してください。プロジェクターはスタンバイ状態になります。プロジェクターの電源プラグを抜き、販売店に修理をご依頼ください。プロジェクターに電源異常が発生すると、「電源異常」がステータスコラム上へ表示され、電源コラムへ以下のようなアイコンが現れます。このアイコンをクリックすると、電源異常の詳細な情報が表示されます。



プロジェクター本体にセキュリティ (暗証番号ロック) が設定されている場合には、プロジェクターの操作は行えません。「PJ ロッカー時解除」を実行し、ロックを解除した上でプロジェクターの操作/設定を行ないます。「PJ ロッカー時解除」は「設定」メインメニューの3ページ (p.54) より行ないます。

☞ プロジェクターのクーリング期間中には電源を入れることはできません

☞ プロジェクターの「電源 & 状態」の確認は、30 秒ごとに、Web ブラウザによって自動的に行われます。



プロジェクターを制御する

メインメニューの「制御」をクリックします。設定方法は各ページの内容によって異なります。設定項目は複数のページに分かれて表示されていますので、ページ番号をクリックしてページを切り替えます。

*設定項目についての詳細な情報は、プロジェクター本体の使用説明書をご覧ください。



入力

この画面では、入力とソースの選択を行います。入力とソースを選択後、「設定」ボタンをクリックして設定します。入力の種類によってソース項目は異なります



項目	説明
入力	プロジェクターの入力モードを表示します。(1 ~ 4)
信号源	入力信号の信号源を選択します
入力 1:	RGB(PC アナログ) RGB(Scart) RGB(PC デジタ)
入力 2:	RGB(AV HDCP) モニター出力 Video Y,Pb/Cb,Pr/Cr
入力 3:	RGB Video Y,Pb/Cb,Pr/Cr S-video
入力 4:	ネットワーク

④ 設定画面は、選択している入力モード、或いは、ご使用になるプロジェクターの機能によって自動的に必要な設定項目を表示します。従って、画面の表示と説明項目が異なることがあります。また、入力信号によっては調整できない項目があります、詳しくはプロジェクター本体の使用説明書をご覧ください。

④ プロジェクターがスタンバイ状態の場合、コントロール項目に対する設定の変更はできません。ただし、タイマー設定は可能です。

システム

この画面では、プロジェクターに入力する信号のシステムを選択します。入力信号に応じて、利用可能なシステムモードがプルダウンメニューに表示されます。モードを選択し「設定」ボタンをクリックします。



コンピュータ・アナログ入力時の設定項目

項目	説明
XGA1	入力信号のコンピュータシステムを表示します *コンピュータシステムモードは次の通りです VGA、SVGA、XGA、SXGA、UXGA、WXGA など

VIDEO/S-VIDEO 入力時の設定項目

項目	説明
AUTO	入力信号のカラーシステムに自動で対応します *選択可能なカラーシステムは次の通りです PAL、SECAM、NTSC、NTSC4.43、PAL-M、PAL-N

Y、Pb/Cb、Pr/Cr 入力時の設定項目

項目	説明
AUTO	入力信号の走査方式に自動で対応します *選択可能な走査システムは次の通りです 480i、575i、480p、575p、720p、1035i、1080i

☞ 「PC 調整」 (p.52) で調整値を保存したモード (モード 1 ~ モード 10、ExMode11 ~ ExMode50) が利用可能な場合は、これらのカスタムモードも上記システムと共にリストされます。

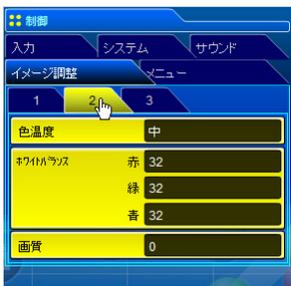
☞ 日本のカラーシステムは NTSC です。入力信号の状態が悪く「AUTO」を選択してもシステムが自動で選択できない時は、「NTSC」を選んでください。

イメージ調整

この画面では、プロジェクターのイメージ調整と保存を行います。各々の項目を選択し調整します。調整値の保存は「保存」、保存している調整値の読出しは「読出し」をクリックし実行します。



項目	説明
コントラスト	コントラストを調整します (0 ~ 63)
明るさ	明るさを調整します (0 ~ 63)
色の濃さ	色の濃さを調整します (0 ~ 63)
色合い	色合いを調整します (0 ~ 63)



項目	説明
色温度	色温度を選択します (超低、低、中、高、調整中*)
ホワイトバランス	
赤・緑・青	ホワイトバランスを調整します (0 ~ 63)
画質	画質を調整します (0 ~ 31)

* ホワイトバランスの設定値を変更した場合には、色温度の表示は「調整中」が表示されます。

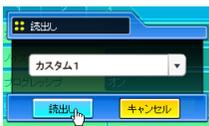


項目	説明
ガンマ補正	暗部の明るさを調整します (0 ~ 15)
ノイズリダクション	ノイズリダクションを切り替えます (オフ、L1、L2)
ブログレッシブ	ブログレッシブモードを切り替えます (オン、オフ、フィルム)
リセット	イメージ調整値を元に戻します
保存	イメージ調整値を保存します。カスタム1～カスタム10の項目を選択し、「保存」をクリックします。



読出し

保存されているイメージ設定値を呼び出します。
スタンダード AV、シネマ、スタンダード PC、ハイコントラスト、カスタム1～カスタム10を選択し、「読出し」をクリックします。

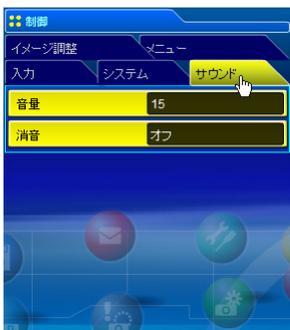


イメージモード	入力	
	VIDEO	PC
スタンダード AV	✓	*
シネマ	✓	*
スタンダード PC	*	✓
ハイコントラスト	*	✓
カスタム1 - 10	✓	✓

✓ マークは選択した入力で利用可能なイメージモードを表す。* で表示される無効なイメージモードを選択すると、エラーメッセージが表示されます。

サウンド

この画面では、プロジェクターの音声の調整を行います。各テキストボックスの値は現在の設定値を表します。



項目	説明
音量	内蔵スピーカの音量を調整します (0 ~ 63)
消音	スピーカからの出力を一時的に消します (オン、オフ)

プロジェクターのメニューを操作する

メインメニューより、「制御」-「メニュー」を選択します。以下のメニュー操作画面が表示されます。これはネットワークを通じてプロジェクターのメニューを操作する画面です。



項目	説明
メニュー表示	「オン」、「オフ」ボタンを押し、投映画面にプロジェクターのメニューの表示の切り替えを行います。
カーソル	「◀」、「▶」、「▲」、「▼」ボタンを押し、カーソルを移動します。「■」ボタンを押し、選択を確定します。



PC 調整をする

メインメニューの「PC 調整」をクリックします。この画面では、プロジェクターに接続されたコンピュータの信号を、最適にスクリーン上に投射する調整を行います。



全角 30 文字までが ExMode11 から ExMode50 用のメモとして使用可能

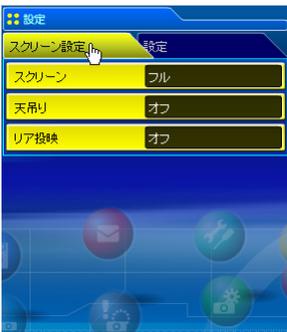
項目	説明
信号情報	現在の PC モードを表示します (XGA, SXGA・・) MODE1~MODE10、EXT11~EXT50 は以下の「モード保存」機能により作成するカスタムモードです。EXT51-EXT60 は項目「現在状態の保存」(p.55) で保存するモード "Totalsave1~Totalsave10" を表します。
自動 PC 調整	自動で最適な PC 調整を行ないます
トラッキング	画面のトラッキングを調整します (0~31)
総ドット数	水平期間の総ドット数を調整します
クランプ	画像のクランプ位相を調整します (1~255)
画面領域	水平 水平画像の領域を調整します 垂直 垂直画像の領域を調整します

項目	説明
位置	水平 画面の水平位置を調整します 垂直 画面の垂直位置を調整します
リセット	PC 調整値を元に戻します
モード保存	PC 調整値を保存します。プルダウンメニューより保存するモード番号 (モード 1~モード 10、ExMode11~ExMode50) を選択します。
モード削除	保存された PC 調整値をクリアします。プルダウンメニューよりクリアするモード番号 (モード 1~モード 10、ExMode11~ExMode50) を選択します。



プロジェクターをセッティングする

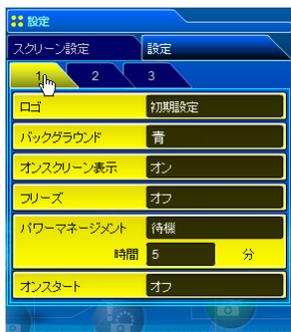
メインメニューの「設定」をクリックします。この画面では、プロジェクターの設定を行います。「スクリーン設定」と「設定」サブメニューをクリックして各々の設定を行います。



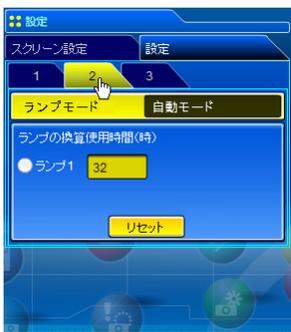
- | 項目 | 説明 |
|-------|---|
| スクリーン | スクリーンのモードを選択します
(ノーマル、ワイド、リアル、フル)
下の表のように入力モードによっては利用できない
モードがあります |
| 天吊り | 画像の上下左右を反転して映します (オン、オフ) |
| リア投映 | 画像の左右を反転して映します (オン、オフ) |

スクリーンモード	入力	
	VIDEO	PC
ノーマル	✓	✓
ワイド	✓	✓
リアル	*	✓
フル	*	✓

✓ マークは選択した入力で利用可能なスクリーンモードを表す。*で表示される無効なスクリーンモードを選択すると、エラーメッセージが表示されます。



項目	説明
ログ	電源起動時にログを表示する、しないを設定します (初期設定、ユーザー、オフ)
バックグラウンド	無信号入力時のスクリーンの背景を設定します (青、ユーザー、黒)
オンスクリーン表示	画面表示をスクリーンに表示する、しないを設定します (オフ、カットアウト、オン)
フリーズ	画像を一時的に静止させます (オン、オフ)
パワーマネージメント	入力信号がなく、プロジェクターが操作されない状態が以下の指定期間続くと、選択したパワーマネジメントモード (オフ、待機、シャットアウト) が働きます。指定期間は1分～30分まで設定可能です。
オンスター	電源コードを接続するだけで画面を投射します (オン、オフ)



項目	説明
ランプモード	ランプの明るさを選択します (自動モード、ノーマルモード、サイレントモード) *この機能は使用するプロジェクター毎に異なります。
ランプの換算使用時間	各ランプの換算使用時間を表示します。ランプ交換時には使用時間をリセットします

ランプ換算使用時間のリセット

1. ランプ1のラジオボタンを選択し、「リセット」ボタンをクリックします。
2. 「はい」ボタンをクリックし、リセットを実行します。



項目	説明
リモコンコード ID	1～8までのコード ID を選択できます
ファン制御	冷却ファンの冷却能力を切り替えます (ノーマル/マックス) 状態 現在のファンモードを表示します。
初期設定	プロジェクターの各設定項目を工場出荷状態に戻します。但し、以下の項目を除きます。 *ランプ使用時間、プロジェクター使用時間、ネットワーク暗証番号、ネットワーク設定、メール設定 *この機能はネットワークユニットの設定(ネットワーク、E-mail 設定、等) に対しては有効ではありません。
PJ ロック一時解除	プロジェクターに暗証番号ロックのセキュリティが設定されている場合に「実行」ボタンを押してロックを一時的に解除します。

設定手順

1. プロジェクターの電源を切り、電源コードをコンセントから抜きます。再び、電源コードをコンセントに接続します。
2. Web ブラウザを使用し、このページへアクセスします。
3. PJ ロック解除の「実行」ボタンをクリックします。
*この機能は、プロジェクターが起動中は無効です。



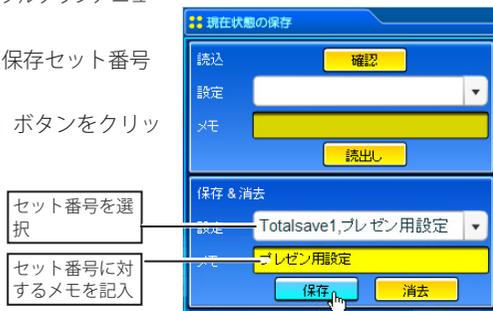
プロジェクターの状態を保存する

プロジェクターの各種調整と設定を一括して保存、及び、読出しを行います。調整・設定を保存できる項目は、「PC 調整」、「制御」、「設定」の各々の項目です。



設定を保存する／消去する

- 1 メインメニューから「現在状態の保存」をクリックします。
- 2 「保存 & 消去」項目の「設定」プルダウンメニューをクリックし、希望する保存セット番号 (Totalsave1 ~ Totalsave10) を選択します。
メモ欄には保存するセットの名前をメモとして記入します。
*メモ欄には全角 18 文字まで入力できますが、プルダウンメニューでは 9 文字までしか表示しません
- 3 「保存」ボタンをクリックして、選択した保存セット番号に設定値を保存します。
保存した設定値を消去する場合は「消去」ボタンをクリックします。



⚠ 設定値を保存できるセットは「Totalsave1 ~ Totalsave10」までの 10 個です。設定値はネットワークユニットに保存されます。Totalsave1 ~ Totalsave10 は EXT51 ~ EXT60 として PC 調整項目の信号情報 (☞ p.52) 欄へ表示されます。

保存項目を確認する

現在の設定状態を確認するには、「確認」ボタンをクリックします。「PC 調整」、「制御」、「設定」の各項目が順次自動的に表示されます。



自動表示を停止するには、
[STOP] ボタンをクリックし
ます。

保存セットを適用する

保存されている設定を適用するには、「読み込 - 設定」プルダウンメニューをクリックし、適用する保存セット番号 (Totalsave1 ~ Totalsave10) を選択し、「読出し」ボタンをクリックします。選択したセット番号の設定値が各々の項目に適用されます。



● 保存したセットの内容がプロジェクターが備える入力と一致しない場合には、設定無効のメッセージが表示されます。



タイマーを設定する

プロジェクトを指定した日時に起動、終了することができます。タイマーの設定は以下の手順で行います。メインメニューの「タイマー」をクリックします。



タイマー設定のしかた

1 曜日・日付を指定する

毎週、或いは毎日決まった曜日を指定する場合には、

曜日のラジオボタンを選択し、プルダウンメニューから希望する曜日を選択します。選択できる曜日は次の通りです。

- ・毎日
- ・毎週（月曜日から日曜日のいずれか）

指定した日付を指定する場合には、

日付ラジオボタンを選択し、（年 / 月 / 日）形式で指定する日を半角で入力します。

例：2005年10月20日を指定する場合は、「2005/10/20」と入力します

2 時間を指定する

24 時間表示の（時：分）形式で指定する時間を半角で入力します。

例：午後 5 時 15 分を指定する場合は、「17:15」と入力します

3 イベント（起動・終了）を指定する

プルダウンメニューからイベントを選択します。

イベント	動作
オン	プロジェクターを起動します
オフ	プロジェクターを終了します
ランプ自動	ランプモードを " 自動モード " に切り替えます
ランプサイレント	ランプモードを " サイレントモード " に切り替えます
ランプノーマル	ランプモードを " ノーマルモード " に切り替えます

*利用可能なイベントはプロジェクターの機能に依存します。

4 登録する

「設定」ボタンを押して設定したタイマーを登録します。

1～4を繰り返し、その他のタイマー設定を行います。

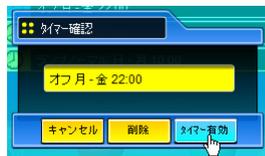
タイマーの確認をする

設定したタイマーイベントを確認するには、「確認」ボタンをクリックします。現在登録されているタイマーイベントがリストされます。青で表示される項目は、タイマーイベントが無効に設定されていることを表します。



タイマーイベントを変更する

「確認」ボタンをクリックして表示されたイベントリストからキャンセル、削除、無効、或いは有効にしたいイベントをクリックします。ポップアップパレットから実行したいボタン「キャンセル」、「削除」、「タイマー無効」、「タイマー有効」をクリックします。

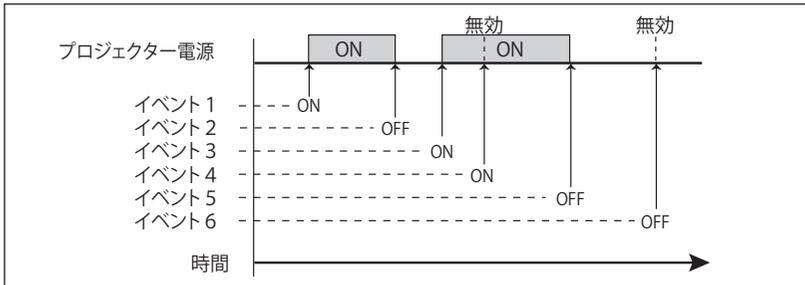


ボタン	動作
キャンセル	設定の変更をキャンセルします
削除	タイマーイベントを削除します
タイマー無効	タイマーイベントを一時無効にします
タイマー有効	無効にしたイベントを有効にします

タイマー設定上のご注意：

* タイマーイベントは一度に 10 種類設定することができます。タイマーイベントは、プロジェクターの状態に応じて、常に有効なイベントに従って機能します。

例えば、下のチャートのように、イベント 3 でプロジェクターを起動し、次のイベント 4 で、再度プロジェクターを起動するようなイベントでは、既にプロジェクターは起動していますので、イベント 4 は無効となります。同様にイベント 6 ではプロジェクターがオフしている状態で、オフするイベントは無効となります。但し、何らかの理由でプロジェクターがオフ、またはオンしていると、これらのイベントは有効になります。



* タイマーイベントが同じ時刻に設定された場合では、後から設定されたイベントに上書きされます。例えば、「毎日 8:00 に ON」に設定されたイベントがあるとき、後から「毎日 8:00 に OFF」の設定がされると、前のイベントは無効となります。

* プロジェクターがクーリング期間中にタイマー設定で「ON」のイベントが発生した場合には、このイベントは無効となります。プロジェクターはクーリング期間中にはオンできません。

ご注意

- ☞ タイマーは本製品内の時計機能にて動作しています。タイマーを設定する前に、現在の日付・時刻が正しく設定されていることを確認してください。また、時計機能、タイマー機能は本製品に内蔵されています。リチウム電池にて機能しています。電池が切れた場合、タイマー機能・時計機能は正常に動作しません。電池の交換は買い上げ販売店にご相談ください。電池の交換は、認定されたサービスマン以外行うことは出来ません。



プロジェクターの情報を見る

プロジェクターの基本的な情報を表示します。メインメニュー「インフォメーション」をクリックします。

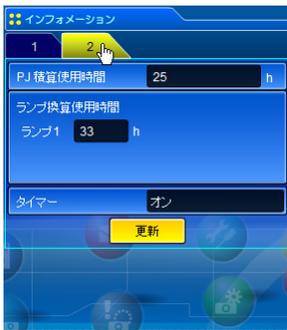


このボタンをクリックして情報を最新に更新します

項目	説明
入力	選択されている入力モードと信号源を表示します
システム	入力信号のシステムを表示します
信号	入力信号の有無を表示します (有、無)
スクリーン	選択されているスクリーンモードを表示します
ランプ状態	ランプの状態をアイコンで表示します (次頁表参照)
セキュリティ	セキュリティ状態を表示します (有、無)

ランプ状態の表示

アイコン表示	状態
 白・黄 / 青背景	点灯 (正常点灯しています)
 白・黄 / 赤色背景	点灯 (点灯していますが、ランプの交換時期を過ぎています。ランプ交換してください)
 グレー / 青背景	消灯 (正常消灯しています)
 グレー / 赤背景	交換 (消灯していますが、ランプの交換時期を過ぎています。ランプ交換してください)
 赤 / 青背景 + X	不灯 (点灯失敗しています。ランプを確認してください)
 赤 / 赤背景 + X	不灯 (点灯失敗しています。ランプの交換時期を過ぎています。ランプ交換してください)



項目 説明

PJ 積算使用時間 プロジェクターの積算使用時間を表示します
ランプ 換算 使用時間 ランプの換算使用時間を表示します
タイマー タイマー設定の状態を表示します
	オン タイマー設定されています
	オフ タイマー設定はありません



マルチ制御機能

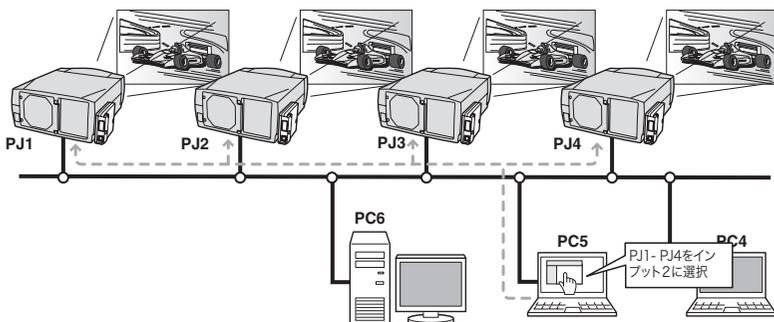
複数のプロジェクターを一括制御／設定する

本製品を取り付けたプロジェクターを、複数台ネットワークに接続している場合、それらのプロジェクターを一括して制御、および、設定することができます。メインメニューの「マルチ制御」をクリックして設定画面を表示します。

ご注意 複数のプロジェクターを管理するには、それぞれのプロジェクターには同じネットワーク暗証番号が設定されている必要があります。



マルチ制御使用例



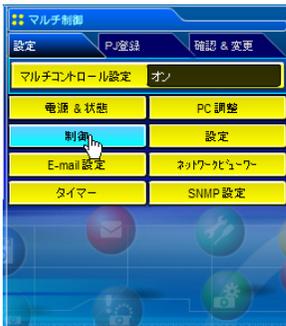
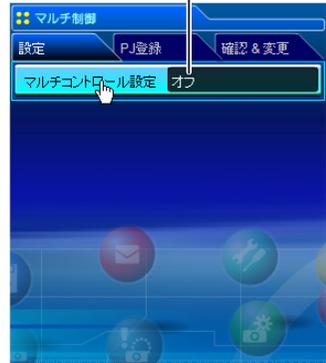
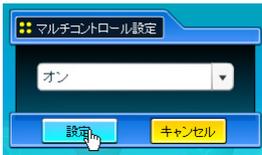
マルチ制御の開始／終了する

複数のプロジェクターの制御を開始する、または終了するには設定画面の「マルチコントロール設定」をクリックし設定します。

マルチコントロール設定

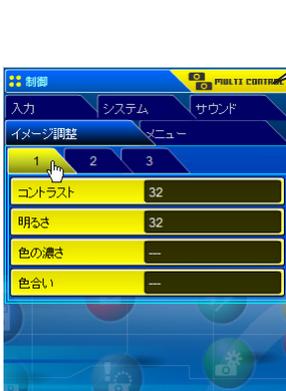
オフ マルチ制御を終了します

オン マルチ制御を開始します。オンにするとマルチ制御可能なメニューが表示されます。これらのメニュー項目はメインメニュー項目へリンクされています。



マルチ制御可能なメニューは「電源 & 状態」、「PC 調整」、「制御」、「設定」、「E-mail 設定」、「タイマー」、「SNMP 設定」および、「ネットワークビューワー」です。それぞれのメニューをクリックし、設定や調整を行います。

☞ マルチ制御中は各々の設定ページ上に「MULTI CONTROL」が表示されます。



それぞれのコントロールページに表示され、マルチ制御中であることを知らせます。

マルチ制御するプロジェクターを登録する

プロジェクターをマルチ制御するには、制御するプロジェクターのIPアドレスを登録する必要があります。サブメニューの「PJ登録」をクリックし、登録ページを表示します。IPアドレス、メモ、マルチ制御するモードをプルダウンメニューから選択し「登録」ボタンをクリックします。



項目	説明
IPアドレス	登録するプロジェクターのIPアドレスを入力します
メモ	プロジェクターの名称や設置場所の名称などを入力します
マルチ制御項目	
制御	制御のみ許可します
制御・画像	制御と画像表示を許可します
画像	画像表示のみ許可します

IPアドレス・プロジェクター名を確認する

登録されているプロジェクターを確認するには、「確認 & 変更」タブをクリックします。下のよう登録されているプロジェクターの情報がリストされます。

* IPアドレスをクリックすると、新しいウィンドウが表示され、選択したプロジェクターのログイン画面が表示されます



マルチ制御するプロジェクターは、1ページ10台登録できます。合計100台まで登録可能です。

マルチ制御の対象から除外・追加・削除する

マルチ制御の対象のモードを変更する場合には、対象のプロジェクターの IP アドレス下のプルダウンメニューからモードを選択した後、「設定」ボタンをクリックします。



項目	説明
制御	制御のみ許可します
制御・画像	制御と画像表示を許可します
画像	画像表示のみ許可します
オフ	対象から除外します
削除	リストから削除します

*ネットワークビューワー機能で自動表示実行中には制御項目の変更はできません。また、ライトモードでは変更できません

プロジェクターの状態表示について

登録しているプロジェクターの何かが何らかの理由でアクティブでない場合には（プロジェクターに電源が接続されていない、LAN ケーブルが接続されていない、ネットワークから切り離されているなど）、アクティブなプロジェクターのみに設定の変更が有効になります。同時に、マルチ制御に設定されたリストからはそのプロジェクターは除外され、それぞれの状態が表示されます。状態については以下の表をご覧ください。



状態表示

状態表示	説明
(表示無し)	正常に接続されています
未接続	ネットワークに接続されていません。当該プロジェクターの接続を確認してください
パスワードエラー	マルチコントロールするプロジェクターの暗証番号が現在アクセスしているプロジェクターのものと異なります。当該プロジェクターの暗証番号を変更してください。(※ p.22)
画像表示エラー	画像表示できていません。当該プロジェクターがネットワークキャプチャー、または、ネットワークビューワー機能を使用中、もしくは、スタンバイになっていないかを確認ください。

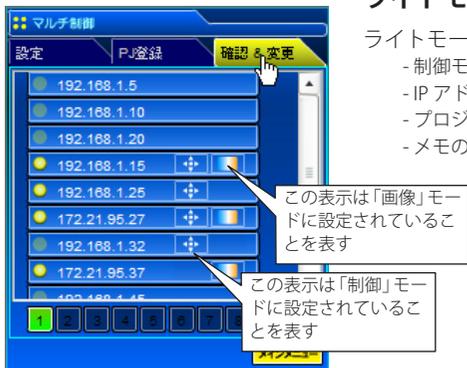
*プロジェクターの状態表示の更新は、マルチコントロール機能が実行された時点で行われます。

- マルチ制御の対象となるプロジェクターがスタンバイ状態の場合、コントロール項目に対する設定の変更は無効となります。ただし、タイマー設定は有効です。
- ネットワークビューワー機能で自動表示実行中にはプロジェクターの登録変更削除は出来ません
- マルチ制御する場合には、特定の1台のプロジェクターを設定用としてご使用することをお勧めします。プロジェクターそれぞれにマルチ制御の設定はしないでください。管理が非常に複雑になります。
- 登録したプロジェクターがネットワークに接続されていない場合には、マルチ制御の応答に時間がかかります。これは、登録されたプロジェクターの応答を待っているためです。
- ライトモードではマルチ制御項目に一部制限があります。

ライトモードでの確認&変更ページ

ライトモードでは以下の機能は利用できません。

- 制御モードの変更
- IP アドレスの削除
- プロジェクターの状態表示
- メモの表示

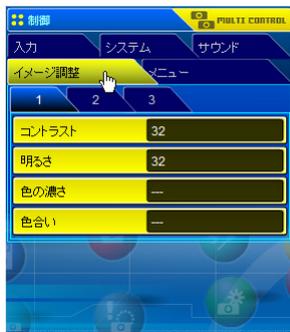


(ライトモードでの確認&変更ページ)

一括制御する

電源、PC 調整、制御、設定を一括で制御することが可能です。マルチコントロール設定をオンにし、それぞれのメニューから項目を設定します。設定内容はマルチコントロールの対象として登録されたプロジェクターへ順次適用されます。

☞ 登録されたプロジェクターのマルチ制御項目が「制御・画像」または「制御」の場合に設定が適用されます。



一括設定する

E-mail 設定、SNMP 設定、タイマー設定を一括で設定することが可能です。マルチコントロール設定をオンにし、それぞれのメニューから項目を設定します。設定内容はマルチコントロールの対象として登録されたプロジェクターへ順次適用されます。

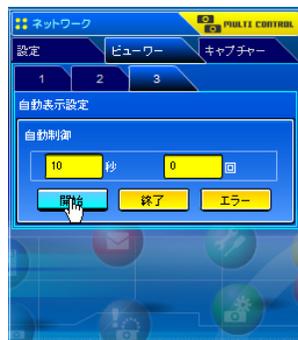
☞ 登録されたプロジェクターのマルチ制御項目が「制御・画像」または「制御」の場合に設定が適用されます。



一括でビューワー自動制御を実行する

ビューワー自動制御を一括で設定することが可能です。マルチコントロール設定をオンにし、「ビューワー」-「[3] 自動表示設定」サブメニューを選択します。画像自動再生の表示時間と繰り返し回数を設定します。「開始」ボタンを押すと、マルチコントロールの対象として登録されたプロジェクターが順次再生を開始します。

- ☞ 詳細な設定については「ネットワークビューワー機能を使う」の項目をご覧ください。(p.98)
- ☞ 登録されたプロジェクターのマルチ制御項目が「制御・画像」または「画像」の場合、ビューワー自動制御が実行されます。



5

第5章 ネットワークキャプチャー

ネットワークキャプチャーとは、コンピュータのスクリーン画面をネットワークを介してプロジェクターで投映する機能です。

- ・リアルタイムキャプチャー
- ・ネットワークコミュニケーション

ネットワークキャプチャー機能とは

ネットワークキャプチャー機能とは、Network Capture 3 ソフトウェアをインストールしたコンピュータのスクリーン画面をネットワークを介してプロジェクターで投射する機能です。ネットワークキャプチャー機能は次の2つのモードを備えています。

・リアルタイムキャプチャー (☞ p.72)

コンピュータのスクリーン画像をリアルタイム*でプロジェクターへ投射する機能です。

・ネットワークコミュニケーション (☞ p.77)

ネットワークコミュニケーションモードとは、1台のコンピュータ画面のキャプチャー画像を複数のコンピュータ間で共有し、このキャプチャー画像上に描画ツールを使って文字や図形を書き入れ、コミュニケーションを取るモードです。

☞ キャプチャー可能なコンピュータは30台まで登録可能です。

☞ ネットワークビューワー機能使用中はネットワークキャプチャー機能を使用できません。また、リアルタイムキャプチャーとネットワークコミュニケーションを同時に使用できません。

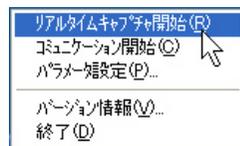
Network Capture 3 の起動

Network Capture 3 をインストールするとショートカットが「スタートアップ」フォルダに作成されます。従って、コンピュータを起動すると Network Capture 3 ソフトウェアも起動し、タスクバーにアイコンが常駐します。タスクバーにアイコンが表示されていない場合には、Network Capture 3 は起動していません。「スタート」メニューの「すべてのプログラム (P)」 - 「Network Viewer & Capture 3」 - 「Network Capture 3」をクリックし、起動してください。Network Capture 3 がスタンバイしている状態（タスクバーアイコンで表示）では、ソフトウェアはキャプチャーの準備をしている状態です。



タスクバー上のコマンド

タスクバー上の Network Viewer & Capture 3 アイコンをクリックすると、右のポップメニューが表示されます。各々の動作は次ページの通りです。



項目名	説明
リアルタイムキャプチャ開始 (R)	リアルタイムキャプチャーを開始します。(※p.72)
コミュニケーション開始 (C)	ネットワークコミュニケーションを開始します。(※p.77) コンピュータの画面をキャプチャーしてプロジェクトャーへ送信します。画面上にはキャプチャー画像編集ウインドウが表示されます
パラメータ設定 ... (P)	プロジェクトャーのネットワークユニットとの通信パラメータを設定します。詳細は「パラメータを設定する」(※p.71)を参照ください
バージョン情報 ... (V)	ソフトウェアのバージョンを表示します
終了 (D)	アプリケーションを終了します

パラメータを設定する

- 1 タスクバー上の Network Capture 3 アイコンをクリックします。
- 2 ポップアップメニューから「パラメータ設定 (P)...」をクリックすると、パラメータ設定ウインドウが表示されます。
- 3 「キャプチャポート」と「暗証番号」を投射するプロジェクトャーのキャプチャポート番号及びネットワーク暗証番号に合わせます。
 - ☞ 「キャプチャポート」の確認は、「Web ブラウザから操作する」(※p.74)を参照ください。「ネットワーク暗証番号」の確認は「ネットワーク暗証番号設定」(※p.22)を参照ください。
 - ☞ キャプチャポート番号の初期値は 9000 です。ポート番号には予約されている番号があります。もし、これらの予約ポート番号を指定した場合や他のアプリケーションが使用しているポート番号を指定した場合は、無効なポート番号として警告ダイアログが画面に表示されます。この場合は、他のポート番号を使用してください。
 - ☞ ポート番号にはプロトコル毎に http(80), ftp(21), telnet(23) 等が予約されています。4352、10000、10001 番号はプロジェクトャーをコントロールする場合に使用するように予約されています。
- 4 「検索」ボタンを押すとネットワークで利用できるプロジェクトャーの IP アドレス（ホスト名）が表示されますので、投射するプロジェクトャーの IP アドレスをクリックし選択します。予め IP アドレスが分かっている場合には、直接アドレスを入力します。
 - ☞ ルータをまたがって検索できない場合があります。詳細はネットワーク管理者へご相談ください。
- 5 画像モードを設定します。
 - 品質 (Q) : 高、中、低 から選択します。(下記参照)
 - 画像の拡大縮小 (A) : チェックを入れるとコンピュータのスクリーン解像度を自動的にプロジェクトャーの投射スクリーン解像度に調整します。
- 6 キャプチャー開始時間を秒単位で設定します。
 - ☞ キャプチャー開始時間はコミュニケーションモード使用時に有効な設定になります。コミュニケーションモードで、「キャプチャ送信」を選択してから実際のスクリーン画像のキャプチャデータを取得、送信するまでの時間を設定します。初期値は 0 秒、最大は 60 秒まで設定できます。
- 7 「OK」を押して設定を完了します。



画質モードについて

品質：キャプチャー画像の品質モードは以下の JPEG 圧縮モードになります。

- 高：JPEG 低圧縮モード（高品質）
- 中：JPEG 中圧縮モード（標準）
- 低：JPEG 高圧縮モード（低品質）

リアルタイムキャプチャーを使う

コンピュータのスクリーン画像をリアルタイムでプロジェクターへ投射する機能です。

プロジェクターで投射するコンピュータのキャプチャー画面は、コンピュータ、Web ブラウザ、プロジェクターからそれぞれ選択可能です。Web ブラウザ、または、プロジェクターからキャプチャーするコンピュータを選択する場合は、使用するコンピュータを事前に登録する必要があります。以下の説明に従って登録します。

コンピュータを登録する

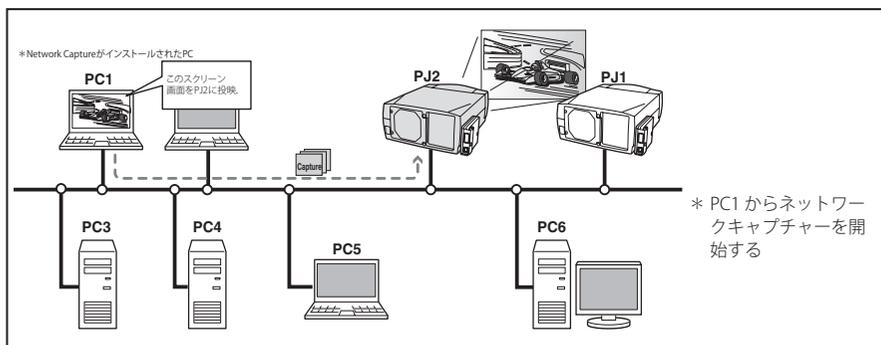
30 台までのコンピュータを登録可能です。

- 1 Web ブラウザを使用し、プロジェクターの設定画面にアクセスします。メインメニューより「ネットワーク」-「キャプチャー」タブをクリックし設定画面を表示します。(※p.37)
- 2 ページ番号 [3] のタブをクリックし接続先設定ページに切り換えます。それぞれの PC 番号にコンピュータの IP アドレスを入力した後、「設定」ボタンをクリックし登録します。ページ毎に「設定」ボタンをクリックして登録します。



- ☞ 接続先として選択したコンピュータには Network Capture アイコンがタスクバーに現れている場合のみキャプチャーを開始することが可能です。
- ☞ リアルタイムキャプチャーでのキャプチャー画像の送信スピードはネットワーク環境と送信画像の容量に依存します。コンピュータの解像度 XGA、画像品質：高の画像を送信するスピードは約 2 枚 / 秒が最大となります。動画の再生には対応していません。

[1] コンピュータから操作する

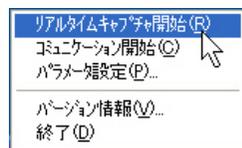


プロジェクターの入力モードに「ネットワーク」を選択します。

- 1 タスクバー上の Network Capture 3 アイコンをクリックします。
- 2 ポップアップメニューから「リアルタイムキャプチャー開始 (R)」をクリックします。プロジェクターの投映スクリーン上にコンピュータの画面がリアルタイムに投映されます。

- ・キャプチャーの停止はポップアップメニューから「リアルタイムキャプチャー停止 (S)」をクリックします。プロジェクターのスクリーン上には静止したコンピュータのキャプチャー画像が投映されます。
- ・投映を再開するには、ポップアップメニューから「リアルタイムキャプチャー再開 (R)」をクリックします。

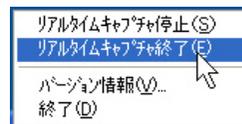
- 3 キャプチャーの終了はポップアップメニューから「リアルタイムキャプチャー終了 (E)」をクリックします。



タスクバー上のアイコン



待機中 キャプチャー中
 (III と雷マークが黄色に変わります)

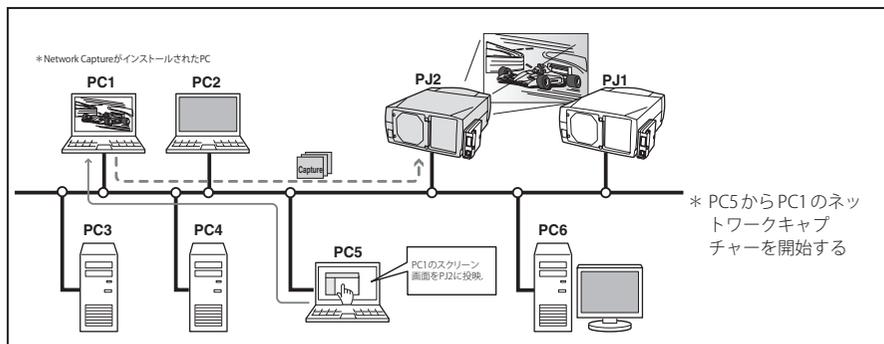


プロジェクターに設定されている「ネットワーク暗証番号」とパラメータ設定で設定した「暗証番号」が異なる場合、「暗証番号設定」ウインドウが表示されます。暗証番号を入力し「OK」をクリックします。



エラーメッセージが表示される場合には前項の「パラメータを設定する」を確認してください。(※p.71)

[2]Web ブラウザから操作する



プロジェクターの入力モードに「ネットワーク」を選択します。

1 Web ブラウザを使用し、プロジェクターの設定画面にアクセスします。メインメニューより「ネットワーク」-「キャプチャー」タブをクリックし設定画面を表示します。(※p.37)

2 接続先のプルダウンメニューボタンから接続するコンピュータの番号を選択し、「開始」ボタンをクリックします。プロジェクターの投影スクリーン上にコンピュータの画面がリアルタイムに投影されます。

- キャプチャーの停止は「停止」ボタンをクリックします。プロジェクターのスクリーン上には静止したコンピュータのキャプチャー画像が投影されます。
- 投影を再開するには、「再開」ボタンをクリックします。

3 キャプチャーの終了は「終了」ボタンをクリックします。

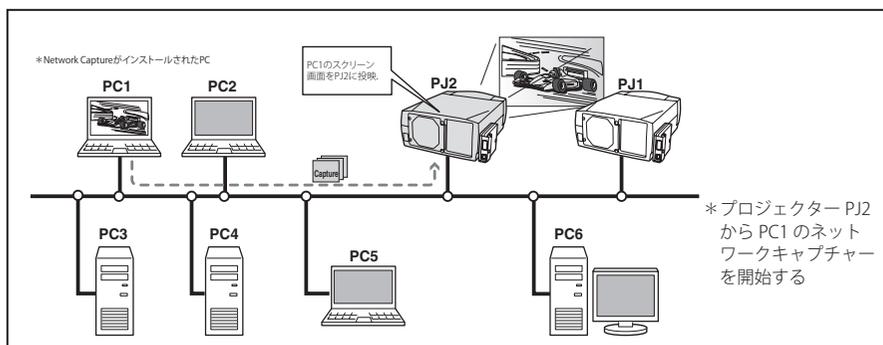


☞ 接続先コンピュータのIPアドレスを予め登録しておきます。(※p.72)

☞ エラーメッセージが表示される場合には前項の「パラメータを設定する」を確認してください。(※p.71)

☞ キャプチャー機能は、コンピュータに Network Capture 3 ソフトウェアがインストールされ、タスクバーにアイコンが常駐している状態であれば、Web ブラウザ、またはプロジェクターからコントロールすることが可能です。

[3] プロジェクターから操作する



プロジェクターの入力モードに「ネットワーク」を選択します。

- 1 「ネットワーク」メニューから「ネットワークキャプチャー」アイコンを選択し「OK」ボタンを2回押します。ネットワークキャプチャー設定パレットが表示されます。
- 2 接続する PC 番号を選択します。
- 3 「接続」を選択し「OK」ボタンを押します。プロジェクターの投影スクリーン上にコンピュータの画面がリアルタイムに投影されます。
- 4 キャプチャーの終了は「切断」を選択し「OK」ボタンを押します。



- ☞ 接続先コンピュータの IP アドレスを予め登録しておきます。(※p.72)
- ☞ エラーメッセージが表示される場合には前項の「パラメータを設定する」を確認してください。(※p.71)
- ☞ プロジェクター側から選択可能な PC は PC1 ～ PC10 までです。その他の PC は選択できません。
- ☞ プロジェクター側から接続先コンピュータの IP アドレスの登録やパラメータの設定はできません。予め Web ブラウザを使用し登録しておきます。(※p.71-72)

高度な使用例

リモコンをワイヤレスマウスとして使用し、プロジェクターからコンピュータに保管しているプレゼンデータを表示する

1 プロジェクターを操作し、コンピュータ PC1 のキャプチャーを開始する。

メニューから「ネットワークキャプチャー」アイコンを選択し、PC1 を選択、「接続」を選択する。(☞ p.75 参照)
=> 指定されたコンピュータ PC1 にインストールされた Network Capture ソフトウェアがキャプチャーを開始します。

2 スクリーン上に投映された PC1 のキャプチャー画面より、プロジェクター付属のリモコンのワイヤレスマウス機能を使用し、PC1 に保存されているプレゼンテーション用ファイルを探します。

3 任意のファイルを選択し、リモコンでダブルクリックします。

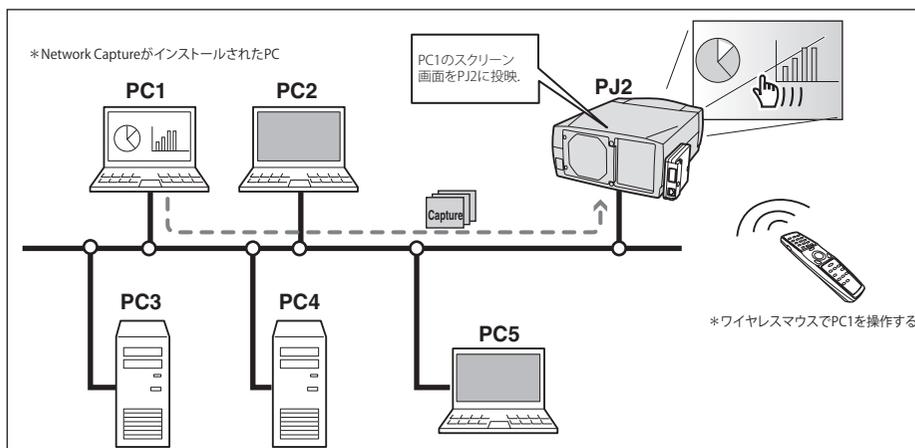
=> 書類作成元のアプリケーションが起動し、プレゼンテーション画面をスクリーン上に投映します。

4 プレゼンを開始する。

=> ワイヤレスマウスを使用して、ページの送り/戻りを操作します。その他、PC1 の操作を行います。

☞ ワイヤレスマウスの操作方法については、プロジェクターの使用説明書をご参照ください。

☞ ネットワークキャプチャーで投映される画面では、マウスポイントの形状がコンピュータ画面上とは異なります。



設定条件

プロジェクター

入力モード：ネットワーク

ネットワークユニット

接続先の登録：PC1 にコンピュータの IP アドレスと適切なパラメータ設定がされていること (☞ p.71-72)

マウス表示：ON (☞ p.74, p.75)

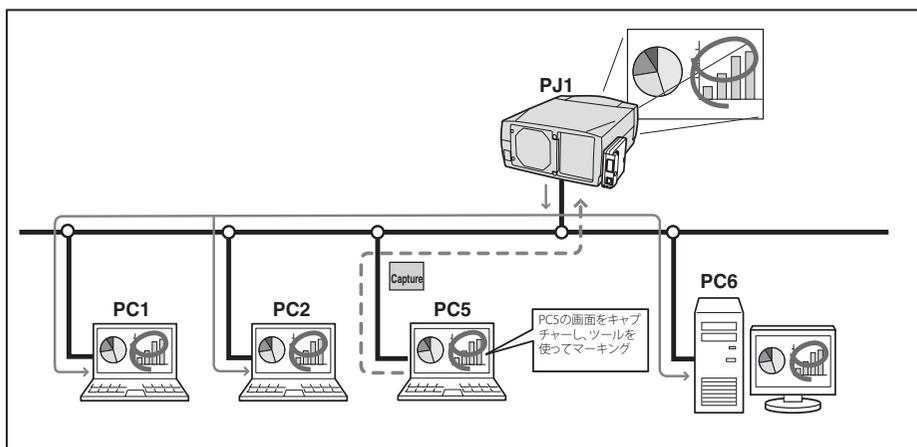
コンピュータ PC1

ソフトウェア：Network Capture がインストールされ、起動していること (タスクバーにアイコンが表示されている状態)

ネットワークコミュニケーションを使う

ネットワークコミュニケーションとは、1台のコンピュータ画面のキャプチャー画像を複数のコンピュータ間で共有し、このキャプチャー画像上に描画ツールを使って文字や図形（描画情報）を書き入れ、コミュニケーションを取るモードです。

1台のメインPCはコンピュータ画面のキャプチャー画像に描画情報を書き入れ、プロジェクターへ送信します。プロジェクターはこのキャプチャー画像をスクリーン上へ投射すると同時に、他のPC(サブPC)へこのキャプチャー画像を配信します。サブPCでは、配信されたキャプチャー画像を画面上に表示し、文字や図形を書き入れることができます。この編集されたキャプチャー画像は、即座に全てのPCのキャプチャー画像に反映されます。



*メインPCとはコミュニケーション機能を開始したPCのことで、自分のPCのスクリーンキャプチャー画像をサブPCへ配信します。また、コミュニケーション全体を終了する権限を持ちます。メインPCになるには「コミュニケーション開始」を実行するか、「キャプチャ送信」を実行します。詳細は「ネットワークコミュニケーションの使い方」(p.81)を参照ください。

*サブPCとはメインPCからのキャプチャー画像を受信するPCのことです。コミュニケーション中でも、サブPCはいつでもメインPCになることができます。

ネットワークコミュニケーションを使う前に設定すること

ネットワークコミュニケーションを使うには、ネットワークユニットのキャプチャー設定が次の [1]、または [2] のように設定されていなければなりません。

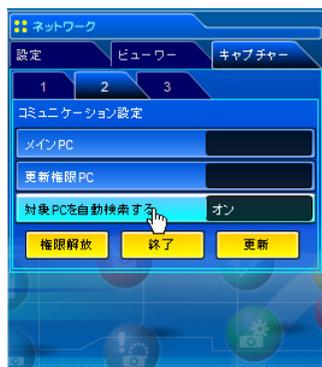
[1] ネットワークユニットが対象 PC を自動検索する設定になっている。或いは、[2] 対象の PC がネットワークユニットに登録されている。

以下の手順に従ってキャプチャーの設定を行ってください。

[1] ネットワーク上のすべての PC へキャプチャーデータを配信する場合

Web ブラウザより、「ネットワーク」 - 「キャプチャー」 - 「ページ [2] コミュニケーション設定」を表示します。項目「対象 PC を自動検索する」の設定が「オン」であることを確認します。「オフ」の場合は、項目をクリックして「オン」に変更します。

* 30 台までの PC を自動検出可能です。



[2] ネットワーク上の特定の PC へキャプチャーデータを配信する場合

上記 [1] で説明した項目「対象 PC を自動検索する」の設定を「オフ」に設定します。さらに、Web ページの「ネットワーク」 - 「キャプチャー」 - 「ページ [3] 接続先設定」を表示します。配信する PC のアドレスを入力し「設定」をクリックし登録します。

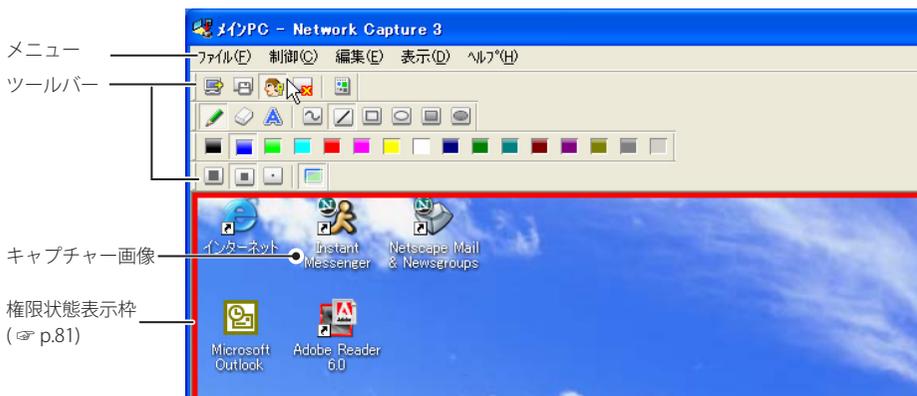
* 30 台までの PC を登録可能です。



☞ 配信されたキャプチャーデータの表示は、Network Capture 3 が起動している必要があります。

キャプチャー編集ウインドウの説明

タスクバー上の Network Capture 3 アイコンをクリックし、ポップアップメニューから「[コ]ミュネーション開始 (W)」を選択すると、以下のキャプチャー編集ウインドウが表示されます。各々のメニューの基本動作は以下のメニューツリー項目を参照ください。



メニューツリー

メニュー	サブメニュー	動作	
ファイル (F)	コミュニケーション保存 (S)...	キャプチャー編集画面をデータ (JPEG) として保存します。保存ダイアログウインドウが表示されます	
	コミュニケーション終了 (E)*メイン PCのみ	コミュニケーションモードを終了します	
	編集終了 *サブ PCのみ	編集ウインドウを閉じます	
制御 (C)	キャプチャ送信 (C)	画面のキャプチャーを取得し、ネットワークユニットへ送信します	
	権限 (A)	キャプチャー画像を編集する権限の取得/開放を行います	
編集 (E)	ツール (T)	鉛筆 (P)	鉛筆ツールが選択されます
		消しゴム (E)	消しゴムツールが選択されます
	文字枠 (L)	文字枠ツールが選択されます	
	形状 (F)	フリー (F)	フリーハンドで描画します
		直線 (L)	直線を描画します
		四角形 (S)	四角形を描画します
		楕円 (O)	楕円を描画します
		四角形 (塗りつぶし)(Q)	塗りつぶしの四角形を描画します
	楕円 (塗りつぶし)(V)	塗りつぶしの楕円を描画します	
	属性 (B)...	属性設定ウインドウが表示されます	
一括消去 (D)	描画を全て消去します		
元に戻す (N)	最後に実行した処理を取り消します		
表示 (D)	フルスクリーン (U)	キャプチャー画像をフルスクリーンで表示します	
	ツールバー (T)	標準 (S)	標準ツールバーの表示/非表示を切り換えます
		形状 (F)	形状ツールバーの表示/非表示を切り換えます
		色 (C)	色ツールバーの表示/非表示を切り換えます
		属性 (A)	属性ツールバーの表示/非表示を切り換えます
最前面に表示 (F)	キャプチャーウインドウを常に最前面に表示します		
ヘルプ (H)	バージョン情報 (V)...	ソフトウェアのバージョンを表示します	

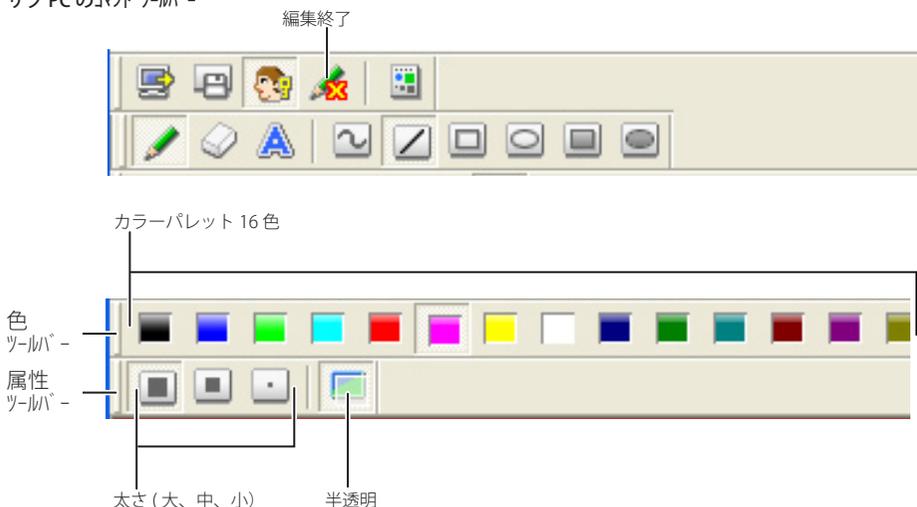
ツールバーボタンの名称

ツールバーボタンには以下のコマンドが割り当てられています。各々の動作はメニューツリーの説明を参照ください。

メイン PC のコマンド ツールバー



サブ PC のコマンド ツールバー

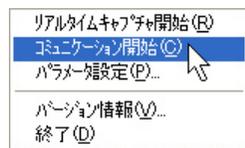


- ⑦ ツールバーの表示/非表示の切り替えは、メニューより「表示 (D)」-「ツールバー (T)」より行います。
- ⑧ 標準ツールバー、形状ツールバー、色ツールバー、属性ツールバーはドラッグアンドドロップすることで、並び替えや結合、および、フローティングパレットへ変更することができます。
- ⑨ 選択しているツールや権限モードによっては、使用できないツールボタンがあります。この場合、ボタンはグレーで表示されます。

ネットワークコミュニケーションの使い方

コミュニケーションを開始する

- 1 送信したい画像をコンピュータの画面上に表示します。
- 2 タスクバー上の Network Capture 3 アイコンをクリック、ポップアップメニューから「コミュニケーション開始 (C)」を選択します。
コンピュータの画面上にキャプチャー編集ウインドウがキャプチャー画像と共に表示されます。
 - ☞ エラーメッセージが表示される場合には「パラメータを設定する」(esp.71)を確認してください。
 - ☞ タスクバー上のアイコンは右のようにアクティブになります。



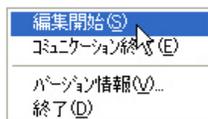
タスクバー上のアイコン



待機中 コミュニケーション中
(IIIと雷マークが黄色になります)

コミュニケーションに参加する (サブPCのみ)

- 1 タスクバー上の Network Capture3 アイコンがアクティブになりコミュニケーションが開始されていることネットワーク上のユーザーに知らせる。Capture3 アイコンをクリックしてポップアップメニューを表示させます。
- 2 メニューより、「編集開始 (S)」を選択する。画面上にキャプチャー編集画面が表示されます。



コミュニケーションから抜ける (サブPCのみ)

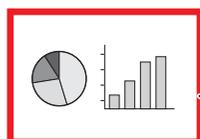
- ツールバー上の「編集終了: 」ボタンをクリックします。
キャプチャー編集ウインドウが閉じられます。
- ☞ 権限を取得した状態で編集終了を実行すると、権限は開放モードになります。

コミュニケーションを終了する

- ツールバー上の「コミュニケーション終了: 」ボタンをクリックします。
キャプチャー編集ウインドウが閉じられます。
- ☞ コミュニケーションの終了は、メインPCでのみ実行可能です。
 - ☞ 他のPCが権限を取得中の場合は、終了できません。強制的に終了する場合は、タスクバー上のアイコンをクリックし、ポップアップメニューから「終了」を選択します。

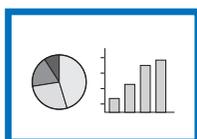
キャプチャー画像の編集権限の取得と開放について

キャプチャー画像を編集するには、それぞれのPCにて編集権限を取得する必要があります。権限を取得するには、「権限: 」ボタンをクリックします。その後、キャプチャー画像を編集します。キャプチャー編集ウインドウは、以下のように各権限状態に応じて画像枠の色をかえて権限状態を表します。



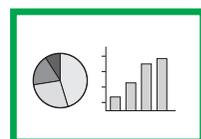
権限取得中

赤



他のPCが権限取得中

青



権限取得可能

緑

キャプチャー画像を編集する

図形を描く

- 1 ツールバー上の形状ツールから「鉛筆： 」ボタンをクリックします。
- 2 ツールバー上のツールより鉛筆の形状、線の太さ、色、半透明を選択します。
- 3 画面上にポインタをドラッグし図形を描画します。

描画オブジェクトを消す

- 1 ツールバー上の形状ツールから「消しゴム： 」ボタンをクリックします。
- 2 ツールバー上のツールより消しゴムの形状、太さを選択します。
- 3 画面上にポインタをドラッグし図形を消します。

描画のヒント

- ☞ 直線ツール shift キーを押しながらドラッグすると垂直線、または、水平線が描けます
- ☞ 四角形ツール shift キーを押しながらドラッグすると正方形が描けます
- ☞ 楕円ツール shift キーを押しながらドラッグすると真円が描けます
- ☞ 取り消しは、メニューより、「編集」 - 「元に戻す」を選択します
- ☞ 画面上のすべての描画オブジェクトを消去するには、メニューより、「編集」 - 「一括消去」を選択します。
- ☞ 右クリックで表示されるメニューからでもツールの選択や属性を変更することができます。

描画ツール属性の設定

ツールバー上の「属性： 」ボタンをクリックすると、下記ウィンドウが表示される。このウィンドウは形状ツールに鉛筆、消しゴムツールを選択している場合のみ表示されます。



文字を入力する

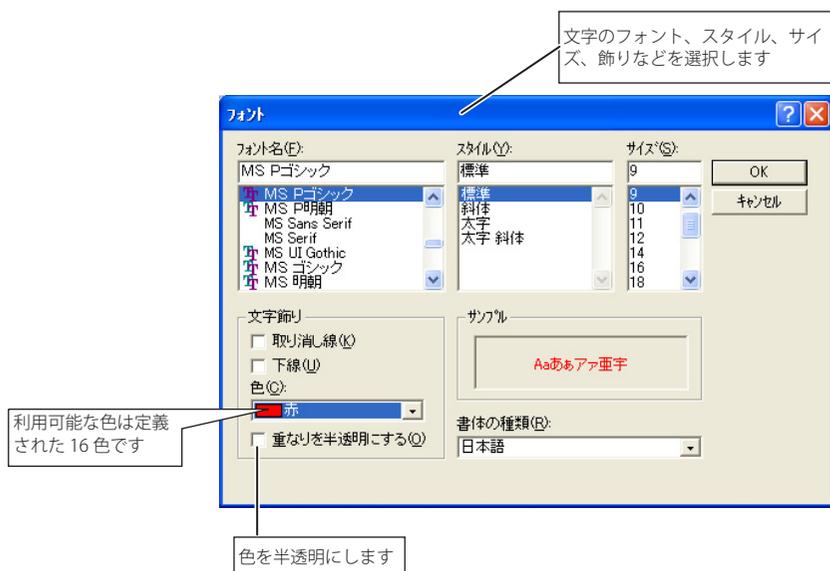
- 1 ツールバー上の形状ツールから「文字枠： 」ボタンをクリックします。
- 2 ツールバー上のツール文字の色を選択します。
- 3 画面上にポインタをドラッグし文字枠の領域を指定します。右の文字入力ウィンドウが表示されます。
- 4 ウィンドウに文字を入力します。
 - ☞ 文字の属性を変更する場合は、「文字属性」をクリックして属性を変更します。(詳細については下記「文字属性の設定」を参照)
- 5 「OK」をクリックして内容を確定する。入力した文字が画面上に表示されます。



- ☞ 範囲指定した文字枠に文字が入りきれない場合は、文字枠は自動的に下方へ拡張されます。
- ☞ 文字枠に入力可能な文字数は全角で 500 文字までです。文字枠のサイズは最大 50 文字、最大 15 行表示可能です。

文字属性の設定

文字枠ツールを選択した上で、ツールバー上の「属性： 」ボタンをクリック、または、上記文字入力ウィンドウ上の「文字属性」ボタンをクリックすると、下記文字属性設定ウィンドウが表示されます。



ネットワークコミュニケーションの操作と状態変遷

ネットワークコミュニケーションは1台のPC、または、複数台のPCとプロジェクターがネットワークで接続されている環境下でご使用になれます。

準備

対象PC上にNetwork Capture 3が起動中であること (p.70)、プロジェクターはスタンバイ、または、電源ONであること。プロジェクターに対象PCとして登録されていること。(p.78)

		メイン PC からの操作	サブ PC からの操作		
コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 中	① コミュニケーション開始 →キャプチャ編集ウィンドウが画面上に表示される。タスクバー上のアイコンがアクティブになる	権限枠 赤	→タスクバー上のアイコンがアクティブになり、キャプチャー画像が配信されていることをユーザーに知らせる ①「編集開始」を実行する →メインPCのキャプチャー画像がスクリーンに表示される	権限枠 青	
	② ツールを使用し、キャプチャー画像を編集する →編集内容は自動送信される	赤	→メインPCの編集内容が編集画面に反映される	青	
	③ 編集権限を開放する →権限状態枠は緑色になる	緑	→権限状態枠は緑色になる	緑	
	→権限状態枠は青色になる	青	② 編集権限を取得する →権限状態枠は赤色になる	赤	
	→サブPCの編集内容が編集画面に反映される	青	③ ツールを使用し、キャプチャー画像を編集する →編集内容は自動送信される	赤	
	→権限状態枠は緑色になる	緑	④ 編集権限を開放する →権限状態枠は緑色になる	緑	
	④ 編集権限を取得する →権限状態枠は赤色になる	赤	→権限状態枠は青色になる	青	
	⑤ 必要なら、ステップ②、③を繰り返す		⑤ 必要なら、ステップ②～④を繰り返す		
	⑥ 「キャプチャ送信」を実行する →新しいキャプチャー画像を取得し、編集ウィンドウを更新する	赤	→新しいキャプチャー画像が編集ウィンドウに反映される	青	
	⑦ ステップ②～⑤を繰り返す				
⑧ コミュニケーションを終了する →キャプチャ編集ウィンドウが閉じられる	赤	→キャプチャ編集ウィンドウが閉じられる			

☞ プロジェクターの入力モードに「ネットワーク」が選択されている場合には、編集されたキャプチャー画像がスクリーン上に投映されます。

☞ キャプチャー保存コマンドは権限状態に関係なく実行可能です。

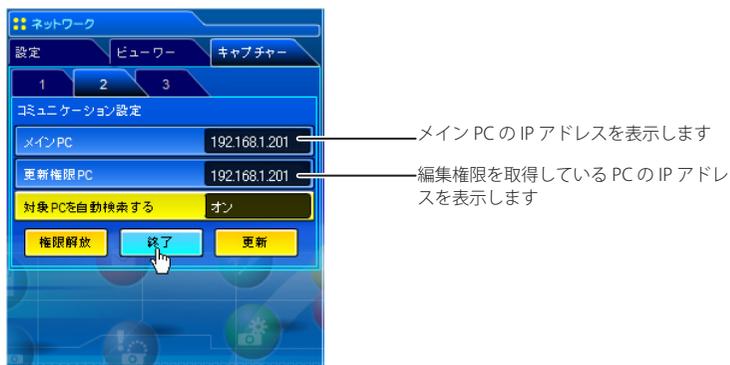
☞ 矢印 (→) はコマンド実行に対する応答を意味します。

☞ サブPCからの「終了」または「編集終了」は、他のPCのコミュニケーション機能に影響を与えません。

強制モードを実行する

Web ブラウザでのネットワークキャプチャー設定には、ネットワークコミュニケーション使用時、以下のような強制実行コマンドを用意しています。他 PC が権限を取得したまま開放しない場合や、コミュニケーションの通信状態が不安定な場合、強制的に権限の開放やコミュニケーションの終了を実行できます。

Web ブラウザより、「ネットワーク」-「キャプチャー」-「ページ [2] コミュニケーション設定」をクリックします。「権限開放」、「終了」または「更新」 ボタンをクリックしてコマンドを実行します。



項目	説明
権限開放	編集権限を強制的に開放します。 → 全ての PC のキャプチャー編集画面を強制的に権限取得が可能な状態に設定します
終了	コミュニケーションを強制的に終了します。 → 全ての PC のキャプチャー編集画面は閉じられます。
更新	最新のコミュニケーション状態を取得します。 → メイン PC、更新権限 PC の IP アドレスを更新します。

エラー情報

エラーメッセージ	原因と対応
パラメータを設定してください	「コミュニケーション開始」実行時、パラメータの設定（ホスト名、キャプチャポート）がされていない →パラメータ設定を確認します（☞ p.71）
プロジェクトにグループ登録されていません	「コミュニケーション開始」実行時のエラー、使用 PC の IP アドレスがプロジェクトに登録されていない。 → Web ブラウザより、コミュニケーション設定 PC が使用できるように設定する。（☞ p.78）
プロジェクトが画像表示中のため表示できません	「リアルタイムキャプチャ開始」、「コミュニケーション開始」実行時、他のプロジェクト表示機能がすでに表示処理中である →プロジェクトでコミュニケーションを利用できるまで待機
プロジェクトに接続できません	「コミュニケーション開始」、「コミュニケーション終了」、「キャプチャ送信」、「リアルタイムキャプチャ開始」、「リアルタイムキャプチャ終了」実行時、プロジェクトに接続できない →プロジェクトとの接続を確認します
プロジェクトにデータ送信できません	「コミュニケーション開始」、「コミュニケーション終了」、「キャプチャ送信」、「リアルタイムキャプチャ開始」、「リアルタイムキャプチャ終了」実行時、プロジェクトにデータを転送できない。 タイムアウトは 10 秒 →プロジェクトとの接続を確認します
プロジェクトからデータ受信できません	「コミュニケーション開始」、「コミュニケーション終了」、「キャプチャ送信」、「リアルタイムキャプチャ開始」、「リアルタイムキャプチャ終了」実行時、プロジェクトからデータを受信できない。 タイムアウトは 10 秒 →プロジェクトとの接続を確認します
他の PC が権限を取得しているため、「ネットワークコミュニケーション」終了できません	「コミュニケーション終了」実行時、他の PC が権限取得中なので、終了できない
他の PC が権限を取得しているため、権限取得できません	「権限取得」実行時、他の PC が権限を取得している。
サーバ名またはアドレスは解決できませんでした	パラメータ設定時、設定したホスト名または、IP アドレスがネットワーク上に見つけれられない →正しいホスト名、または、IP アドレスを設定します
無効なポート番号です	パラメータ設定時、PC にあらかじめ予約されているポート番号を指定しています →パラメータ設定を確認します（☞ p.71）
プロジェクトが「ネットワークコミュニケーション」を開始していません。一旦終了して再度開始してください	コミュニケーション中にプロジェクトの主電源が切られた可能性があります。 →プロジェクトの電源を確認し、「コミュニケーション開始」を再実行します

6

第6章 ネットワークビューワー

ネットワークビューワーとは、ネットワークを通じ、サーバ上に保管された画像ファイルをプロジェクターで投射する機能です。

この章では、最適化された画像ファイルに変換するソフトウェア File Converter1、File Converter2、プログラムを作成する Program Editor の操作方法の説明とネットワークビューワー機能の使用方法について説明します。

投映可能な画像データを作成する [Network Viewer 3]

本プロジェクターに投映可能な画像データ形式は JPEG 形式データ (.jpg) です。JPEG データには様々な形式が存在します。ネットワークビューワー機能をご利用になる前に、本ソフトウェアを使用して、プロジェクターで投映可能な形式の JPEG データに予め変換しておく必要があります。

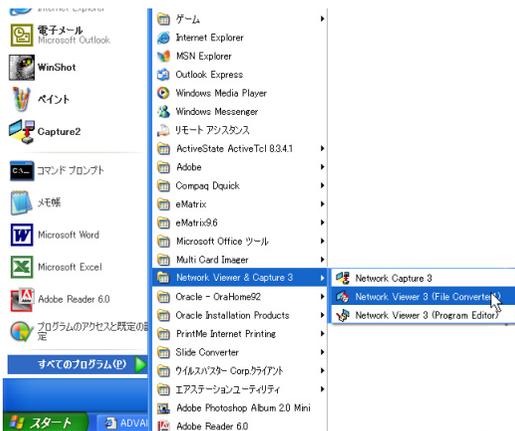
[1] Network Viewer 3 (File Converter1) の使用方法

File Converter1 は、JPEG、ビットマップ、パワーポイントデータからプロジェクターに投映可能な JPEG データ形式に変換するソフトウェアです。

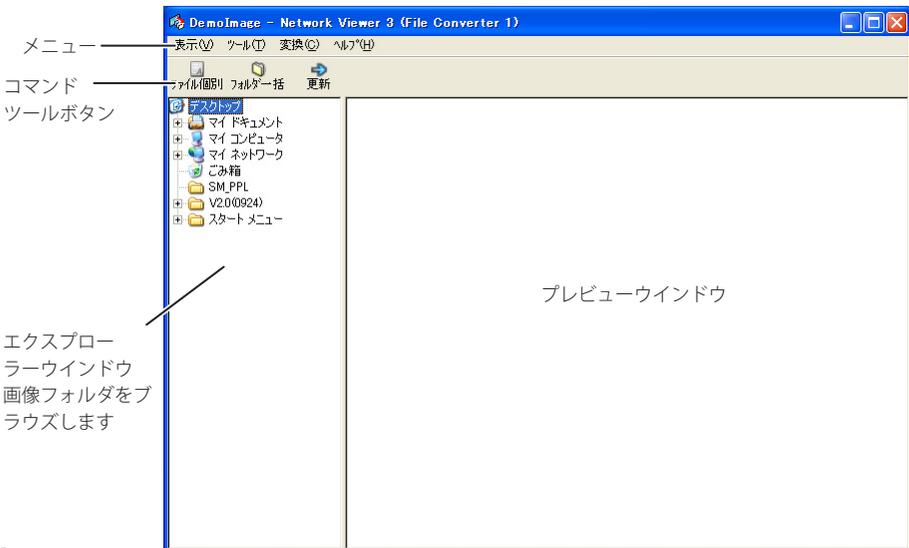
File Converter 1 の起動と終了

「スタート」メニューの「すべてのプログラム (P)」 - 「Network Viewer & Capture 3」から「Network Viewer 3 (File Converter1)」をクリックして起動します。

終了は、ウィンドウ右上の [X] をクリックして終了します。



File Converter1 のウィンドウ

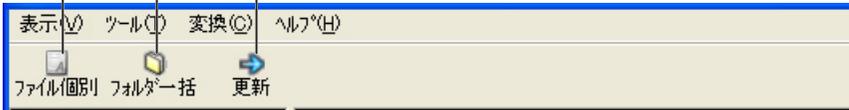


メニューツリー

メニュー	サブメニュー	説明
表示 (V)	最新の情報に更新 (U)	プレビューウィンドウの表示を更新します
	プレビューサイズ (P)	大、中、小のプレビュー画像を設定します
ツール (T)	オプション (O)	変換出力先や変換モードの初期値を設定します
変換 (C)	フォルダ一括変換 (D)	フォルダ内のファイルを一括して JPEG ファイルへ変換します
	ファイル個別変換 (L)	プレビューウィンドウ内のファイルを個別に JPEG ファイルへ変換します
ヘルプ (H)	バージョン情報 (V)	バージョン情報を表示します

コマンドツールボタン

ファイル個別 フォルダ一括 更新

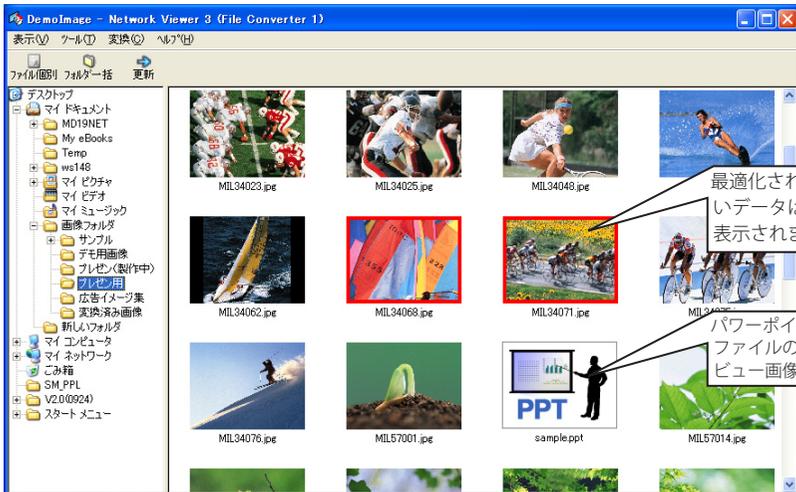


投映用画像データを作成する

1 エクスプローラーウィンドウより、画像を保管しているフォルダを選択します。

選択フォルダ内の変換可能なデータ (JPEG ファイル、ビットマップファイル、パワーポイントファイル) のプレビュー画像プレビューウィンドウに表示されます。

☞ プロジェクター投映用に最適化されていない JPEG ファイルやビットマップ (bmp) ファイルは赤枠で表示されます。赤枠のない画像は一度最適化されたデータです。変換する必要はありません。但し、サイズや品質を変更する場合には再度変換処理を行ってください。



2 ファイルを個別に変換する場合には、プレビュー画像をクリックして選択した後、「ファイル個別」をクリックします。

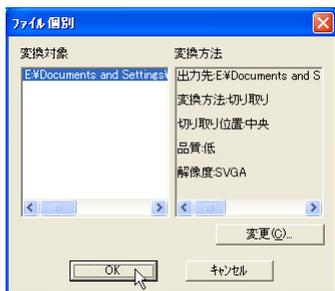
☞ 複数画像の選択は「Shift」キーまたは「Ctrl」キーを押しながら画像をクリックします。

フォルダ内の画像全てを一括で変換する場合には、変換するフォルダを選択し、「フォルダ一括」をクリックします。



3 確認ウィンドウが表示されますので、変換対象と変換方法を確認し、「OK」をクリックすると、変換処理が行われ、出力先に変換後の画像データが作成されます。出力先には PC のローカルハードディスク、ネットワークを通じた共有 PC、FTP サーバーの指定ディレクトリを選択することが可能です。出力先や変換方法の変更は「変更」をクリックします。

☞ パワーポイントファイルが変換対象に含まれている場合には、変換時 Microsoft PowerPoint ソフトウェアが自動的に起動し変換を実行します。



ファイル個別、フォルダ一括変換時のダイアログウィンドウ

☞ パワーポイントファイルを変換するには、Microsoft Power Point ソフトウェアが PC にインストールされている必要があります。

☞ パワーポイントファイルの変換では、すべてのページが JPEG ファイルに変換されます。

出力先、変換モードの設定

前ページのステップ3で「変更」をクリックすると、以下のオプション設定ウインドウが表示されます。

出力先の設定

変換後のファイルの出力先に「フォルダ」或いは「FTP サーバー」を指定します。

フォルダ (L)

出力先フォルダ：ローカルハードディスク或いはネットワーク上の共有 PC の保存先フォルダを指定します

FTP サーバ - (V)

ホスト名：FTP サーバーのホスト名、または、IP アドレスを入力します

ルートフォルダ：通常は "/" を入力します

ユーザ ID：FTP サーバーのアカウント ID を入力します

パスワード：FTP サーバーのパスワードを入力します

出力先フォルダ：FTP サーバー上の保存先ディレクトリを指定します



変換モードの設定

解像度 (E)：変換後の画像の解像度を指定します (VGA ~ SXGA+)

✎ プロジェクターのパネル解像度を超える解像度の画像は表示できません

画像回転 (I)：画像の回転角度指定します (0, 90, 180, 270)

変換方法 (T)

フィット：画像の横幅または高さのいずれかがスクリーンの最大になるように変換します

両端揃え：画像の幅をスクリーンの横幅に合わせて変換します

天地揃え：画像の高さをスクリーンの高さに合わせて変換します

切り取り：画像の大きさに関わらず、スクリーンの投射サイズで切り取ります。切り取りのモードは以下の通りです

✎ 画像を原寸で切り取る場合にはこのモードを選択します。各モードをクリックして選択します

画像品質 (Q)：画像の変換品質を指定します (高、中、低、)



[2] Network Viewer 3 (File Converter2) の使用方法

File Converter 2 は、文章作成ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフト、その他アプリケーションソフトで作成した書類からプロジェクター投映用の JPEG 画像データに変換するためのプリンタドライバです。「印刷」メニューのあるアプリケーションであれば殆どの書類を JPEG ファイルとして変換ことが可能です。

投映用画像データを作成する

- 1 作成元のアプリケーションで書類を開きます。
- 2 「ファイル」 - 「印刷」サブメニューを選択し、印刷ダイアログウインドウを表示させます。ウインドウからプリンタの選択項目で、「Network Viewer 3 (File Converter 2)」のアイコンを選択し、「印刷 (P)」をクリックします。



必要であれば、「詳細設定」でページレイアウトや用紙設定のオプションを設定します。

- 3 保存先を指定して「保存」をクリックします。



- ファイル名は Image001 が初期設定で設定されています。複数ページある場合には 001 から最大 999 まで連番で番号付けされます。
- 解像度、画像品質や変換方式もここで設定します。詳細な説明は「変換モードの設定」をご覧ください。(※p.91)
- 画像データによっては変換後の画像の周囲に白い枠が付く場合があります。

上記変換の手順はコンピュータの環境やアプリケーション毎に異なります。

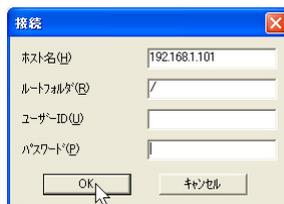
プログラムファイルを作成する [Program Editor]

Network Viewer 3 (Program Editor) は、ファイルサーバー (FTP サーバー) 保管している JPEG 画像ファイルをフォルダ単位で指定、 或いは再生する順番を規定したプログラムファイルを作成するツールです。Program Editor は接続した FTP サーバーのログインルートディレクトリに「DispParam」フォルダを作成し、このフォルダ内に各々のプログラム名でファイルを作成します。このファイルをプログラムと呼びます。Network Viewer 機能を使用して、Web ブラウザよりこのプログラム名を選択することによって、プロジェクターで投映する画像と順序をプログラムすることが可能です。

プログラムを作成する

- 1 「スタート」メニューの「すべてのプログラム (P)」 - 「Network Viewer & Capture 3」から「Network Viewer 3 (Program Editor)」をクリックして起動します。
- 2 「接続」をクリックします。
- 3 接続設定ウィンドウが表示され、項目をそれぞれ入力し、「OK」をクリックします。

接続設定ウィンドウが消え、接続した FTP サーバーのディレクトリにプログラムファイルがある場合には、プログラムリストにプログラム名がリストされます。



項目	説明
ホスト名 (H).....	FTP サーバー名、または、IP アドレスを入力します。
ルートフォルダ (R).....	FTP サーバーの接続先ディレクトリを指定します。通常は "/" を入力します。
ユーザ ID (U).....	FTP サーバーのログインアカウント名を入力します。入力しない場合には FTP サーバーで設定された anonymous アカウントとしてログインできます。
パスワード (P).....	ユーザ ID 用のパスワードを入力します。anonymous アカウントでログインする場合にはパスワード不要です。

重要

FTP サーバーのログインディレクトリのアクセス権は書き込み許可のモードに設定する必要があります。読み込み可のみの設定では「DispParam」フォルダが作成できませんので、エラーになります。

4 「新規 (N)」をクリックします。

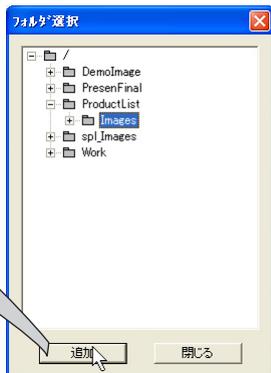
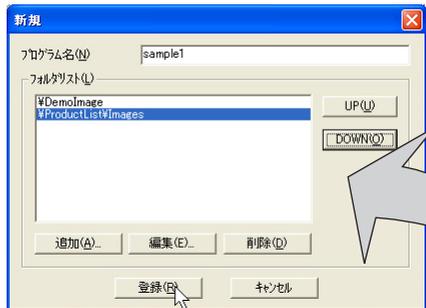
5 プログラム名を入力し、「追加 (A)」をクリックします。



変更 (C) : 内容変更ウィンドウが表示されます

削除 (R) : リストからプログラムを削除します

6 フォルダ選択ウィンドウが表示されますので、投映用 JPEG データを保管したフォルダを選択した後、「追加 (A)」をクリックし、フォルダリストに登録します。



追加 (A) : 追加するフォルダ選択ウィンドウを表示します

削除 (D) : フォルダリストから選択しているリストを削除します

UP(U) : 選択項目を 1 段上げます

DOWN(O) : 選択項目を 1 段下げます

編集 (E) : 画像の表示順序や表示時間を個別に設定する場合に使用します。詳細な情報は次ページ「画像の表示順序・時間を設定する」を参照ください。

表示順は上記フォルダリストのリスト順になります。順番を変更するには、「UP」、「DOWN」ボタンを使用して、フォルダリストの順番を変更します。

作成したプログラムは FTP サーバーのログインルートディレクトリの「DispParam」フォルダに各々保存されます。DispParam フォルダは自動的にプログラムによって作成されます。

7 「登録 (R)」をクリックし、プログラムにフォルダリストを登録します

8 「閉じる」をクリックし、アプリケーションを終了します。

画像の表示順序・時間を設定する

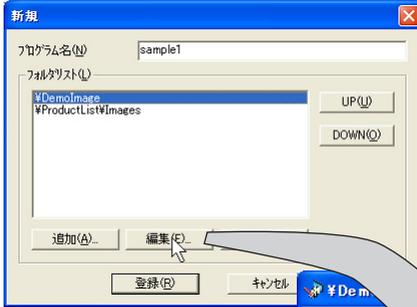
初期設定では、画像の表示順序はファイル名の ASCII コード順です。

表示順序の変更や表示時間を設定する場合には、以下の手順に従って行います。

前ページのステップ 6 のフォルダリストウィンドウを表示します。

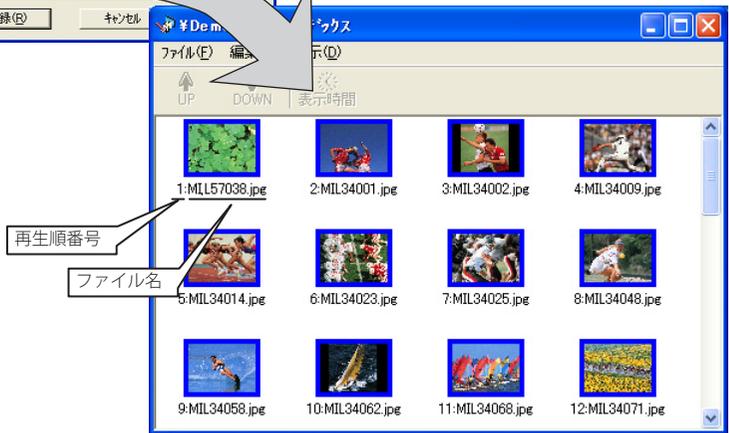
1 変更したい画像を含むフォルダリストを選択します。

2 「編集 (E)」をクリックすると、選択したフォルダに含まれる画像とファイル名がインデックスウィンドウ上に表示されます。



メニューより「表示」-「イメージ」を選択すると、画像のサムネールが表示されます。(初期設定)「アイコン」を選択した場合は、アイコン画像が表示されます。

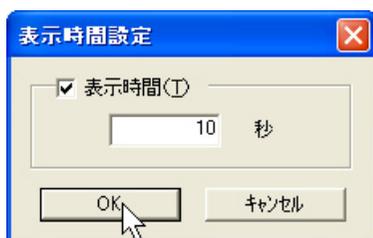
- ☞ サムネール画像の表示には時間がかかります。
- ☞ ファイル名の左の番号が再生する順番を表します。



メニュー	サブメニュー	説明
ファイル (F)	終了 (X)	インデックスウィンドウを閉じます
編集 (E)	UP (U)	画像の表示順を上げます
	DOWN (D)	画像の表示順を下げます
	表示時間 (T)	画像の表示時間を設定します
表示	イメージ (I)	画像のプレビューを表示します
	アイコン (N)	画像を固定アイコンとして表示します
	更新 (U)	インデックスウィンドウ上の画像情報を更新します

3 表示順序を変更するには、変更したいファイルを選択*1し、メニュー上の「UP」または「DOWN」ボタンをクリックし、画像を移動させます。或は、ファイルを選択し、ドラッグ&ドロップで任意の場所に画像を移動させます。

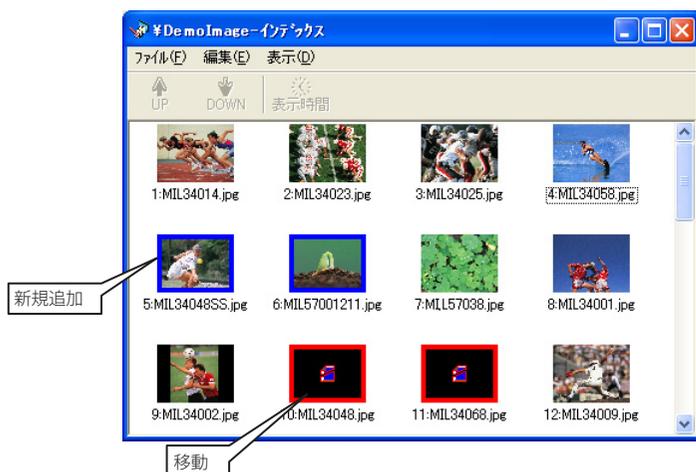
4 表示時間*3を変更するには、変更したいファイルを選択*1し、メニュー上の「表示時間」ボタンをクリックします。時間設定ウインドウが表示されますので、「表示時間(T)」のチェックボックスにチェックを入れ、表示時間を設定します。設定時間無効にするは、「表示時間」のチェックボックスのチェックを外します。



インデックスウインドウ上の画像枠について

インデックスウインドウ上に表示される画像枠には以下の3種類の表示モードがあります。

- 枠無し : フォルダ内の画像に変更が無いことを表す
- 青枠 : 新規に追加された画像を表す
- 赤枠 : 画像が移動され見つからないことを表す

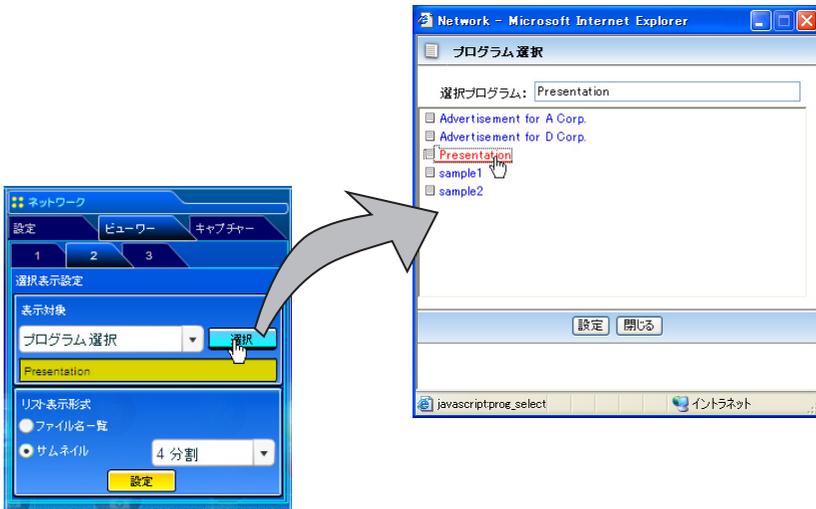


* 1 「Shift」キー、「Control」キーを使用して複数のファイルを選択、或は、マウスカーソルを使用して範囲選択することも可能です。

* 2 表示時間は3～240秒が設定可能です。

作成したプログラムファイルの使用例

Web ブラウザを使用し、プロジェクターの設定画面にアクセスします。メインメニューより「ネットワーク」-「ビューワー」をクリックし、FTP サーバーを指定して接続し、前項で作成したプログラム名を選択して、プロジェクターに画像を投映します。詳細な設定・操作方法は「ネットワークビューワー機能を使う」(p.98) をご覧ください。



☞ 本機能はライトモードでは使用できません。

プログラムファイル作成制限について

作成するプログラムファイルについては以下のように各種制限があります。ご注意ください。

- * 1 ルートフォルダのプログラム数 1000 個以内
- * 1 フォルダのフォルダ数 100 個以内
- * 1 フォルダ (パス) の文字数 半角 255 文字以内
- * プログラムファイル名長 半角 63 文字以内
- * "." (ピリオド) で始まるプログラム名を付けないこと
- * "\$ / ; * ? " < > | " を含むプログラム名を付けないこと
- * 半角スペースで始まるプログラム名はスペースを取り除いて登録されます

ネットワークビューワー機能を使う

ネットワークビューワーとは、ネットワーク上に配置されたファイルサーバーから、ネットワークを介してプロジェクターに投映する JPEG 画像データを取得し投映する機能です。投映する画像データはフォルダ単位で指定します。表示期間や繰り返し回数を設定可能です。また、これらをプログラムとして登録し利用することが可能です。

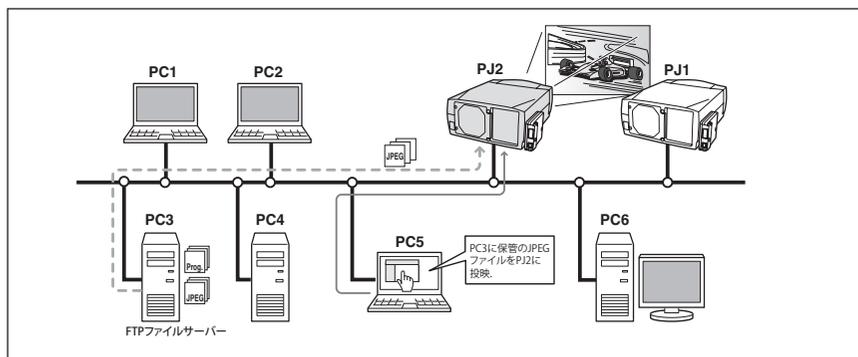
*ネットワークキャプチャー機能使用中はネットワークビューワー機能を使用できません。

ネットワークビューワー機能利用条件：

- * Windows2000 Professional または XP Professional の FTP サービスが利用可能であること
- * FTP サーバーにフルアクセス権を持つアカウントがあること、もしくは、FTP サーバーが anonymous アカウントを許可すること
- * FTP サーバーの同一 IP アドレスからの同時接続数制限が 20 以上であること

この機能を使用するには、Web ブラウザの設定でポップアップウィンドウの表示が許可されている必要があります。「ポップアップブロックを有効にする」に設定されている場合は、許可する設定に変更してください。

[1] Web ブラウザから操作する



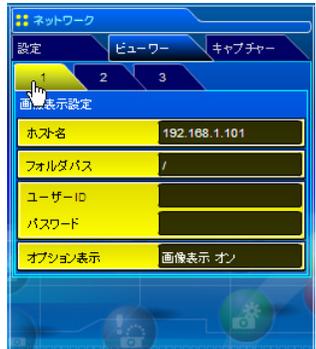
プロジェクターの入力モードに「ネットワーク」を選択します。

1 Web ブラウザを使用し、プロジェクターの設定画面にアクセスする

メインメニューより「ネットワーク」-「ビューワー」をクリックし設定画面を表示します。(☞p.37)

2 FTP サーバーの設定をする～画像表示設定ページ [1] の操作

項目	説明
ホスト名	FTP サーバーのホスト名または IP アドレスを入力します
フォルダパス	通常は "/" (ルートディレクトリ) を入力しますが、サーバーに指定のディレクトリがある場合には、以下のように "/" に続けてディレクトリ名を入力します /data/ *例えば data ディレクトリの場合
ユーザー ID *1	FTP サーバーのアカウント ID を入力します
パスワード *1	FTP サーバーのパスワードを入力します
オブジェクト表示 *1	ブラウザでプレビュー表示する場合には「画像表示オン」を選択します



3 画像を選択する～選択表示設定ページ [2] の設定

表示対象をプルダウンメニュー「フォルダ選択」または「プログラム選択」から選択します。「選択」ボタンをクリックし、リストウインドウから表示する画像の入ったフォルダまたはプログラム名を選択し、「設定」をクリックします。



☞ 本機能はライトモードでは使用できません。

☞ プログラムについては「プログラムを作成する (Program Editor)」(☞ p.93) をご覧ください。

* 1 重要なお知らせ

anonymous アカウント以外の個別のアカウントでログインした場合、Web ブラウザのバージョンによっては、ユーザ ID とパスワードがブラウザ上に表示されることがあります。ご注意ください。通常は anonymous アカウントで本機能をご使用することをお勧めします。

「設定」をクリックします。表示対象で選択したフォルダ、またはプログラムで指定された画像が表示されます。

The screenshot shows the 'Network Viewer' application. On the left is the '設定' (Settings) window with tabs for '設定', 'ビューワー', and 'キャプチャー'. Under '設定', there are sections for '選択表示設定' (Selection Display Settings) and 'リウ表示形式' (Thumbnail Display Format). The '表示対象' (Display Target) is set to 'プログラム選択' (Program Selection). Under 'リウ表示形式', 'サムネイル' (Thumbnail) is selected. A '設定' button is highlighted with a callout arrow pointing to the '画像一覧' (Image List) window.

The '画像一覧' window shows a grid of image thumbnails with file names: MIL34058, MIL34062, MIL34068, and MIL34071. Callouts indicate that clicking a radio button selects the start image for automatic display, and clicking a thumbnail selects a page. Below the thumbnails are navigation buttons: '閉じる' (Close), '<<' (Previous), '>>' (Next), and 'リスト' (List).

ラジオボタンをクリックして自動表示での開始画像を決定します

クリックしてページを選択します

プレビュー画像またはファイル名をクリックするとオリジナル画像を別ウインドウで表示します

ボタン	動作
「<<」	自動表示での開始画像を繰り下げます
「>>」	自動表示での開始画像を繰り上げます
「リスト」	リスト表示モードに切り替えます
「サムネイル」	サムネイル表示モードに切り替えます
「閉じる」	ウインドウを閉じます

☞ 本機能はライトモードでは使用できません。

- ☞ 表示可能な画像は最大 1000 個までです。
- ☞ フォルダを選択した場合、表示画像はフォルダ内の第一階層に存在する画像データのみが表示されます。
- ☞ 画像の表示順はフォルダを選択した場合はファイル名の ASCII 文字順、プログラムを選択した場合は、Program Editor で指定された順番になります。(☞ p.95)

4 自動表示の設定をする～自動表示設定ページ [3] の操作



- 再生の開始は「開始」ボタンをクリックします。プロジェクターの投射スクリーン上に選択したプログラムまたはフォルダ内の画像が投射されます。ブラウザは新規ウインドウを起動し、自動制御のプレビュー画像を順次表示します。
- 自動表示の停止は「停止」ボタンをクリックします。
 - 自動表示を再開するには、「再開」ボタンをクリックします。
 - *自動表示停止中では「<<」ボタン、または「>>」ボタンをクリックして、マニュアル操作にて画像を表示することが可能です。
- 自動表示の終了は「終了」ボタンをクリックします。
 - 「エラー」ボタンを押すと、自動表示中に発生したファイルエラーの詳細情報を表示します。

エラー情報の詳細は次ページをご覧ください。

* 1 プログラムファイルを自動表示に選択した場合、プログラムファイルで個別設定された画像の表示時間が優先される。表示時間設定されていない画像は、このページで設定した表示時間となる。

● 表示期間はネットワークの環境やマルチ制御の動作によって大きく影響されます。従い、指定期間通りに画像表示されない場合があります。

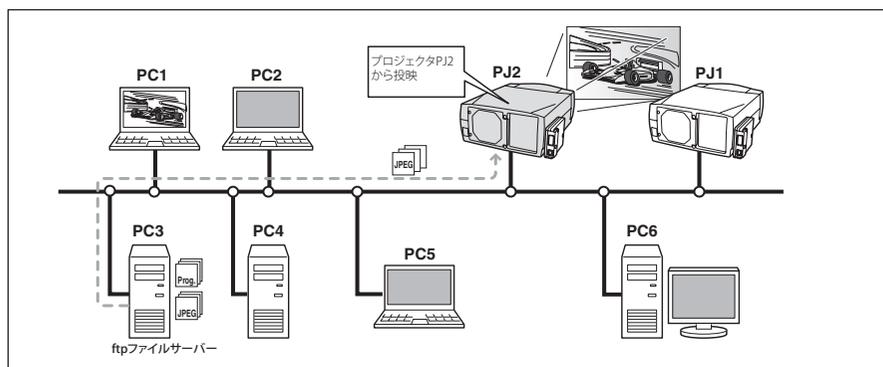
● プロジェクターの投射画面と Web ブラウザ上のプレビュー画面の切り替わりタイミングは同じではありません。

*エラー情報

エラーの種類	説明
ファイルエラー	画像ファイルをFTPサーバーから取得できなかった場合に表示されます。マルチ制御中では、制御元のプロジェクターの電源がOFFされた場合にも表示されます。 「エラー」をクリックして詳細なエラー情報を確認してください。
接続エラー	マルチ制御でネットワークビューワー、または、キャプチャー機能を利用している場合に発生する場合があります。詳細な情報は「マルチ制御/確認・変更」項目でどのプロジェクターにエラーが発生しているかを確認します。(※p.64-65)

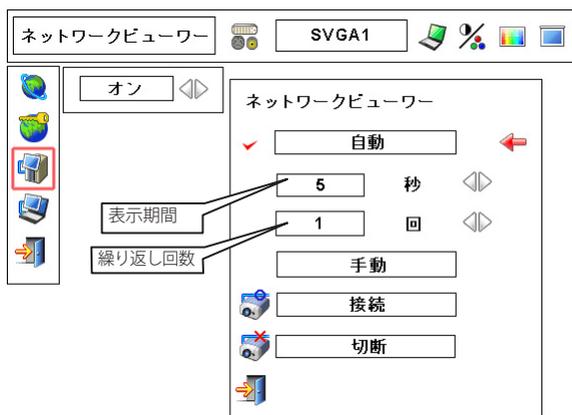
☞ 自動表示中にファイルエラーが発生した場合、メールにて警告メッセージを送信することが可能です。詳細については、「警告メールを送信するオプション選択」の項目を参照してください。(※p.39)

[2] プロジェクターから操作する



プロジェクターの入力モードに「ネットワーク」を選択します。

1 「ネットワーク」メニューから「ネットワークビューワー」アイコンを選択し「OK」ボタンを2回押します。ネットワークビューワー設定パレット表示されます。



- 2 「自動」または「手動」を選択し「OK」ボタンを押します。「自動」の場合は、表示時間と繰り返し回数を設定します。
- 3 「接続」を選択し「OK」ボタンを押します。プロジェクターの投映スクリーン上にFTPファイルサーバーからの画像が投映されます。
 - ☞ 画像再生時にリモコン、またはセット本体のコントロールボタン(▲,▼)を使用して画像表示の送り／戻りを操作できます。
- 4 ビューワーの終了は「切断」を選択し「OK」ボタンを押します。

項目	説明
自動	自動再生モード。表示期間と繰り返し回数を指定します。 秒 画像表示期間 [秒] *表示期間は 3 ~ 240 秒まで設定可能 回 繰り返し回数 *最大 255 回まで設定可能、「∞」はエンドレス再生を表す
手動	手動再生モード。画像表示の送り／戻りを手動で操作します。

- ☞ 自動再生モード [自動] を選択した場合、リモコンの左クリックボタンを押すと、自動再生を停止し手動再生に切り替わります。右クリックボタンを押すと、自動再生を開始します。
- ☞ この機能で使用される画像データは、ネットワークビューワー機能を最後に使用した時のプログラム、或いはフォルダが使用されます。プロジェクター側からファイルサーバーや画像ファイルを指定できません。
- ☞ 表示期間はネットワークの環境やマルチ制御の動作によって大きく影響されます。従い、指定期間通りに画像表示されない場合があります。

7

第7章 シリアルポートを使用する

RS-232C シリアルポートを使用して外部機器を制御する方法を説明します

本製品はシリアル通信端子 (RS-232C) を備えています。この端子にシリアル通信端子を持つ外部機器を接続することで、ネットワークを介して接続した機器のコントロール、及び、シリアル通信機器を使用してプロジェクターのコントロールを行うことができます。外部機器との通信をする前に、以下の「シリアルポートの設定」を行ってください。



シリアルポートの設定を行う

ここでは、本製品の外部シリアルポートの設定を行います。初期設定メニューの「シリアルポート」をクリックすると、以下の設定画面が表示されます。接続した外部機器との通信を正常に行うには、接続した機器のシリアルポートの設定と同じである必要があります。シリアルポート設定のいずれかの項目をクリックすると、設定パレットが現れます。各項目を設定し、「設定」ボタンをクリックします



項目	説明
スピード	シリアル通信の通信スピードです。プルダウンメニューから選択します
パリティ	パリティチェック、データの誤りを検出する方式です
ストップビット	通信の終了を表すビットです
ハードウェアフロー	通信フローの方式です
データ長	1 データの長さを選択します
シリアル制御	コントロールする機器を選択します
外部機器	シリアルポートに接続された外部機器をネットワーク経由でコントロールする場合に選択します
プロジェクター	シリアルポートに接続したシリアルコントローラを使用してプロジェクターをコントロールする場合に選択します
ポート番号	TCP/IP のポート番号を指定します。初期値では 23 です。ご使用するアプリケーションが使用するポートと同じ番号を指定します。また、このポート番号には予約されているポート番号 ^{※1} があります。もし、これらの予約ポート番号を指定した場合は、無効なポート番号として警告ダイアログが画面に表示されます

^{※1} 本製品はポート番号、シリアル制御項目を変更すると、再起動が行われます。

シリアル制御の設定例

シリアルポートに接続した外部機器をコンピュータからコントロールする場合の設定 (コントロール例 1 の場合 ※p.108)

- シリアル制御 : 「外部機器」を選択する
- ポート番号 : コンピュータのセッティングに合わせる。10000 番は使用しない*1
- その他の設定 : 外部機器の通信条件に合わせる



シリアルポートに接続したシリアルコントローラからプロジェクターをコントロールする場合の設定 (コントロール例 3 の場合 ※p.109)

- シリアル制御 : 「プロジェクター」を選択する
- ポート番号 : 指定無し。但し、10000 番は使用しない*1
- その他の設定 : シリアルコントローラの通信条件に合わせる



LAN ポートを使用してコンピュータからプロジェクターをコントロールする場合の設定

- シリアル制御 : 「外部機器/プロジェクター」どちらでもよい
- ポート番号 : 指定無し
- その他の設定 : 指定無し

- * コンピュータ側のポート番号は常に 10000 番を使用してプロジェクターにアクセスします。
- * 具体的な使用例は項目「telnet でプロジェクターをコントロールする」(※p.112)を参照ください。

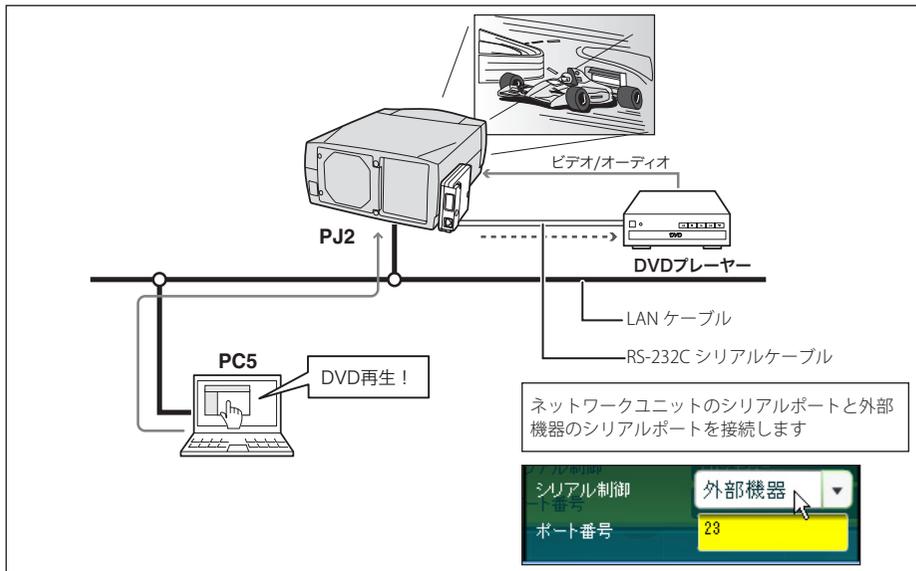


- * 1 ポート番号にはプロトコル毎に http(80), ftp(21), SNMP(25), POP3(110) 等が予約されています。4352、10000、10001 番はプロジェクターをコントロールする場合に使用するよう予約されています。
- ☞ コンピュータでコントロールするには、専用のドライバーソフトが必要です。本製品にはこのドライバーソフトは付属していません。お買い上げ販売店にご相談ください。
- ☞ RS-232C シリアルケーブルはノーマルタイプとリバースタイプの 2 種類あります。通常、本製品とコンピュータ、またはプロジェクターを接続する場合は、リバースタイプを使用します。DVD プレーヤーなどの周辺機器を使用する場合には、ノーマルタイプを使用します。

コントロール例

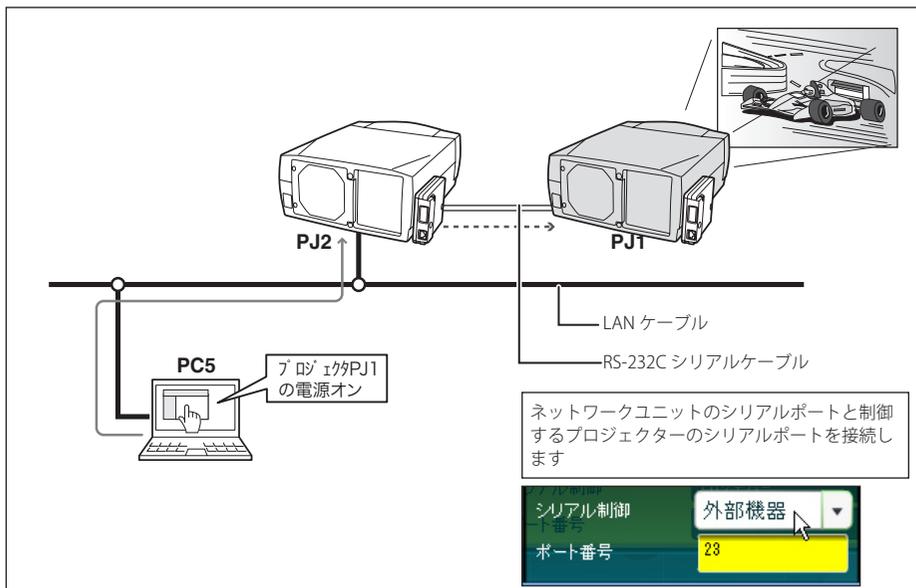
コントロール例 1

AV 機器をネットワークを介してコントロールする。



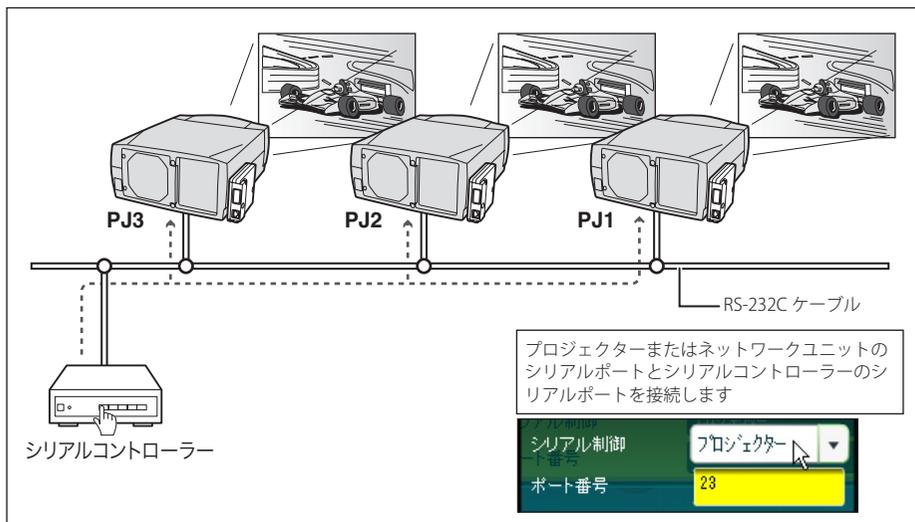
コントロール例 2

ネットワーク非対応のプロジェクターをネットワークを介してコントロールする。



コントロール例 3

シリアルポート (RS-232C) を介して、シリアルコントローラでプロジェクターをコントロールする。



☞ 本製品と周辺機器を接続する場合には、シリアルケーブルの種類にご注意ください。本製品のシリアルポートの極性は、リバース（クロス）用に設定されています。周辺機器を接続する場合には、接続する機器のポートの極性に応じて適切なシリアルケーブルをご使用ください。詳細なピン配置はポート仕様をご覧ください。(☞ p.122).

telnet を使う

コンピュータの telnet*1 機能を利用して本製品の外部シリアルポートに接続した機器のコントロール、及び、プロジェクター自身をコントロールすることが可能です。以下の例では、telnet を使用して外部機器をコントロールする例を説明します。telnet アプリケーションは、外部機器を制御するためのコマンド*2を使用するために必要です。Windows では標準で利用可能です。

準備

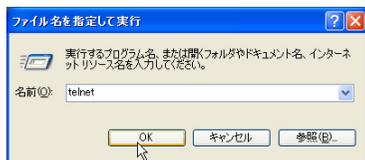
- 1 プロジェクターの電源コードを抜き、ネットワークユニットのシリアルポートと外部機器のシリアルポートをシリアルケーブルで接続します。(ご使用するシリアルケーブルの種類については 109 ページの欄外の注記を参照ください。)
- 2 プロジェクターと外部機器の電源を入れます。
- 3 Web ブラウザを使用し、シリアルポート設定画面を表示します。シリアルポート設定ページ上のいずれかの項目をクリックし、設定パレットを表示させます。(☞ p.106)
- 4 シリアルポートの通信設定を接続した外部機器の通信条件と同じ設定に変更し、「設定」ボタンをクリックします。(☞ p.106)
ここでは当社プロジェクターをシリアルポートに接続し、このプロジェクターを操作する例を説明します。以下ののように設定します。

スピード.....	19200
パリティ.....	なし
ストップビット.....	1
ハードウェアフロー.....	なし
データ長.....	8
シリアル制御.....	外部機器
ポート番号.....	23

コントロールする

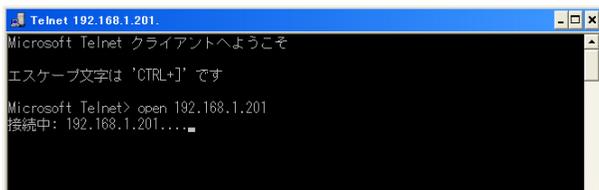
(Windows XP professional の telnet 機能を使用した場合を例に説明します)

- 1 コンピュータの「スタート」メニューから「ファイル名を指定して実行(R)...」を選択します。表示されたウインドウの「名前(O):」に「telnet」と入力し、「OK」をクリックします。



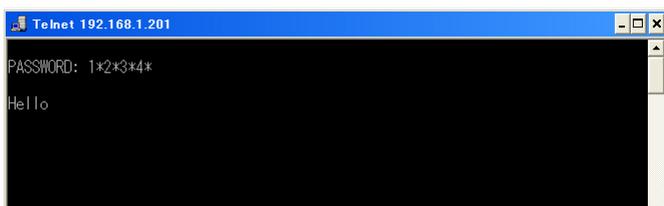
- 2 telnet アプリケーションが起動し、以下のウインドウが表示されます。プロジェクターに接続するために以下のようにタイプします。

> open 192.168.1.201 改行



☞ IP アドレスはプロジェクターに設定されたアドレスを入力します。

- 3 正常に通信が確立すると、以下のウインドウに「PASSWORD:」が表示されるので、プロジェクターに設定したネットワーク暗証番号*3を入力し、「Enter」キーを押します。ネットワーク暗証番号を設定していない場合には、そのまま「Enter」キーを押します。ログインが成功すると、ウインドウに「Hello」が表示されます。



*パスワード「1234」
を入力した例

- 4 外部機器をコントロールするコマンドをキーボードより入力し「Enter」キーを押します。ここではプロジェクターの電源を入れるコマンド「C00」*4をタイプし、「Enter」キーを押します。
- シリアルポートに接続されたプロジェクターの電源が入ります。

接続を切断するには、「Ctrl」キーを押しながら「]」キーを押します。

- * 1 telnet アプリケーションについての詳細な使用方法につきましては、コンピュータのオンラインガイドなどをご覧ください。
- * 2 コマンドは接続する機器独自に定義されています、詳細な情報につきましては、ご使用の機器のメーカーへお問い合わせください。
- * 3 PASSWORD はネットワーク暗証番号のことです。詳細は「ネットワーク暗証番号の設定」を参照ください。(p.22, 35) 入力したパスワードの認証が4回連続して失敗すると、接続が切断されます。再度接続をやり直してください。
- * 4 コマンド「C00」は弊社プロジェクターでは「電源を入れる」に定義されたコマンドです。

telnet でプロジェクターをコントロールする

本製品は telnet 機能を利用して、プロジェクターをコントロールすることができます。通常はシリアル接続した外部機器を telnet を使用してコントロールできますが、telnet ポート 10000 番を使用することで、プロジェクター自身をコントロールすることが可能になります。

*** telnet を使用する場合はプロジェクターのシリアルポート設定には依存しません。**

前項「コントロールする」(☞ p.110)のステップ2でIPアドレスの後に続けてポート番号 10000 を入力します。

```
> open _ 192.168.1.201 _ 10000 改行
```

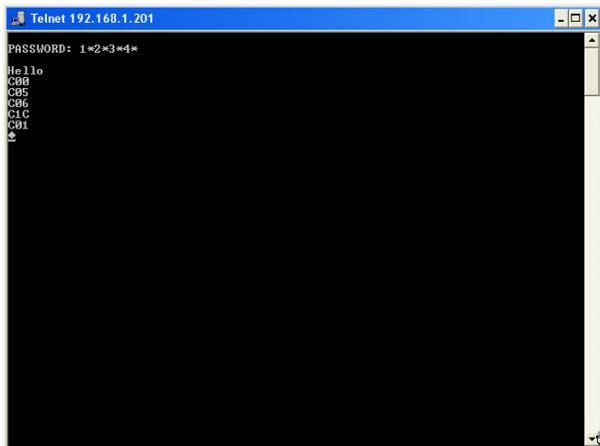


* IPアドレスはコントロールするプロジェクターに設定されたアドレスを入力します。

通信が確立したら、同様にパスワード（ネットワーク暗証番号）を入力します。プロジェクターをコントロールするコマンドをタイプしプロジェクターを制御できることを確認します。

本製品が対応するプロジェクターのコマンドの一例を以下のように記載します。その他のコマンドにつきましては、お買い上げ販売店にご相談ください。

コマンドリスト表



コマンド	機能
C00	電源オン
C02	電源オフ
C05	インプット 1
C06	インプット 2
C07	インプット 3
C09	音量アップ
C0A	音量ダウン
C0B	ミュートオン
C0C	ミュートオフ
C0F	ノーマルスクリーン
C10	フルスクリーン
C1C	メニュー表示
C1D	メニュー非表示
C23	インプット 2 (Video)
C24	インプット 2 (Y,Pb/Cb,Pr/Cr)
C25	インプット 2 (RGB)
C33	インプット 3 (Video)
C34	インプット 3 (S-video)
C35	インプット 3 (Y,Pb/Cb,Pr/Cr)

8

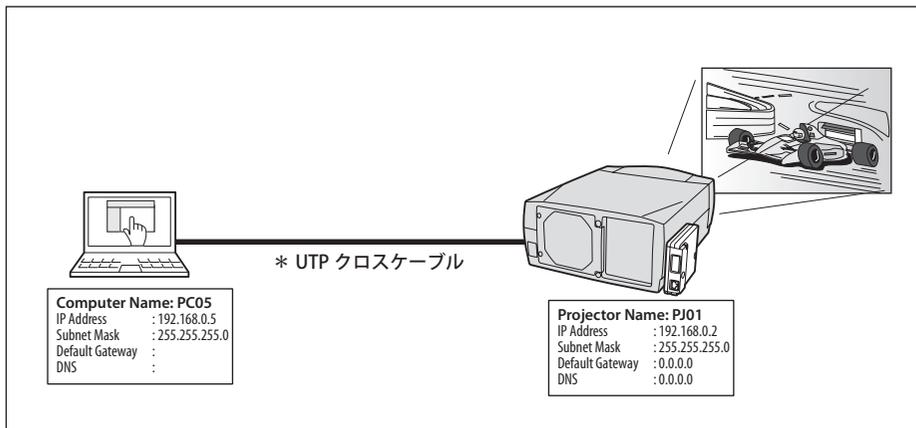
第8章 付録

- ネットワーク設置例
- Web ブラウザの設定
- 製品仕様
- Q&A

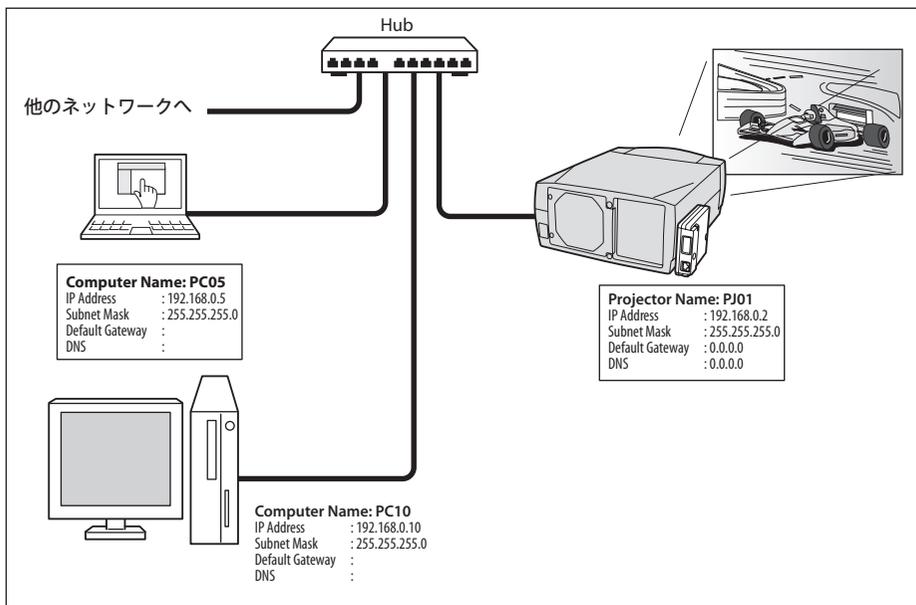
接続例

ピア・ツー・ピア接続

プロジェクター（PJ01）と操作用コンピュータ（PC05）を直接接続する。



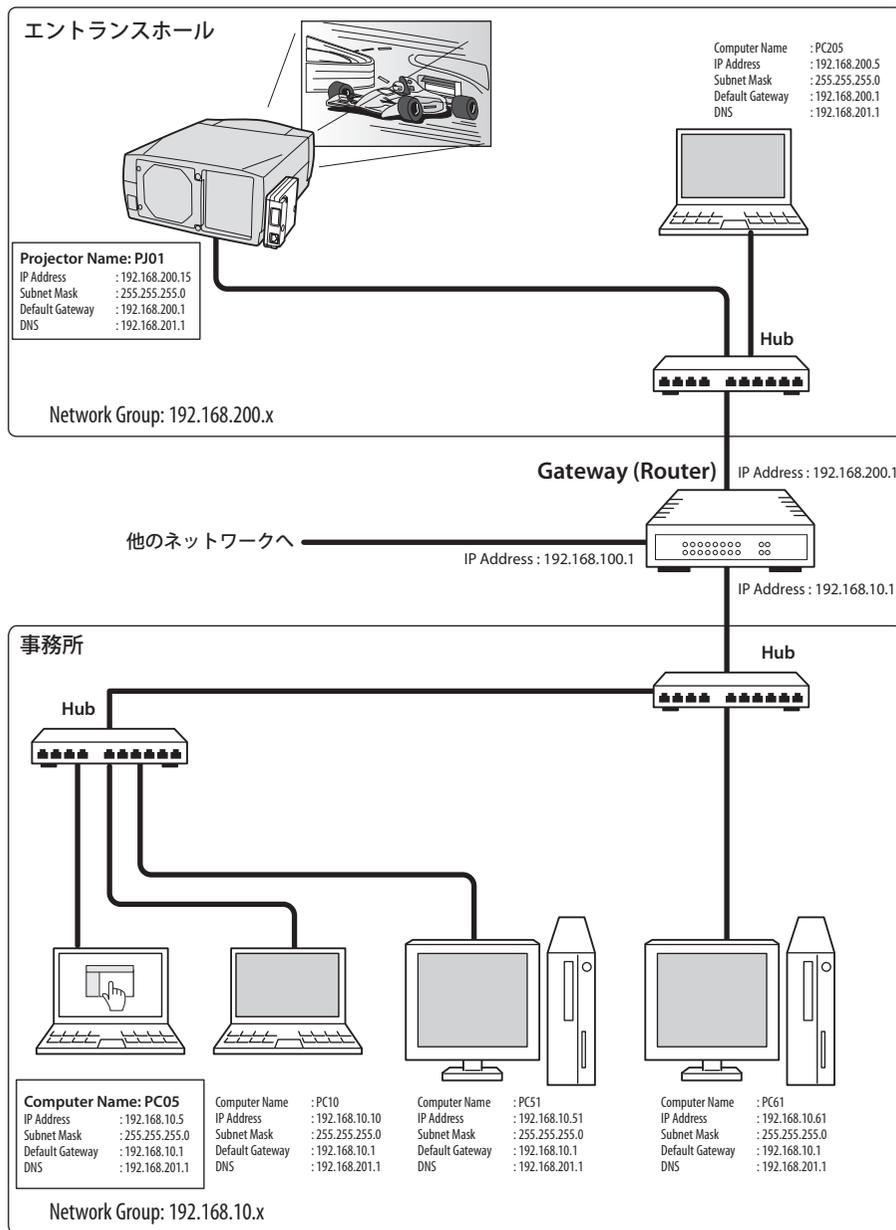
プロジェクター（PJ01）と操作用コンピュータ（PC05）をハブを介して接続する。



ハブを使用しないで直接プロジェクターとコンピュータを接続する場合には、UTP クロスケーブルを使用します。それ以外では UTP ストレートケーブルを使用します。

ゲートウェイ（ルータ）を含む接続例

プロジェクター（PJ01）と操作用コンピュータ（PC05）をゲートウェイを介して接続する。



Web ブラウザの設定

本製品は Web ブラウザを使用して各種プロジェクターの設定を行えるように設計されています。Web ブラウザの設定状態によっては、機能を十分利用できない項目もあります。以下2点の設定が Web ブラウザに設定されていることを確認してください。

アクティブスクリプト /JavaScript を有効にする

本製品の設定ページには、Web ブラウザの JavaScript 機能を利用している項目があります。もし、この機能を使用しない設定になっている場合、正常にコントロールを行えない場合があります。この場合画面上に以下のようなメッセージを表示してお知らせします。JavaScript を有効にする方法は、次ページ以降の設定手順をご覧ください。



プロキシの設定

ご使用の Web ブラウザによっては、インターネット／イントラネット接続にプロキシサーバーを介して接続するように設定されている場合があります。このような場合で、ローカルネットワーク内に本製品を設置した場合には、プロキシサーバーの設定を適切に行う必要があります。特に、クロスケーブルを使用して本製品とコンピュータを直接接続する場合や、プロキシサーバーを使用しないネットワーク環境では、「プロキシサーバーを使用しない」に設定されていることをご確認ください。次ページ以降の設定手順を参照ください。

これらの設定手順は Web ブラウザの種類、バージョン、OS などによってそれぞれ異なります。次ページには Windows XP Professional での設定例を記載しますが、これ以外のブラウザや OS については、それぞれの Web ブラウザのヘルプをご覧ください。

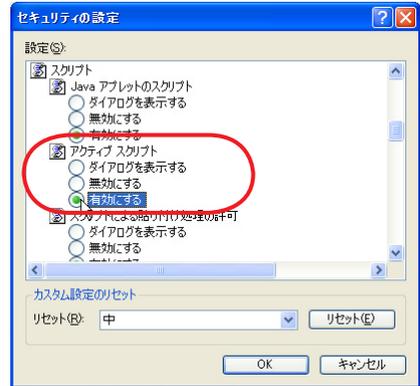
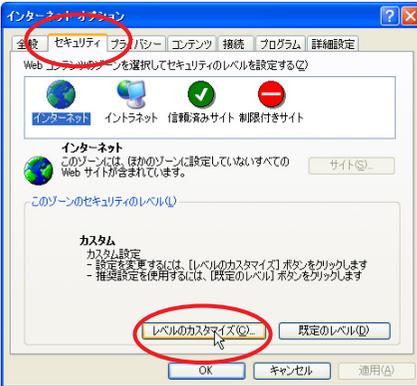
OS/ ブラウザ個別設定例

Windows XP Professional の場合

Internet Explorer v.6.0 の場合

アクティブスクリプトの設定

Web ブラウザのメニューより、ツール / インターネットオプション / セキュリティ / レベルのカスタマイズ ボタンを選択します。以下のウインドウのリストよりスクリプト / アクティブスクリプト項目の「有効にする」のラジオボタンが選択されていることを確認します。



プロキシの設定

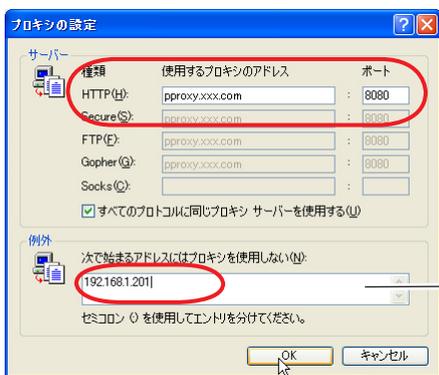
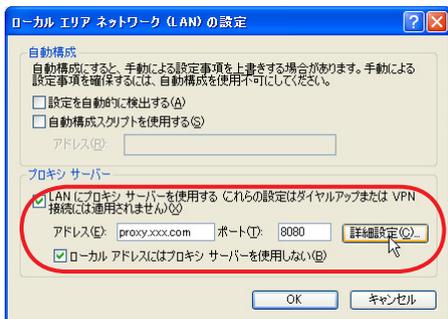
Web ブラウザのメニューより、ツール / インターネットオプション / 接続タブ / LAN の設定ボタンをクリックします。以下のローカルエリアネットワーク（LAN）の設定ウインドウより、使用するプロキシサーバーの設定をプロジェクトターを設置したネットワーク環境に応じて適切に設定してください。

- プロキシサーバーを利用する場合

外部インターネット接続を利用する場合は、「プロキシサーバーを利用する」にチェックを入れプロキシサーバーのアドレス/ポートを設定します。詳細な設定方法につきましては、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

- プロキシサーバーを利用しない場合

（プロジェクトターとコンピュータを直接クロスケーブルで接続して使用する場合）
「プロキシサーバーを利用する」のチェックボックスのチェックを外します。チェックを入れたままではプロジェクトターにアクセスできません。

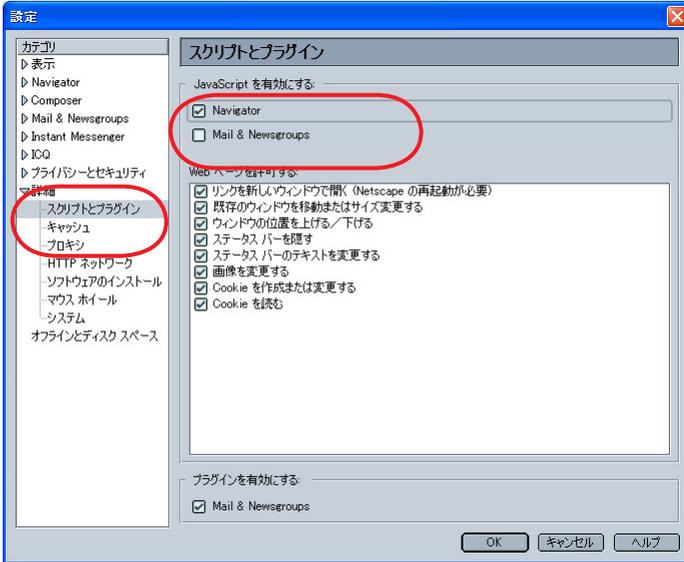


ローカルネットワークに設置されたプロジェクトターにアクセスする場合のみ、プロキシサーバーを介さないように設定するには、ここにその IP アドレスまたはドメイン名を入力します。

Netscape Navigator v.7.0 の場合

JavaScript の設定

Web ブラウザのメニューより、編集 / 設定を選択し、カテゴリ欄の「詳細 / スクリプトとプラグイン」を選択します。スクリプトとプラグインウィンドウより「JavaScript を有効にする :」の項目の Navigator のチェックボックスにチェックが入っていると確認します。



プロキシの設定

Web ブラウザのメニューより、編集 / 設定を選択し、カテゴリ欄の「詳細 / プロキシ」を選択します。プロキシ設定ウインドウより、使用するプロキシサーバーの設定をプロジェクトアーを
設置したネットワーク環境に応じて適切に設定してください。

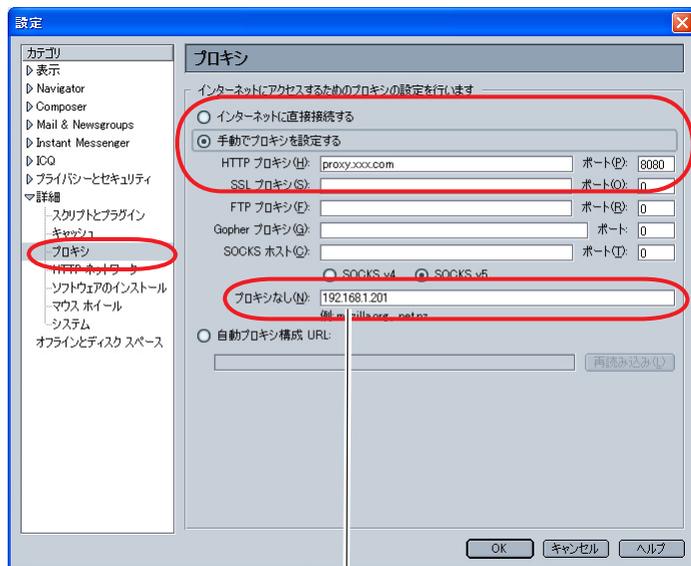
- プロキシサーバーを利用する場合

外部インターネット接続を利用する場合は、「手でプロキシを設定する」を選択し、HTTP
プロキシ (H): にプロキシサーバーのアドレス及びポートを設定します。詳細な設定方法につ
きましては、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

- プロキシサーバーを利用しない場合

(プロジェクトアーとコンピュータを直接クロスケーブルで接続して使用する場合)

「インターネットに直接接続する」項目を選択します。「手でプロキシを設定する」の項目
を選択している場合は、プロジェクトアーにアクセスできません。



ローカルネットワークに設置されたプロジェクトアーにアクセスする場合のみ、プロキシサーバーを介さないように設定するには、ここにその IP アドレスまたはドメイン名を入力します。

製品仕様

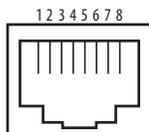
種類	Network Imager (ネットワークイメジャー)	
LAN インターフェース部	準拠規格	IEEE802.3 (10Base-T) IEEE802.3u (100Base-TX)
	データ転送速度	10Mbps/100Mbps
	データ転送モード	半2重/全2重
	コネクタ形状	8ピンモジュラ (RJ-45)
ネットワークプロトコル	TCP/IP 仕様	TCP/IP
シリアルインターフェース部	インターフェース	RS-232C
	通信速度	0.3/1.2/2.4/4.8/9.6/19.2/28.8/57.6/115.2Kbps
	フロー制御方式	ハードウェアフロー制御 (RTS/CTS, Xon/Xoff)
	パリティチェック	奇数/偶数
	コネクタ形状	Dsub 9 ピン オス
電源	プロジェクターより供給	
消費電力	3.0 W	
本体寸法	幅 132 x 高さ 105 x 奥行き 33.6 mm (突起部含まず)	
質量	258 g	
内蔵バッテリー	リチウム電池、型名 CR2032, 3.0V	
動作温度	5℃ ~ 35℃	
保管温度	-10℃ ~ 60℃	

* 本製品の仕様は性能改善のため、予告なく変更することがあります。

ポート仕様

LAN ポート仕様

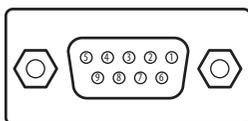
コネクタ形状 (RJ-45 型 8 ピンコネクタ)



ピン番号	信号名	信号機能
1	TX+	送信データ (+)
2	TX-	送信データ (-)
3	RD+	受信データ (+)
4	(未使用)	
5	(未使用)	
6	RD-	受信データ (-)
7	(未使用)	
8	(未使用)	

シリアルポート仕様

コネクタ形状 (RS-232C 型 9 ピンコネクタ オス)



ピン番号	信号名	信号機能
1	CD	キャリア検出
2	RXD	受信データ
3	TXD	送信データ
4	DTR	データ端末レディ
5	アース	アース
6	DSR	データセットレディ
7	RTS	送信要求
8	CTS	送信可能
9	(未使用)	

Q&A

設置／アクセス

Q コンピュータで Web 設定画面が表示されない**A** 以下の可能性があります。

1. ネットワークにプロジェクターが接続されていない。
本製品のインジケータを確認してください。(p.17)
・LINK インジケータ（赤）が点灯していない場合は、LAN ケーブルの接続を確認してください。
・ACT インジケータ（緑）が点滅していない場合は、ネットワークアドレスの設定が間違っている可能性があります。
2. プロジェクター本体のネットワークの機能が「オン」になっていない。
プロジェクター本体の設定メニューで設定します。(p.20)
3. プロジェクターのネットワーク設定が間違っている。
プロジェクターのネットワーク設定を確認してください。確認の方法は、プロジェクターを起動し、メニュー項目から「ネットワーク設定」メニューを選択します。(p.20)
4. コンピュータのネットワーク設定が間違っている。
コンピュータの IP アドレスを確認ください。
5. 本製品の IP アドレスが初期設定のままになっている。(p.20)
6. Web ブラウザのプロキシ設定が適切でない。(p.116)
7. パソコンに TCP/IP プロトコルがセットアップされていない。

Q コンピュータで Web 設定画面が表示されない。原因がネットワークにあるのか、ネットワークユニットにあるのかを確認したい**A** 以下の手順によって確認してください。

1. まず、プロジェクターをネットワークから切り離し、コンピュータとプロジェクターを UTP クロスケーブルで接続します。
2. ネットワークユニットとコンピュータのネットワーク設定を、例えば以下のように変更します。

(ネットワークユニットの設定)		(コンピュータの設定)	
IP アドレス	: 192.168.0.2	IP アドレス	: 192.168.0.5
サブネットマスク	: 255.255.255.0	サブネットマスク	: 255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	: 0.0.0.0	デフォルトゲートウェイ	: (空欄)
DNS	: 0.0.0.0	DNS	: (空欄)

3. Web ブラウザを使用し、アドレス欄にプロジェクターの IP アドレスを入力します。
(注意) ご使用の Web ブラウザにプロキシの設定がされている場合には、プロキシサーバーを使用しないように設定を変更します。詳細は「Web ブラウザの設定」をご覧ください。(☞p.116)
4. ログイン画面が表示される場合には、本製品は正常に機能しています。コンピュータ、または、プロジェクターのネットワークの設定が間違っている可能性があります。「ネットワークの設定」に従って再度設定をご確認ください。(☞p.20)
もし、ログイン画面が表示されない場合には、本製品の取り付けが適切でない可能性があります。「設置とネットワークの設定」に従って、取り付けをご確認ください。(☞p.18, p.19)

Q

プロジェクターにアクセスできるコンピュータを制限したい

A

1. ログイン画面のパスワード機能を利用してアクセスを制限してください。(☞p.30)
2. ゲートウェイ(ルータ)のフィルタリング機能を利用して、アクセスできるコンピュータを制限してください。詳細な方法につきましてはネットワーク管理者へご相談ください。

Q

外部から会社構内のネットワークに設置されたプロジェクターにアクセスしたい

A

以下の方法によってアクセスできます。ただし、セキュリティの問題があるので、ネットワーク管理者に相談してください。

- 電話線による接続

(自宅または出張先などから電話回線を通じて会社のネットワークに接続する)

- 専用線による接続

(支店、本店などから専用線を通じて会社のネットワークに接続する)

- インターネット接続

(自宅、出張先、支店などからインターネットを介して会社のネットワークに接続する)

Q

IP アドレスの取得に DHCP/BOOTP サーバーを利用していますが、このようなネットワーク環境でもネットワークユニットを使用できますか

A

使用できます。ただし、ネットワークユニットは DHCP/BOOTP サーバーには対応していません、必ず手動にて固定 IP アドレスを設定してください。(☞p.24)

Q ネットワークユニットを同一ネットワークに2台以上設置したい

A 1台ずつネットワークに接続して、ネットワークユニットのIPアドレスがぶつからないように、別々のIPアドレスを設定してください。(☞p.24)
IPアドレスの設定のしかたは「ネットワークの設定」の項目を参照してください。(☞p.20)

Q マルチコントロール可能なプロジェクターは何台までですか？

A 理論的には100台までコントロール可能ですが、実際の使用においては、ネットワーク環境に依存します。

暗証番号／ログイン

Q ネットワーク暗証番号を忘れてしまったら

A プロジェクター本体を操作し、ネットワーク/ネットワーク暗証番号メニューから確認して下さい。詳細は「ネットワーク暗証番号の設定」(☞p.22)を参照ください。

Q Webブラウザの「お気に入り」または「ブックマーク」に設定画面を登録したい。

A 「お気に入り」または「ブックマーク」への登録はログイン画面を使用してください。特定のページを登録すると、パスワード認証が正常に行われません場合があります。

操作

Q プロジェクターをコントロールできない

A プロジェクターがスタンバイ状態では、コントロールメニューの設定項目を操作しても、設定は有効になりません。プロジェクターの操作はプロジェクターの電源が入っている必要があります。また、マルチコントロールの対象に登録した場合でも、プロジェクターがスタンバイ状態の場合には、そのプロジェクターの設定を変えることはできません。ただし、タイマー設定は有効に機能します。

Q ブラウザの画面表示に時間がかかる

A 本製品の設定画面の表示スピードはプロジェクターとコンピュータのネットワーク環境に大きく依存します。ネットワークが混み合っている環境では表示に時間がかかることがあります。ネットワーク管理者にご相談ください。また、モード選択画面で、ライトモードを選択することで、表示は早くなります。(☞p.30)

Q 複数のプロジェクターをネットワークに接続しているが、個々を認識するために IP アドレス以外の名前管理したい

A IP アドレスにニックネームをつけて管理可能です。詳細は「マルチ制御機能」の項目を参照ください。(☞p.62)
また、DNS サーバーにプロジェクター名と IP アドレスを登録すれば、そのサーバーを参照しているどのパソコンからでも、そのニックネームでアクセス可能です。詳細はネットワーク管理者へ相談してください。

Q 送信先に登録できる電子メールアドレスは何個までですか？

A 10 個まで登録できます。

Q 警告メールが届かない

A E-mail 設定で登録した、メールアドレス、SMTP サーバーアドレスが間違っていないか確認します。大規模ネットワークにおいてはセキュリティ上の理由から、構内 LAN 以外に設置された SMTP サーバーを利用できないことがあります。この場合、構内に設置された SMTP サーバーを利用ください。詳しくはネットワーク管理者にご相談ください。
(☞p.38)

また、ご使用する SMTP サーバーによっては認証を必要とする場合があります。本製品はこのような SMTP サーバーには対応していません。

その他

Q シリアルポートに接続した機器をコントロールするためのドライバーソフトウェアを開発したい

A 本製品にはドライバーソフトウェアは付属していません。外部機器をコントロールするためには、接続する機器独自に定義されたコマンドと通信条件が明確になっている必要があります。接続する機器のコマンドと通信条件が明確な場合、telnet アプリケーションを使用してコントロールが可能です。「telnet を使う」を参考にしてください。(☞ p.110)

Q telnet を使用してプロジェクターをコントロールすることは可能ですか？

A 可能です。「telnet でプロジェクターをコントロールする」を参考にしてください。(☞ p.112)

Q ファームウェアをバージョンアップしたい

A ファームウェアのバージョンアップは可能です。但し、専用のツールが必要ですのでお買い上げ販売店にご相談ください。ファームウェアのバージョンは、「初期設定」ページの下部に表示されていますのでご確認ください。



Q IP アドレスの設定方法を知りたい**A** TCP/IP でネットワークを構築するときは、ネットワーク機器に IP アドレスを必ず設定します。IP アドレスをネットワーク機器に設定するときにはいくつかの規則があります。

ルール 1

IP アドレスは 1 つのネットワークで 2 つ以上の機器に設定してはいけません。必ず、固有の IP アドレスを各機器に設定します。

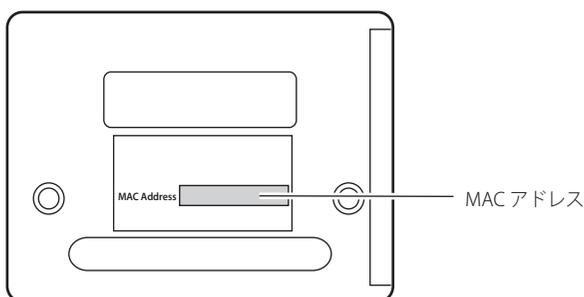
IP アドレスを 192.168. x . x . に設定する場合にはサブネットマスクは、例えば、255.255.255.0 を設定します。

ルール 2

ネットワークアドレスの開始アドレス (xxx.xxx.xxx.0) と終了アドレス (xxx.xxx.xxx.255) はネットワーク機器に割り振ってはいけません

ルール 3

IP アドレスにはネットワーク番号があり、このネットワーク番号が異なると他の機器と通信が出来ません。このような場合には通常ルータなどを設置します。

Q ネットワークユニットの MAC アドレスを知りたい**A** 本製品の MAC アドレスは基盤の裏面に表示されています。ご確認ください。

ネットワークキャプチャー

Q

スクリーン上にコンピュータのスクリーン画面が表示されない

A

1. プロジェクターの入力モードにネットワークが選択されていることを確認して下さい。
2. コンピュータのタスクバー上のキャプチャーアイコンが動作中を表しているか確認してください。(※p.70)
3. パラメータの設定を確認してください。(※p.71)
キャプチャーポートの番号がプロジェクターのポート番号と同じに設定されているか確認して下さい。初期設定では 9000 番に設定されています。「無効なポート番号です」と表示される場合は、指定したポート番号は既に使用されている可能性があります。この場合は、他のポート番号を使用してください。
4. コンピュータの IP アドレスがネットワークユニットに正しく登録されていることを確認して下さい。(※p.72)
5. ご使用のコンピュータにファイアウォール機能が使用されていないことを確認してください。ファイアウォールの機能によってはネットワークユニットが使用するポートを利用できないことがあります。この場合にはファイアウォールの機能を一時的にオフしてください。また、ルーター等のネットワーク中継機器にもポートの通過制限がある場合もあります。詳しくはネットワーク管理者にご相談ください。

ネットワークビューワー

Q

スクリーン上にファイルサーバーからの画像が表示されない

A

1. プロジェクターの入力モードにネットワークが選択されていることを確認して下さい。
2. FTP サーバーのアカウント設定が正しいか確認してください。(※p.99)
3. FTP サーバー上の画像は Network Viewer 3 を使用して最適化された JPEG ファイルでなければなりません。データ形式を確認してください。(※p.89)
4. 画像ファイル名、プログラム名には使用できない記号があります。ファイル名を確認してください。(※p.97)
5. ご使用のコンピュータにファイアウォール機能が使用されていないことを確認してください。ファイアウォールの機能によってはネットワークユニットが使用するポートを利用できないことがあります。この場合にはファイアウォールの機能を一時的にオフしてください。また、ルーター等のネットワーク中継機器にもポートの通過制限がある場合もあります。詳しくはネットワーク管理者にご相談ください。

Q

プログラムファイルを新規作成できない

A

FTP サーバーのアカウントが「書き込み許可」に設定されていることを確認してください。(※p.93)

File Converter1

Q

変換可能なファイル形式はどのような種類がありますか？

A

ビットマップ形式 (.bmp)、JPEG 形式 (.jpg)、Microsoft Power Point 形式 (.ppt) が File Converter1 を使用して JPEG データへ変換可能です。

File Converter2

Q

変換後の画像の周囲に白い枠ができることがある

A

画像データによってはプリンタドライバの周囲マージンによる白い枠ができることがあります。

保証とアフターサービス

■この商品には保証書がついています

保証書は、お買い上げ販売店でお渡します。お買い上げ日、販売店名などの記入をお確かめの上、内容をよくお読みになり大切に保管してください。

■保証期間

保証期間はお買い上げ日より1年間です。

■修理サービスのご相談

修理サービスのご相談は、お買い上げの販売店または下記弊社お客様相談センターにご相談ください。

■修理を依頼される前に

123 ページの「Q&A」にそって故障かどうかをお確かめください。

それでも直らない場合は、ただちに電源プラグをコンセントから抜き、修理をご依頼ください。

■修理を依頼されるときにご連絡いただきたいこと

- お客様のお名前
- ご住所、お電話番号
- 商品の品番、機番
- 故障の内容（できるだけ詳しく）

■補修用性能部品について

保守サービスの為に必要な補修用性能部品の最低保有期間は、製品の製造打ち切り後7年間です。（補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。）

【修理方法】

本製品は、引取修理させていただきます。

お客様先に商品を取引にお伺いし、修理完了後にお届けいたします。

〈修理料金〉

保証期間内	引取修理サービス	無償
保証期間終了後	引取修理サービス	有償

※上記、引取修理サービスは、下記弊社お客様相談センターにてサービスをご利用いただいた場合に適用されます。

※引取修理サービスは、国内のみのお取り扱いとなります。

Canon

お客様相談センター（全国共通番号）



050 - 555 - 90071

【受付時間】〈平日〉9:00～12:00、13:00～17:00

（土日祝日、年末年始および弊社休業日は休ませていただきます）

※上記番号をご利用いただけない方は043-211-9348をご利用下さい。

※上記番号はIP電話プロバイダーのサービスによりつながらない場合があります。

※受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめ御了承ください。